広島商船高等専門学校	一般教科	開講年度	平成31年度 (2019年度)

学科到達目標

人文・社会・自然科学の基礎知識を修得し、人間力・規範意識および広い視野・素養を身につけて地域や国際社会で活躍できる人を目指す。
（1）保健・体育、芸術や社会科学の科目を学び、豊かな心・規範意識や人間力を養い、他者や社会の多様な状況を理解できる知識を身につける。
（2）国語や英語の科目を学び、地域や国際社会で活躍するための理解力やコミュニケーション基礎力を身につける。
（3）数学、物理や化学の科目を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門科目を理解できる能力を身につける。

科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																		担当教員	履修上の区分
						1年				2年				3年				4年				5年					
						前		後		前		後		前		後		前		後		前		後			
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
一般	必修	現代文Ⅰ	1911001	履修単位	2	2	2																		朝倉 和	
一般	必修	古典Ⅰ	1911002	履修単位	1			2																	朝倉 和,山下 航正	
一般	必修	地理	1911003	履修単位	2	2	2																		朝倉 和	
一般	必修	歴史	1911004	履修単位	2	2	2																		小河 浩	
一般	必修	政治経済	1911005	履修単位	2	2	2																		澤田 大吾	
一般	必修	数学ⅠA	1911006	履修単位	2	2	2																		平井 剛和	
一般	必修	数学ⅠB	1911007	履修単位	2	2	2																		川崎 雄貴	
一般	必修	数学ⅠC	1911008	履修単位	2	2	2																		平井 剛和,川崎 雄貴	
一般	必修	物理	1911009	履修単位	1			2																	藤原 滋泰	
一般	必修	理科総合	1911010	履修単位	2	2	2																		大沼 みお	
一般	必修	芸術	1911011	履修単位	1	2																			朝倉 和	
一般	必修	総合英語Ⅰ	1911012	履修単位	4	4	4																		上杉 鉛一	
一般	必修	英語表現Ⅰ	1911013	履修単位	2	2	2																		桑田 明広,前田 弘隆,上杉 鉛一,江原 智子,朝倉 和	
一般	必修	保健体育Ⅰ	1911014	履修単位	2	2	2																		橋本 真	
一般	必修	基礎実習	1911015	履修単位	2	2	2																		朝倉 和	
一般	必修	現代文Ⅱ	1921001	履修単位	2					2	2														山下 航正	
一般	必修	古典Ⅱ	1921002	履修単位	1					2															朝倉 和,山下 航正	
一般	必修	歴史	1921003	履修単位	2					2	2														小河 浩	
一般	必修	数学ⅡA	1921004	履修単位	2					2	2														平井 剛和	
一般	必修	数学ⅡB	1921005	履修単位	2					2	2														菅田 慶	
一般	必修	数学ⅡC	1921006	履修単位	2					2	2														菅田 慶,平井 剛和	
一般	必修	物理	1921007	履修単位	2					2	2														藤原 滋泰	
一般	必修	理科総合	1921008	履修単位	2					2	2														大沼 みお	
一般	必修	総合英語Ⅱ	1921009	履修単位	4					4	4														江原 智子	
一般	必修	英語表現Ⅱ	1921010	履修単位	2					2	2														桑田 明広	
一般	必修	保健体育Ⅱ	1921011	履修単位	2					2	2														橋本 真	

一般	必修	国語I	1931001	履修単位	2								2	2											山下 航正	
一般	必修	数学IIIA	1931002	履修単位	2								2	2											菅田 慶	
一般	必修	数学IIIB	1931003	履修単位	2								2	2											川崎 雄貴	
一般	必修	物理（M3）	1931004	履修単位	2								2	2											藤原 滋泰	
一般	必修	物理（C3）	1931005	履修単位	3								3	3											藤原 滋泰	
一般	必修	物理（D3）	1931006	履修単位	1								2												藤原 滋泰	
一般	必修	理科総合（M3）	1931007	履修単位	1									2											大沼 みお	
一般	必修	理科総合（D3）	1931008	履修単位	2								2	2											大沼 みお	
一般	必修	総合英語III	1931009	履修単位	3								3	3											江原 智子,朝倉 和	
一般	必修	英語表現III	1931010	履修単位	2								2	2											上杉 鉛一,前田 弘隆	
一般	必修	体育・スポーツⅠ	1931011	履修単位	2								2	2											柴山 慧	
一般	必修	国語Ⅱ	1941001	履修単位	1												2								朝倉 和	
一般	必修	社会特論（M）	1941002	履修単位	1												2								澤田 大吾	
一般	必修	社会特論（C・D）	1941003	履修単位	1													2							澤田 大吾	
一般	必修	発展英語Ⅰ（M）（下田）	1941004	履修単位	2												4								上杉 鉛一,江原 智子,下田 旭美	
一般	必修	発展英語Ⅰ（M）	1941005	履修単位	2												4								下田 旭美	
一般	必修	発展英語Ⅰ（C・D）	1941006	履修単位	2												2	2							上杉 鉛一,江原 智子,前田 弘隆,下田 旭美	
一般	必修	体育・スポーツⅡ（M）	1941007	履修単位	1												2								柴山 慧	
一般	必修	体育・スポーツⅡ（C・D）	1941008	履修単位	2												2	2							柴山 慧	
一般	必修	文学と思想	1951001	履修単位	1																			2	朝倉 和	
一般	必修	社会特論	1951002	履修単位	2																	2	2		小河 浩,澤田 大吾	
一般	必修	英語C（M）	1951003	学修単位	2																	1	1		前田 弘隆	
一般	必修	英語C（C）	1951004	学修単位	2																	1	1		朝倉 和	
一般	必修	英語C（D）	1951005	学修単位	2																	1	1		朝倉 和	
一般	必修	体育（M）	1951006	履修単位	2																	2	2		柴山 慧	
一般	必修	体育（C・D）	1951007	履修単位	1																			2	柴山 慧,橋本 真	
一般	選択	中国語	1951008	学修単位	2																	1	1		雷 康斌,朝倉 和	
一般	選択	独語	1951009	学修単位	2																	1	1		桑田 明広	
一般	選択	仏語	1951010	学修単位	2																	1	1		前田 弘隆	

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	現代文Ⅰ

科目基礎情報

科目番号	1911001	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	『新 探求国語総合　現代文・表現編』（桐原書店）、『常用漢字　ダブルクリア　三訂版』（尚文出版）。その他、必要に応じて配布する。		
担当教員	朝倉 和		

到達目標

(1)論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。
(2)論理的な文章の代表的構成法を理解できる。
(3) 代表的な文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。
(4)文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。
(5)読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	難解な論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。	基本的な論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。	論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解したり、要約したり、意見を表すことができない。
評価項目2	論理的な文章の構成法の大半を理解し、説明もできる。	論理的な文章の代表的構成法を理解できる。	論理的な文章の代表的構成法が理解できない。
評価項目3	幅広く文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。	代表的な文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。	代表的な文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わったり、その効果について説明できない。
評価項目4	難解な文章でも客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	基本的な文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	文章を客観的に理解することや、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができない。
評価項目5	自ら進んで、読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	読書習慣の形成をとおして感受性を培ったり、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	現代文（評論、小説、詩等）や表現単元を通して、内容を文章に即して理解し、相手に自己を表現できるようになることを、目標とする。われわれ人間と「ことば」とは、決して切り離せないものである。事実、相手との意思疎通、知識・技術の獲得と提供、自身の思考、いわゆる「コミュニケーション」と言われる活動のいずれも、「ことば」を用いないものはない。そして、これら「コミュニケーション」活動はすべて、「理解」と「表現」とを土台としている。評論や小説、随想といった「表現」に触れ、その内容を適切に「理解」すること。また、相手に「理解」されやすい「表現」を心がけていくこと。授業を通じて「コミュニケーションスキル」基礎力を養い、よき「理解」者・よき「表現」者となることができるよう、意識的かつ意欲的な取り組みを期待したい。
授業の進め方・方法	（1）随時、読書タイムや漢字小テストを行う。 （2）読書感想文などの文章表現、読書メモ等の課題を出すことがある。 （3）ノートの取り方や予復習、試験対策等についてはガイダンスにおいて説明する。
注意点	（1）板書記録用のノートまたはルーズリーフの他に、プリント保管用のファイルや国語事典、漢和辞典を持参することが望ましい。 （2）学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1 随想 沢木耕太郎「旅する力」	1-(1) 「随想」が「評論」的性格と「小説」的性格とを有していることが理解できる。 1-(2) 作者の物の見方・考え方・感じ方を理解できる。 1-(3) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解くことができる。
		2週	同上	同上
		3週	同上	同上
		4週	同上	同上
		5週	2 評論 原研哉「マヨネーズの穴から」、大井玄「環境世界」	2-(1) 段落構成や、作品の主題を押さえることができる。 2-(2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解くことができる。 2-(3) 主要な見解をつかむ。対比構造に着目する。
		6週	同上	同上
		7週	同上	同上
		8週	前期中間試験 答案返却・解説	
	2ndQ	9週	3 小説 芥川龍之介「羅生門」	3-(1) 登場人物の心情の変化を追いつつ、作品のテーマを押さえることができる。 3-(2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解くことができる。
		10週	同上	同上
		11週	同上	同上

		12週	同上	同上
		13週	同上	同上
		14週	4 評論 中村桂子「紫外線」、川田順造「人類学から見た言語」	4-(1) 段落構成や、作品の主題を押さえることができる。 4-(2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解くことができる。 4-(3) 具体例の働きをつかむ。見解の根拠をつかむ。
		15週	同上	同上
		16週	前期期末試験 答案返却・解説	
後期	3rdQ	1週	5 評論 鷲田清一「わかろうとする姿勢」	5-(1) 段落構成や、作品の主題を押さえることができる。 5-(2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解くことができる。
		2週	同上	同上
		3週	同上	同上
		4週	同上	同上
		5週	6 短歌・俳句 種田山頭火と大崎上島	6-(1) 語句に注目して情景を捉える。 6-(2) 様々な表現技法について理解する。 6-(3) 作品に詠み込まれた「ものの見方」を理解し、味わう。
		6週	同上	同上
		7週	同上	同上
		8週	後期中間試験 答案返却・解説	
	4thQ	9週	7 随想 星野道夫「アリューシャン、老兵の夢と闇」	7-(1) 「随想」が「評論」的性格と「小説」的性格とを有していることが理解できる。 7-(2) 作者の物の見方・考え方・感じ方を理解できる。 7-(3) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解くことができる。
		10週	同上	同上
		11週	同上	同上
		12週	同上	同上
		13週	8 評論 與那覇潤「グローバル化と「文脈」」、内山節「ゆらぎ」等	8-(1) 段落構成や、作品の主題を押さえることができる。 8-(2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解くことができる。 8-(3) 接続表現。指示表現。効果的な表現。キーフレーズ。
		14週	同上	同上
		15週	同上	同上
		16週	学年末試験 答案返却・解説	

評価割合

	試験	小テスト	レポート・課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	20	0	0	0	100
基礎的能力	70	10	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	古典Ⅰ

科目基礎情報

科目番号	1911002	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教科	対象学年	1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	『新　探求国語総合　古典編』（桐原書店）、『古典文法クリアノート』（尚文出版）。		
担当教員	朝倉 和,山下 航正		

到達目標

(1)代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。
(2)古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。
(3)代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。
(4)教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	幅広く古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	基礎的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解したり、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができない。
評価項目2	古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができ、それを踏まえた音読・朗読ができる。	古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。	古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができない。
評価項目3	幅広い古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。	代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。	基礎的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解したり、作品の意義について意見を述べることができない。また、それらに親しもうとすることができない。
評価項目4	教材として取り上げた作品以外についても、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	古文・漢文の基礎知識を押さえることからスタートする。その後、短めの古文と漢文を読解することにより、日本文化や中国文化の源流を探り、現在の国際社会に対応できる広い視野と素養を養成する。また、我が国や中国の古人独特の物の見方、考え方、感じ方の理解に努めることによって、コミュニケーション基礎力を養成する。
授業の進め方・方法	「授業計画」を参照のこと。
注意点	（1）随時、古典文法や、漢文の訓読に関する小テストを行う。 （2）ノートの取り方は事前に指導するので、毎回、授業範囲分の教科書の本文を写してくること。 （3）電子辞書や古語辞典、漢和辞典を持参することが望ましい。 （4）学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	古文の基礎	(1) 五十音図といろは歌 を理解できる。 (2) 歴史的仮名遣いと発音 が理解できる。 (3) ことばの単位と品詞、品詞分解・自立語・付属語 が理解できる。 (4) 活用と活用形のはたらき、動詞の活用の種類の見分け方 が理解できる。 (5) 変格活用（カ変・サ変・ナ変・ラ変）・上一段活用・下一段活用 を理解できる。 (6) 四段活用・上二段活用・下二段活用 を理解できる。
		2週	同上	同上
		3週	同上	同上
		4週	「児のそら寝」（宇治拾遺物語）	(1) 歴史的仮名遣いに注意しながら発音する。 (2) 古文の特徴に注意しながら読解する。重要単語・文法事項を注意する。 (3) 場面に応じた登場人物の心情を把握する。 (4) 口語訳を通じて、我が国の古人の物の見方、考え方、感じ方を知る。
		5週	同上	
		6週	同上	
		7週	同上	
		8週	後期中間試験 試験返却・解説	
	4thQ	9週	漢文の基礎	(1) 訓読に親しむⅠ―送り仮名と句読点、返り点、訓点と書き下し文 を理解できる。 (2) 訓読に親しむⅡ―再読文字と助字 を理解できる。

		10週	同上	同上
		11週	同上	同上
		12週	「推敲」（唐詩紀事） 「漁夫之利」（戦国策）	(1) 書き下し文を正しく書くことによって、漢文に慣れることができる。 (2) 口語訳を通じて、中国の古人の物の見方、考え方、感じ方を知ることができる。 (3) 故事成語の由来を理解することができる。 (4) ビデオ鑑賞（故事成語）
		13週	同上	同上
		14週	同上	同上
		15週	同上	同上
		16週	学年末試験 試験返却・解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	20	0	0	0	100
基礎的能力	70	10	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	地理

科目基礎情報

科目番号	1911003	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	『地理Ａ』(東京書籍)、『新高等地図』(東京書籍)		
担当教員	朝倉 和		

到達目標

(1)世界の地形とその特徴について理解できる。
(2)各気候の特徴と人々の生活の関係について理解できる。
(3)人間と文化の関係について理解できる。
(4)世界各地の生活や文化を理解することができる。
(5)国内外で起こる多様な事象を学習内容に基づいて理解することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	世界の地形とその特徴についての発展的な知識を理解することができる。	世界の地形とその特徴についての基本的な知識を理解することができる。	世界の地形とその特徴についての基本的な知識を理解することができない。
評価項目2	各気候の特徴と人々の生活の関係を理解し、比較することができる。	各気候の特徴と人々の生活の関係を理解することができる。	各気候の特徴と人々の生活の関係を理解することができない。
評価項目3	人間と文化の関係についての発展的な知識を理解することができる。	人間と文化の関係についての基本的な知識を理解することができる。	人間と文化の関係についての基本的な知識を理解することができない。
評価項目4	世界各地の様々な生活や文化を理解し、比較することができる。	世界各地の様々な生活や文化を個々に理解することができる。	世界各地の様々な生活や文化を個々に理解することができない。
評価項目5	国内外や地域で起こる多様な事象を学習内容に基づいて理解し、主体的に考えることができる。	国内外や地域で起こる多様な事象を学習内容に基づいて理解することができる。	国内外や地域で起こる多様な事象と学習内容を結び付けることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1)地理の科目を学ぶことで、その視点から人間、社会、文化、地域について理解できる授業を行う。 (2)地理に関する基本的な知識及び考え方を学ぶ。 (3)世界各地の生活や文化を学ぶ。 (4)国内外で起こる多様な事象について学ぶ。 (5)2～5年次の発展的な社会系科目の学習に対応できるようにする。
授業の進め方・方法	講義とレポート課題
注意点	(1)シラバスの項目・内容を確認して、教科書等で予習をしておくこと。 (2)世界情勢の動きに対応して、若干の授業内容の変更があり得る。新聞やニュースなどの報道について留意することが望ましい。 (3)学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1．地球儀や地図からとらえる世界	"1-(1) 地球儀と地図について理解する。 1-(2) 時差について理解し、時差計算ができる。 1-(3) 国家の三要素と国境について理解する。"
		2週		
		3週	2．世界的視野から見た自然環境と文化(1)	"2-(1) 変動帯と安定大陸の地形と生活について理解する。 2-(2) 川に沿って見る地形の変化について理解する。 2-(3) 大気の大循環と地域による気候の違いについて理解する。 2-(4) 世界の気候と植生について理解する。"
		4週		
		5週		
		6週		
		7週	前期中間試験	
		8週	答案返却と解説	
	2ndQ	9週	3．世界的視野から見た自然環境と文化(2)	"3-(1) 熱帯の特徴と人々の生活について理解する。 3-(2) 乾燥帯の特徴と人々の生活について理解する。 3-(3) 温帯の特徴と人々の生活について理解する。 3-(4) 冷帯・寒帯の特徴と人々の生活について理解する。 3-(5) 高山気候の特徴と人々の生活について理解する。 3-(6) 生活の様式としての文化について理解する。"
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週	前期末試験	
		16週	答案返却と解説	
後期	3rdQ	1週	4．諸地域の生活・文化と環境(1)	"4-(1) 東アジアの生活・文化と環境について理解できる。 4-(2) 東南アジアの生活・文化と環境について理解できる。 4-(3) 南アジアの生活・文化と環境について理解できる。 4-(4) 西アジア・北アフリカの生活・文化と環境について理解できる。 4-(5) アフリカ中・南部の生活・文化と環境について理解できる。 4-(6) ヨーロッパの生活・文化と環境について理解できる。 4-(7) ロシアとその周辺諸国の生活・文化と環境について理解できる。"
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週	5．諸地域の生活・文化と環境(2)	"5-(1) 北アメリカの生活・文化と環境について理解できる。 5-(2) 中部・南アメリカの生活・文化と環境について理解できる。 5-(3) オセアニアの生活・文化と環境について理解できる。"
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		

		11週	6. さまざまな地球的課題	"6-(1) 世界の資源・エネルギー問題について理解できる。 6-(2) 世界の人口・食料問題について理解できる。 6-(3) 世界の都市・環境問題について理解できる。 6-(4) 地球的課題について考察できる。"
		12週		
		13週		
		14週		
		15週	学年末試験	
		16週	答案返却と解説	

評価割合

	試験	レポート・課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
基礎的能力	60	40	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	歴史

科目基礎情報

科目番号	1911004	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	『詳説　世界史B　改訂版』(山川出版社、2017年)		
担当教員	小河 浩		

到達目標

(1)先史時代から、オリエント・古代ギリシア=ローマ文明、古代インド、中国文明(モンゴル帝国時代まで)などについて高等学校履修程度の内容が理解できる。
(2)古代インド、中国文明(モンゴル帝国時代まで)について高等学校履修程度の内容が理解できる。
(3)イスラム世界の興隆について高等学校履修程度の内容が理解できる。
(4) 西欧封建社会について高等学校履修程度の内容が理解できる。
(5)上記の時代にあたる日本および地域史について、基礎的な内容が理解できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	先史時代から、オリエント・古代ギリシア=ローマ文明、古代インド、中国文明(モンゴル帝国時代まで)などについて、基礎的な用語が理解できて、内容も説明できる。	先史時代から、オリエント・古代ギリシア=ローマ文明、古代インド、中国文明(モンゴル帝国時代まで)などについて、基礎的な用語が理解できる。	先史時代から、オリエント・古代ギリシア=ローマ文明、古代インド、中国文明(モンゴル帝国時代まで)などについて、基礎的な用語が理解できていない。
評価項目2	古代インド、中国文明(モンゴル帝国時代まで)について、基礎的な用語が理解できて、内容も説明できる。	古代インド、中国文明(モンゴル帝国時代まで)について、基礎的な用語が理解できる。	古代インド、中国文明(モンゴル帝国時代まで)について、基礎的な用語が理解できていない。
評価項目3	イスラム世界の興隆について、基礎的な用語が理解できて、内容も説明できる。	イスラム世界の興隆について、基礎的な用語が理解できる。	イスラム世界の興隆について、基礎的な用語が理解できていない。
評価項目4	西欧封建社会について、基礎的な用語が理解できて、内容も説明できる。	西欧封建社会について、基礎的な用語が理解できる。	西欧封建社会について、基礎的な用語が理解できていない。
評価項目5	上記の時代にあたる日本および地域史について、基礎的な事柄が理解できて、内容も説明できる。	上記の時代にあたる日本および地域史について、基礎的な事柄が理解できる。	上記の時代にあたる日本および地域史について、基礎的な事柄が理解できていない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1)先史時代から、オリエント・古代ギリシア=ローマ文明などについて理解できる。 (2)古代インド、中国文明(モンゴル帝国時代まで)について理解できる。 (3)イスラム世界の興隆について理解できる。 (4)西欧封建社会について理解できる。 (5)上記の時代にあたる日本および地域史について理解できる。
授業の進め方・方法	1年の歴史では、先史時代から世界四大文明、古代ギリシア・ローマ、インド、モンゴル帝国時代までの中国、イスラム世界の成立と展開、西欧封建社会の成立と展開など、主に近代以前の歴史について学習する。グローバル化した世界の展開を理解するのは、語学ばかりでなく、世界の歴史や文化についての幅広い知識が必要である。本学年では、近代以降の歴史・文化的基盤となるより古い段階の日本を含む世界史を主に講義形式で学ぶ。
注意点	(1)シラバス内容に照らし合わせて予習をしてくること。 (2)課題などは必ず期限内に提出すること。 (3)学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1.先史時代から、オリエント	ガイダンス 1-(1) 先史の世界について理解できる。
		2週	1.先史時代から、オリエント	1-(2)古代オリエント文明について理解できる 。
		3週	1.先史時代から、オリエント	1-(3)古代エジプト文明について理解できる。
		4週	2.地中海東岸の世界・古代ギリシア文明	2-(1)ヘブライ人の文明について理解できる 。
		5週	2.地中海東岸の世界・古代ギリシア文明	2-(2) ユダヤ教の成立について理解できる。
		6週	2.地中海東岸の世界・古代ギリシア文明	2-(3)古代ギリシア文明、科学、哲学など全般について理解できる 。
		7週	前期中間試験	中間試験
		8週	3.古代ローマ文明、古代インド文明	答案返却・解説 3-(1)共和政期ローマについて理解できる 。
	2ndQ	9週	3.古代ローマ文明、古代インド文明	3-(2)帝政ローマについて理解できる 。
		10週	3.古代ローマ文明、古代インド文明	3-(3)キリスト教の成立と発展について理解できる 。
		11週	3.古代ローマ文明、古代インド文明	3-(4)古代インダス文明の発祥について理解できる 。
		12週	3.古代ローマ文明、古代インド文明	3-(5)古代インド統一王朝、仏教の成立と発展について理解できる 。
		13週	4.中国とイスラム世界	4-(1) 黄河文明の成立について理解できる。
		14週	4.中国とイスラム世界	4-(2) 殷から漢代、文化、古典思想まで理解できる。
		15週	4.中国とイスラム世界	4-(3) 中国の分裂時代と日本の曙まで理解できる。

		16週	前期末試験	前期末試験
後期	3rdQ	1週	4.中国とイスラム世界	答案返却と解説 4-(4) 隋・唐・宋と地域の関わりについて理解できる。
		2週	4.中国とイスラム世界	4-(5) モンゴル帝国時代と日本について理解できる 。
		3週	4.中国とイスラム世界	4-(6) イスラム教の成立について理解できる。
		4週	4.中国とイスラム世界	4-(7) 正統カリフ時代からイスラム帝国時代まで理解できる。
		5週	4.中国とイスラム世界	4-(8) イスラム世界の分裂からトルコ人のイスラム化まで理解できる。
		6週	4.中国とイスラム世界	4-(9) アフリカ、アジアのイスラム世界について理解できる。
		7週	4.中国とイスラム世界	4-(10)イスラム文明について理解できる 。
		8週	5.西欧封建社会	5-(1)ゲルマン人の大移動について理解できる 。
	4thQ	9週	5.西欧封建社会	5-(2) フランク王国と東ヨーロッパ世界について理解できる。
		10週	5.西欧封建社会	5-(3) ローマ=カトリック教会の成立について理解できる 。
		11週	後期中間試験	後期中間試験
		12週	5.西欧封建社会	答案返却と解説 5-(4) 西欧封建社会の成立について理解できる。
		13週	5.西欧封建社会	5-(5) 十字軍運動、自治都市の成立などについて理解できる 。
		14週	5.西欧封建社会	5-(6) 西欧封建社会の変容について理解できる 。
		15週	5.西欧封建社会	5-(7)西欧封建社会の文化について理解できる。
		16週	学年末試験	学年末試験、答案返却と解説

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	課題	合計
総合評価割合	70	0	0	15	0	15	100
基礎的能力	50	0	0	15	0	15	80
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	政治経済

科目基礎情報

科目番号	1911005	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	政治・経済（東京書籍）		
担当教員	澤田 大吾		

到達目標

(1)日本の政治経済の基本事項を理解する。
(2)日本国憲法を理解し、民主政治の諸問題を主体的に解決できるようにする。
(3)日々起こる出来事を主体的に理解し分析する力を得る。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	政治経済の諸問題を理解し主体的な行動がとれる	政治経済の諸問題を理解できる	政治経済の諸問題を理解できない
評価項目2	憲法を理解して民主社会の一員として主体的の行動できる	憲法が理解できる	憲法が理解できない
評価項目3	日々のニュースが理解できる（ニュース検定準２級以上がとれる）	日々のニュースがわかる（ニュース検定3級以上がとれる）	日々のニュースが理解できない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	日本のみならず世界の政治・経済・文化など様々な知識を習得し、多様な価値観を理解する。前期では、民主政治の基本原理と日本国憲法の基本原理を学習する。後期では、日本の政治機構そして国際政治について学び、戦後の日本政治経済史を統括する。またニュース検定本を副テキストとして採用し、現代のリアルな時事問題を理解する。また地域経済の具体化として大崎上島についての経済を学習する。
授業の進め方・方法	1)授業は検定教科書を中心に講義方式で行う (2)ニュース検定の副教材も常に準備しておく (3)11月のニュース検定を受験し合格を目指す (4)夏休みの課題として「税に関する作文」の提出を目指す
注意点	1年間を通してノート作成をする作業を身につける。また学習した内容をアウトプットする機会としてニュース検定を受講することを進める。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	民主政治の基本原理	民主政治の成立を理解する
		2週	民主政治の基本原理	法の支配を理解する
		3週	民主政治の基本原理	基本的人権の確立を理解する
		4週	民主政治の基本原理	現代の民主政治を理解する
		5週	中間テストと返却	今まで学んだことのアウトプット
		6週	民主政治の基本原理	現代の民主政治を理解する
		7週	日本国憲法の基本原理	明治憲法の制定を理解する
		8週	日本国憲法の基本原理	明治憲法の内容を理解する
	2ndQ	9週	日本国憲法の基本原理	日本国憲法制定を理解する
		10週	日本国憲法の基本原理	基本的人権の保障を理解する
		11週	日本国憲法の基本原理	平和主義を理解する
		12週	日本国憲法の基本原理	精神の自由と判例
		13週	日本国憲法の基本原理	学問の自由・表現の自由と判例
		14週	日本国憲法の基本原理	信教の自由と判例
		15週	前期末試験と返却	経済的自由と判例
		16週	後期にむけて	前期のまとめと後期での取り組み
後期	3rdQ	1週	日本国憲法の基本原理	夏休み課題テストと前期のまとめ
		2週	日本国憲法の基本原理	社会権と判例
		3週	日本国憲法の基本原理	自衛隊の成立過程
		4週	日本国憲法の基本原理	自衛隊と憲法9条（判例）
		5週	日本の政治機構	国会と立法を理解する
		6週	日本の政治機構	内閣と行政を理解する
		7週	中間テストと返却	これまでのまとめ
		8週	日本の政治機構	裁判所と司法を理解する
	4thQ	9週	現代の国際政治	国際関係と国際法を理解する
		10週	現代の国際政治	国際社会の組織化と変容を理解する
		11週	現代の国際政治	国際政治の動向と課題を理解する
		12週	戦後日本政治経済史	終戦から朝鮮戦争まで
		13週	戦後日本政治経済史	高度経済成長期からオイルショックまで
		14週	戦後日本政治経済史	バブル経済まで
		15週	戦後日本政治経済史	現代政治の問題点と総まとめ
		16週	学年末試験と返却	試験の返却

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	210	30	30	0	0	30	300
基礎的能力	70	10	10	0	0	10	100
専門的能力	70	10	10	0	0	10	100
分野横断的能力	70	10	10	0	0	10	100

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	数学ＩA

科目基礎情報

科目番号	1911006	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	新基礎数学（大日本図書）、新基礎数学問題集（大日本図書）		
担当教員	平井 剛和		

到達目標

(1)いろいろな数式の計算ができる。
(2)いろいろな方程式・不等式が解ける。
(3)いろいろな関数のグラフがかける。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
整式の計算	整式の四則計算、展開、因数分解の発展的な式変形ができる。	整式の四則計算、展開、因数分解の基礎的な式変形ができる。	整式の四則計算、展開、因数分解の基礎的な式変形ができない。
いろいろな数	実数や複素数の意味を理解し、その複雑な四則計算ができる。	実数や複素数の意味を理解し、その四則計算ができる。	実数や複素数の意味を理解できない。または、その四則計算もできない。
方程式の解法	2次方程式など様々な方程式の意味を理解し、様々な応用的な活用ができる。	2次方程式など様々な方程式の意味を理解し、解くことができる。	2次方程式など様々な方程式の意味を理解できない。または、解くことができない。
2次関数	2次関数のグラフを用いて2次不等式を解くことができる。	2次関数のグラフをかくことができ、グラフを利用して2次不等式を解くことができる。	2次関数のグラフをかくことができず、グラフを利用して2次不等式を解くことができない。
いろいろな関数	関数に一般論を理解できる。	偶関数、奇関数およびグラフの平行移動が理解でき、べき関数のグラフをかくことができる。	偶関数、奇関数およびグラフの平行移動が理解できず、べき関数のグラフをかくことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1)数学の科目を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門科目を理解できる能力を身につける授業を行う。 (2) 基本的な計算技術の定着と、方程式や不等式への理解を深めることを目標とする。 (3) 2次関数などの初等的関数の性質を理解することを目標とする。 (4) 中学校で学習した内容をさらに深め、2年次、3年次の数学、専門科目の学習に対応できるようにする。
授業の進め方・方法	教科書の内容に沿った演習中心の授業を行う。また、授業で習った内容を課題として出題する。
注意点	(1) 今後学ぶ数学や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・問題集などを活用して主体的に学習すること。 (3) 復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	整式の加法・減法	整式の意味を理解し、整式の整理が出来る。
		2週	整式の加法・減法	整式の加減乗除の計算ができる。
		3週	整式の乗法	整式の展開ができる。
		4週	整式の乗法	公式を用いて整式の展開ができる。
		5週	因数分解	中学校で学んだ因数分解ができる。
		6週	前期中間試験	
		7週	因数分解	たすき掛けを用いた因数分解ができる。
		8週	因数分解	2つ以上の文字を含むたすき掛けを用いた因数分解ができる。
	2ndQ	9週	整式の除法	整式の商と余りを求めることができる。
		10週	整式の除法	数や整式の最大公約数と最小公倍数を求めることができる。
		11週	剰余の定理	剰余の定理を利用して、整式の余りを計算できる。
		12週	因数定理	因数定理を用いて高次関数の因数分解ができる。
		13週	分数式の計算	分数式を既約分数に直すことができ、分数式の四則演算の計算ができる。
		14週	分数式の計算	繁分数を簡単にすることができる。
		15週	前期末試験	
		16週	分数式の計算	整式の商と余りを用いて分数式を変形できる。
後期	3rdQ	1週	実数	自然数、整数、有理数、無理数について理解できる。
		2週	平方根	平方根の理解が出来て、有理化などの計算ができる。
		3週	複素数	複素数の定義を理解し複素数の計算ができる。
		4週	2次方程式	2次方程式の解の公式が使える。
		5週	2次方程式	解と係数の関係、判別式を用いて解の判別ができる。
		6週	2次方程式	無理方程式・分数方程式を解くことができる。
		7週	恒等式	恒等式と方程式の違いを区別できる。
		8週	2次関数のグラフ	2次関数を標準形に直してグラフをかくことができる。

	4thQ	9週	2次関数のグラフ	2次関数のグラフの最大値・最小値を求めることができる。
		10週	2次関数のグラフ	判別式を用いて2次関数とx軸の共有点を調べることができる。
		11週	後期中間試験	
		12週	2次不等式	2次関数のグラフを用いて2次不等式を解くことができる。
		13週	2次不等式	2次関数のグラフを用いて2次不等式を解くことができる。
		14週	いろいろな関数	偶関数と奇関数、平行移動されたグラフの関係が理解できる。
		15週	いろいろな関数	べき関数のグラフがかける。
		16週	学年末試験	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	10	5	5	20	0	100
基礎的能力	40	10	5	5	20	0	80
専門的能力	15	0	0	0	0	0	15
分野横断的能力	5	0	0	0	0	0	5

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	数学ＩＢ

科目基礎情報

科目番号	1911007	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	新基礎数学（大日本図書）、新基礎数学問題集（大日本図書）		
担当教員	川崎 雄貴		

到達目標

(1) 順列・組合せの総数の求め方を理解し、それらを利用して様々な場合の数を求められる。
(2) 連立方程式・不等式の意味を理解し、１次の連立方程式・不等式が解ける。
(3) 数列の概念を理解し、いろいろな数列の計算ができる。
(4) 三角比の意味を理解し、三角形の辺の長さと面積の計算ができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	場合の数、順列、組合せの複雑な計算ができる。	場合の数、順列、組合せの基本的な計算ができる。	場合の数、順列、組合せの計算ができない。
評価項目2	連立方程式・不等式の意味を理解し、3元連立１次方程式・１次不等式を解くことができる。	連立方程式・不等式の意味を理解し、基本的な3元連立１次方程式・１次不等式を解くことができる。	連立方程式・不等式の意味が理解できない。または、基本的な3元連立１次方程式・１次不等式を解くことができない。
評価項目3	等差数列・等比数列・Σのやや複雑な計算ができる。漸化式の意味を理解している。	等差数列・等比数列・Σの基本的な計算ができる。漸化式の意味を理解している。	等差数列・等比数列の計算ができない。
評価項目4	三角比の意味を理解し、三角形の辺の長さ、角の大きさ、面積の計算ができる。	三角比を用いた基本的な計算ができる。	三角比の値を求めることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1) 数学の科目を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門科目を理解できる能力を身につける授業を行う。 (2) 場合の数、数列の計算を解けることを目標とする。 (3) 連立方程式・不等式の性質を理解し、1次の連立方程式・不等式が解けることを目標とする。 (4) 三角比の意味と図形の計量を学ぶ。 (5) 中学校で学習した内容をさらに深め、2年次、3年次の数学、専門科目の学習に対応できるようにする。
授業の進め方・方法	(1) 今後学ぶ数学や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・問題集などを活用して主体的に学習すること。 (3) 復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	場合の数	積の法則と和の法則の違いを理解している。
		2週	場合の数	順列の基本的な計算ができる。
		3週	場合の数	順列、重複順列の問題が解ける。
		4週	場合の数	組合せの基本的な計算ができる。
		5週	場合の数	組合せの問題が解ける。
		6週	場合の数	同じものを含む順列、円順列の問題が解ける。
		7週	前期中間試験・答案返却・解説	
		8週	連立方程式	基本的な3元１次連立方程式を解くことができる。
	2ndQ	9週	不等式	基本的な１次不等式を解くことができる。
		10週	数列	数列の一般項が理解できる。
		11週	数列	等差数列の一般項と和を求めることができる。
		12週	数列	等比数列の一般項と和を求めることができる。
		13週	数列	総和記号Σの意味が理解できる。
		14週	数列	総和記号を用いた基本的な数列の和を計算することができる。
		15週	数列	基本的な漸化式の問題が解ける。
		16週	前期末試験・答案返却・解説	
後期	3rdQ	1週	三角比	三角比の値を求めることができる。
		2週	三角比	三角比の値を求めることができる。
		3週	三角比	三角比を利用した問題が解ける。
		4週	三角比	鈍角の三角比の値を求めることができる。
		5週	三角比	三角比の相互関係を理解できる。
		6週	三角比	正弦定理を理解できる。
		7週	三角比	余弦定理を理解できる。
		8週	後期中間試験・答案返却・解説	
	4thQ	9週	三角比	正弦定理の応用問題が解ける。
		10週	三角比	余弦定理の応用問題が解ける。

		11週	三角比	三角形の面積を求めることができる。
		12週	三角比	一般角を理解している。
		13週	三角比	一般角の三角関数の値を求めることができる。
		14週	三角比	孤度法を理解し、角を弧度法で表現することができる。
		15週	三角比	弧度法で表された角の三角関数の値を求めることができる。
		16週	後期中間試験・答案返却・解説	

評価割合

	試験	小テスト	課題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	20	0	0	0	100
基礎的能力	70	10	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	数学ＩＣ

科目基礎情報

科目番号	1911008	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	新基礎数学（大日本図書）、新基礎数学問題集（大日本図書）		
担当教員	平井 剛和,川崎 雄貴		

到達目標

(1) いろいろな数式の計算ができる。
(2) いろいろな方程式・不等式が解ける。
(3) いろいろな関数のグラフがかける。
(4) 順列・組合せの総数の求め方を理解し、それらを利用して様々な場合の数を求められる。
(5) 連立方程式・不等式の意味を理解し、１次の連立方程式・不等式が解ける。
(6) 数列の概念を理解し、いろいろな数列の計算ができる。
(7) 三角比の意味を理解し、三角形の辺の長さと面積の計算ができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
整式の計算	整式の四則計算、展開、因数分解の発展的な式変形ができる。	整式の四則計算、展開、因数分解の基礎的な式変形ができる。	整式の四則計算、展開、因数分解の基礎的な式変形ができない。
いろいろな数	実数や複素数の意味を理解し、その複雑な四則計算ができる。	実数や複素数の意味を理解し、その四則計算ができる。	実数や複素数の意味を理解できない。または、その四則計算もできない。
方程式の解法	2次方程式など様々な方程式の意味を理解し、様々な応用的な活用ができる。	2次方程式など様々な方程式の意味を理解し、解くことができる。	2次方程式など様々な方程式の意味を理解できない。または、解くことができない。
2次関数	2次関数のグラフを用いて2次不等式を解くことができる。	2次関数のグラフをかくことができ、グラフを利用して2次不等式を解くことができる。	2次関数のグラフをかくことができず、グラフを利用して2次不等式を解くことができない。
いろいろな関数	関数に一般論を理解できる。	偶関数、奇関数およびグラフの平行移動が理解でき、べき関数のグラフをかくことができる。	偶関数、奇関数およびグラフの平行移動が理解できず、べき関数のグラフをかくことができない。
場合の数	場合の数、順列、組合せの複雑な計算ができる。	場合の数、順列、組合せの基本的な計算ができる。	場合の数、順列、組合せの計算ができない。
連立方程式・不等式	連立方程式・不等式の意味を理解し、3元連立１次方程式・１次不等式を解くことができる。	連立方程式・不等式の意味を理解し、基本的な3元連立１次方程式・１次不等式を解くことができる。	連立方程式・不等式の意味が理解できない。または、基本的な3元連立１次方程式・１次不等式を解くことができない。
数列	等差数列・等比数列・Σのやや複雑な計算ができる。漸化式の意味を理解している。	等差数列・等比数列・Σの基本的な計算ができる。漸化式の意味を理解している。	等差数列・等比数列の計算ができない。
三角比	三角比の意味を理解し、三角形の辺の長さ、角の大きさ、面積の計算ができる。	三角比を用いた基本的な計算ができる。	三角比の値を求めることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1)数学の科目を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門科目を理解できる能力を身につける授業を行う。 (2) 基本的な計算技術の定着と、方程式や不等式への理解を深めることを目標とする。 (3) 2次関数などの初等的関数の性質を理解することを目標とする。 (4) 場合の数、数列の計算を解けることを目標とする。 (5) 連立方程式・不等式の性質を理解し、1次の連立方程式・不等式が解けることを目標とする。 (6) 三角比の意味と図形の計量を学ぶ。 (7) 中学校で学習した内容をさらに深め、2年次、3年次の数学、専門科目の学習に対応できるようにする。
授業の進め方・方法	教科書の内容に沿った演習中心の授業を行う。また、授業で習った内容を課題として出題する。
注意点	(1) 今後学ぶ数学や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・問題集などを活用して主体的に学習すること。 (3) 復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	整式の加法・減法	整式の意味を理解し、整式の整理が出来る。 整式の加減乗除の計算ができる。
		2週	整式の乗法	整式の展開ができる。
		3週	因数分解	中学校で学んだ因数分解ができる。
		4週	場合の数	積の法則と和の法則の違いを理解している。
		5週	場合の数	順列・組合せの基本的な計算ができる。
		6週	前期中間試験	
		7週	因数分解	たすき掛けを用いた因数分解ができる。
		8週	整式の除法	整式の商と余りを求めることができる。 数や整式の最大公約数と最小公倍数を求めることができる。
	2ndQ	9週	剰余の定理	剰余の定理を利用して、整式の余りを計算できる。
		10週	因数定理	因数定理を用いて高次関数の因数分解ができる。

		11週	分数式の計算	分数式を既約分数に直すことができ、分数式の四則演算の計算ができる。
		12週	連立方程式・不等式	基本的な3元１次連立方程式、1次不等式を解くことができる。
		13週	数列	数列の一般項が理解でき、等差数列・等比数列の一般項と和を求めることができる。
		14週	数列	総和記号Σの意味が理解できる。 総和記号を用いた基本的な数列の和を計算することができる。
		15週	数列	基本的な漸化式の問題が解ける。
		16週	前期末試験	
後期	3rdQ	1週	実数・平方根・複素数	自然数、整数、有理数、無理数、平方根、複素数について理解できて、計算ができる。
		2週	2次方程式	2次方程式の解の公式や解と係数の関係が使える。 無理方程式・分数方程式を解くことができる。
		3週	恒等式	恒等式と方程式の違いを区別できる。
		4週	2次関数のグラフ	2次関数のグラフをかくことができ、最大値・最小値を求めることができる。
		5週	三角比	三角比の値を求めることができる。
		6週	三角比	三角比の相互関係を理解できる。
		7週	三角比	正弦定理・余弦定理を理解できる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	2次不等式	2次関数のグラフを用いて2次不等式を解くことができる。
		10週	いろいろな関数	偶関数と奇関数、平行移動されたグラフの関係が理解できる。
		11週	いろいろな関数	べき関数のグラフがかける。
		12週	三角比	正弦定理・余弦定理の応用問題が解ける。
		13週	三角比	三角形の面積を求めることができる。
		14週	三角比	一般角を理解し、一般角の三角関数の値を求めることができる。
		15週	三角比	弧度法を理解し、弧度法で表された角の三角関数の値を求めることができる。
		16週	学年末試験	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	10	10	10	10	40	0	80
基礎的能力	6	10	10	10	40	0	76
専門的能力	3	0	0	0	0	0	3
分野横断的能力	1	0	0	0	0	0	1

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	物理

科目基礎情報

科目番号	1911009	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教科	対象学年	1
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	「物理基礎」　高木堅志郎、植松恒夫編　（啓林館）、「物理」　高木堅志郎、植松恒夫編　（啓林館）、「学習到達度試験（物理）過去問演習」　藤原滋泰　(http://www.hiroshima-cmt.ac.jp/faculty/ippan/007.html)		
担当教員	藤原 滋泰		

到達目標

(1) 物理の科目を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門科目を理解できる能力を身につける授業を行う。
(2) 自動車の様な乗り物の運動や、ボールの運動の様な、速さや動く向きが絶えず変化し、良く観察すると複雑な運動を正確に表す方法を学ぶ。
(3) 物を持ち上げたり運んだりするには力が必要であり、身の回りの運動する物体には、重力や摩擦力が働いている。この様な力の性質を学び、物体に力が働いた時の運動状態について学習する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	等加速度直線運動についての公式や計算式を導出することができる。複雑な問題に対しても、v-tグラフやx-tグラフなどを活用した計算ができる。	平均の速度と瞬間の速度、相対速度、加速度、等加速度直線運動、加速度が負の運動、自由落下、鉛直投げ下ろし、鉛直投げ上げについての基本的な計算ができる。	速度、加速度、変位の基本的な概念を理解しておらず、自由落下や鉛直投げおろしについての基本的な計算が出来ない。
評価項目2	力の概念と各法則について理解しており、複雑な合成や分解の計算結果を運動方程式に正しく代入し、計算することも出来る。	力の種類と単位、フックの法則、力の合成と分解、力の成分、力の釣り合い、作用･反作用の法則、慣性の法則、運動の法則について説明でき、運動方程式を解ける。	力についての基本的な概念を説明できず、力についての法則も理解出来ない。運動方程式を立てることも出来ない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1) 物理の科目を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門科目を理解できる能力を身につける授業を行う。 (2) 自動車の様な乗り物の運動や、ボールの運動の様な、速さや動く向きが絶えず変化し、良く観察すると複雑な運動を正確に表す方法を学ぶ。 (3) 物を持ち上げたり運んだりするには力が必要であり、身の回りの運動する物体には、重力や摩擦力が働いている。この様な力の性質を学び、物体に力が働いた時の運動状態について学習する。
授業の進め方・方法	(1) 講義を行い、ノートをとってもらった後に、演習プリントを配布し、問題を解いてもらう。 (2) 問題を解き、発表する際には、質疑応答を行うことで互いの理解を深める様にする。 (3) 理解した内容をチェックするために、Blackboardのオンラインテストを受講して下さい。 (4) Blackboardから配信している、学習到達度試験対策の電子書籍をダウンロードして、問題演習に役立てて下さい。
注意点	(1) 物理量の持つ意味と単位を明確に理解する。例えば、電子、電流、磁界、加速度、力、運動の法則、運動方程式、モーメントと重心、熱量、比熱、理想気体といった用語を自分の言葉で説明出来るくらい明確に理解する。用語の捕らえ方の違いから来る誤解を招かない様に注意する。 (2) 用語の意味を踏まえた上で、法則の意味（イメージ）がつかめているかどうか、公式の導出過程が解ったかどうかを確認する。ノートに枠で囲ってある式は必ず覚える。 (3) 特に試験前には、演習プリントを自力で解き直す（最初から、ノートや解答を見て答えだけを探そうとしない）。自分で考えながら解く事で、法則の適用の仕方を身に付ける。 (4) 授業態度を含め、あたりまえの事をきちんとやる。苦手だからこそ、ノート、演習プリントは完全に提出できる様、毎時間、常に整えておきましょう。 試験問題の大半を占める演習プリントの問題を解ける様にしておく。解けない場合は、必ず質問して下さい。質問をする時は、ノートやプリントを持って来て下さい。 (5) 何が足りなかったから解けなかったのか、何が理解出来ていれば解けていたのかを認識出来る様に、ある程度の長時間を掛けて頑張って下さい。 (6) 専門科目の「工業力学」、「材料力学」、「電気回路」、「電子電気工学」、「電磁気学」、「応用物理」等に発展して行く為の基礎を取り扱う。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	0.測定値の処理と有効数字	0-(1)測定値の処理と有効数字の取り扱いが出来るようになる。
		2週	1.速度・加速度・変位	1-(1) 平均の速度と瞬間の速度を求めることが出来る。
		3週	1.速度・加速度・変位	1-(2) 相対速度を求めることが出来る。
		4週	1.速度・加速度・変位	1-(3)　加速度、加速度が負の運動についての計算ができる。
		5週	1.速度・加速度・変位	1-(4)　等加速度直線運動についての計算ができる。
		6週	1.速度・加速度・変位	1-(5) 自由落下、鉛直投げ下ろしについての問題が解ける。
		7週	1.速度・加速度・変位	1-(6) 鉛直投げ上げについての問題が解ける。
		8週	後期中間試験 答案返却・解説	
	4thQ	9週	1.速度・加速度・変位	1-(7) 水平投射、及び斜方投射した物体の座標、速度、時間に関する計算ができる。
		10週	2.力	2-(1) 力の３要素、力の種類と単位について何も見ないで説明できる。
		11週	2.力	2-(2) フックの法則を用いて、弾性力を求めることが出来る。
		12週	2.力	2-(3) 力の合成と分解、力の成分の和についての問題が解ける。
		13週	2.力	2-(4) 作用･反作用の法則についての問題が解ける。

		14週	3.運動の法則	3-(1) 慣性の法則、運動の法則について説明でき、問題を解くことができる。
		15週	3.運動の法則	3-(2) 運動方程式、重力と質量、単位と次元について説明でき、運動方程式を解くことができる。
		16週	学年末試験 答案返却・解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	0	20	0	0	100
基礎的能力	40	5	0	20	0	0	65
専門的能力	30	5	0	0	0	0	35
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	理科総合

科目基礎情報

科目番号	1911010	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	化学基礎（啓林館）、生物基礎（啓林館）、化学基礎の基本マスター		
担当教員	大沼 みお		

到達目標

(1) 様々な身の回りの物質の性質や用途などに関する知識を習得する。
(2) 物質の構造と性質に関する知識を習得し、応用できる。
(3) 化学結合に関する知識を習得し、説明できる。
(4) 物質量について理解し、応用できる。
(5) 地球上の生物の多様性と共通する性質について理解する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1 身の回りの物質	様々な身の回りの物質の性質や用途、生物および環境への有効性やリスクなどを理解し、説明できる。	様々な身の回りの物質の性質や用途、生物および環境への有効性やリスクなどを理解している。	様々な身の回りの物質の性質や用途、生物および環境への有効性やリスクなどを理解していない。
評価項目2 物質の構造と性質	物質の構造と性質を理解し、発展的な問題を解くことができる。	物質の構造を理解し、標準的な問題を解くことができる。	物質の構造を理解していない。
評価項目3 化学結合	化学結合について理解し、発展的な問題を解くことができる。	化学結合について理解し、標準的な問題を解くことができる。	化学結合について理解していない。
評価項目4 物質量	物質量について理解し、発展的な問題を解くことができる。	物質量について理解し、標準的な計算問題を解くことができる。	物質量について理解していない。
評価項目5 生物：生物の多様性と共通性、生体内のエネルギー	地球上の生物の多様性と共通する性質、生体内のエネルギーについて理解し、発展的な問題を解くことができる。	地球上の生物の多様性と共通する性質、生体内のエネルギーについて理解している。	地球上の生物の多様性と共通する性質、生体内のエネルギーについて理解していない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	化学：日常生活や社会と関連付けながら、物質の構造や化学変化に関する知識と考え方を習得する。 生物：様々な生命現象を科学的に説明できる様になるための基礎的な知識を学ぶ。
授業の進め方・方法	教科書を用いて講義形式で授業を行います。学習内容に応じて適宜、動画などを視聴します。また、演習を行う時間を適宜設けます。
注意点	(1) 予習復習を行うこと。 (2) 分からない点は放置せずに質問すること。 (3) 宿題は必ず期限内に提出すること。 (4) 携帯電話、居眠り、過度な私語、意味の無い立ち歩きなどは減点対象とします。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	化学と人間生活	代表的な金属やプラスチックなどの材料について、その性質、用途および、環境への影響など生活とのかかわりについて理解する。 洗剤や、農薬、食品添加物等の化学物質の有効性、環境へのリスクについて理解する。
		2週	物質の探究	純物質と混合物の区別ができる。 混合物の分離法について理解でき、分離操作を行う場合、適切な分離法を選択できる。
		3週	物質の探究	混合物の分離法について理解でき、分離操作を行う場合、適切な分離法を選択できる。 元素、単体、化合物の意味と具体例が説明できる。
		4週	物質の探究	元素、単体、化合物の意味と具体例が説明できる。 同素体がどのようなものか説明できる。
		5週	物質の探究	物質を構成する分子・原子が常に運動していることが理解できる。 水の状態変化を説明できる。 物質の三態とその状態変化を説明できる。
		6週	原子の構造と元素の周期表、化学結合	原子の構造(原子核・陽子・中性子・電子)や原子番号、質量数を説明できる。
		7週	前期中間試験　答案返却・解説	
		8週	原子の構造と元素の周期表、化学結合	同位体について理解し、放射性同位体とその代表的な用途について説明できる。
	2ndQ	9週	原子の構造と元素の周期表、化学結合	原子番号から価電子の数を見積もり、原子の性質について考えることができる。
		10週	原子の構造と元素の周期表、化学結合	元素の性質を周期表(周期と族)と周期律から考えることができる。
		11週	原子の構造と元素の周期表、化学結合	イオンとイオン結合について具体例を挙げて説明できる。
		12週	原子の構造と元素の周期表、化学結合	イオンとイオン結合について具体例を挙げて説明できる。
		13週	原子の構造と元素の周期表、化学結合	分子と共有結合について具体例を挙げて説明できる。
		14週	原子の構造と元素の周期表、化学結合	分子と共有結合について具体例を挙げて説明できる。
		15週	原子の構造と元素の周期表、化学結合の演習	

		16週	前期末試験　答案返却・解説	
後期	3rdQ	1週	原子の構造と元素の周期表、化学結合	金属と金属結合について具体例を挙げて説明できる。
		2週	原子量・分子量・式量と物質量	原子の相対質量と原子量が理解できる。 分子量・式量がどのような意味をもつか理解できる。
		3週	原子量・分子量・式量と物質量	アボガドロ定数を理解し、物質量(mol)を用いて物質の量を表すことができる。 物質量に関する問題が解ける。
		4週	原子量・分子量・式量と物質量	アボガドロ定数を理解し、物質量(mol)を用いて物質の量を表すことができる。 物質量に関する問題が解ける。
		5週	原子量・分子量・式量と物質量	気体の体積と物質量の関係を理解し、問題が解ける。
		6週	原子量・分子量・式量と物質量	気体の体積と物質量の関係を理解し、問題が解ける。
		7週	原子量・分子量・式量と物質量の演習	
		8週	後期中間試験　答案返却・解説	
	4thQ	9週	生物の多様性と共通性	地球上の生物の多様性について理解している。
		10週	生物の多様性と共通性	生物の共通性と進化の関係について理解している。
		11週	生物の多様性と共通性	生物に共通する性質について理解している。
		12週	生命活動とエネルギー	エネルギーと代謝、代謝を進める酵素について理解している。
		13週	生命活動とエネルギー	生体内におけるエネルギー変換（光合成と呼吸）について理解している。
		14週	生命活動とエネルギー	ミトコンドリアと葉緑体の起源について理解している。
		15週	生物の多様性と共通性および生命活動とエネルギーの演習	
		16週	学年末試験　答案返却・解説	

評価割合

	試験	課題	態度	合計
総合評価割合	70	30	0	100
基礎的能力	70	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	芸術

科目基礎情報

科目番号	1911011	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教科	対象学年	1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	高校生の音楽　（教育芸術社）		
担当教員	朝倉 和		

到達目標

(1)音楽に関する知識や技術を身に着け、音楽的な表現の能力を養う。
(2)音楽に関する基礎的な知識や法則を理解する。
(3)時代ごとの音楽の様式や楽曲の特徴を理解し、鑑賞によって音楽の良さや美しさを感じ取る。
(4)音楽の歴史を考察し。音楽の文化的意義を理解する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	歌詞の内容や楽曲の背景h拝啓・構成を曲想から感じ取り、イメージを持って歌うことができる。	歌詞の内容や楽曲の背景を、イメージを持って歌うことができる。	歌詞の内容や楽曲の背景が理解できない。
評価項目2	楽譜の読み・書き、楽譜からの情報の読み取りができる。	基本的な楽譜の読み・書きができる。	基本的な楽譜の読み・書きができない。
評価項目3	楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲者及び演奏者による表現の特徴を理解し鑑賞できる。	楽曲の文化的・歴史的背景を理解し鑑賞できる	鑑賞する楽曲の特徴が理解できない。
評価項目4	音楽の歴史を考察し、音楽の文化的意義が理解できる。	音楽の歴史を考察し、それぞれの時代の特徴が理解できる。	それぞれの時代の歴史的特徴が理解できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	芸術の幅広い活動を通して、感性を高め音楽と社会の関わりを学び、優しさと思いやりに満ちた心を育成し芸術文化についての理解を深める。
授業の進め方・方法	講義と歌唱実技、鑑賞とによって授業を進める。
注意点	(1)課題は必ず期限内に提出すること。 (2)小テストを実施するので、復習をしておくこと。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1.校歌	1-(1)校歌から見えてくる、地域や学校との繋がりを理解する 1-(2)イメージを持って、声の音色や強弱、旋律の特徴などを生かして歌うことができる
		2週	同上	同上
		3週	2.楽典	2-(1)楽譜の読み方・書き方が理解できる 2-(2)楽譜の情報をよい取ることができる 2-(3)音符と休符の音の長さが理解できる上
		4週	同上	同上
		5週	同上	同上
		6週	同上	同上
		7週	中間試験	
		8週	答案年客と解説	
	2ndQ	9週	3.鑑賞	3-(1)演奏者による表現の特徴を理解できる。 3-(2)楽曲の文化的・歴史的背景、声や楽器の音色の特徴を感じ取って鑑賞できる。

		10週	同上	同上
		11週	同上	同上
		12週	4.西洋音楽史	4-(1)～(4)それぞれの時代背景と特徴が理解できる。
		13週	同上	同上
		14週	同上	同上
		15週	学年末試験	
		16週	答案返却と解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	0	0	10	10	100
基礎的能力	70	10	0	0	10	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	総合英語Ⅰ

科目基礎情報

科目番号	1911012	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 4
開設学科	一般教科	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	4
教科書/教材	Power On English Communication Ⅰ (東京書籍)		
担当教員	上杉 鉛一		

到達目標

(1)教科書の語句を理解する
(2)教科書付属のCDを聞いて、その内容を理解する
(3)重要文法事項を含んだ基本構文を英作文出来る
(4)教科書付属のCDと同じ速さで音読できる

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
語句を理解する	８０%以上理解する	50%以上理解する(ように努力する)	50%は理解できない
聞き取りで理解できる	60%以上の内容を聞き取れる	40%以上を聞き取れる	40%は聞き取れない
基本構文を理解し、英作文出来る	冠詞等の微細な間違いのみで英作文出来る	基本構文を使って、通じる程度の英作文が出来る	基本構文を使えない
速音読が出来る	付属のCDと同じ速さで読める	時々遅れるが、読める	CDについて読もうとしない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1)中学校で学習した語句・文法事項の復習に加え、高1程度の語句・文法を学習する (2)文法事項を発展させる（疑問詞＋不定詞、目的語としての動名詞、SVOO=that節） (3)新出事項を学習する（間接目的語としての間接疑問、現在完了進行形、分詞構文） (4)「読む」「聞く」を中心として4技能の力を伸ばす (5)週あたり時間はCompassを使用し、1時間はLL教室で音声の授業を行い、それらを総合して評価する"
授業の進め方・方法	単語テストにより、語句の定着をはかる 文構造に注意して、英文の意味が分かるようにする 需要事項に注意して、英文の意味が分かり、それを使って簡単な英語が差分出来るよにする
注意点	(1) 今後学ぶ英語や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・小テスト・練習課題などを活用して主体的に学習すること。 (3) 予習・復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。 "

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション Lesson 1 Mt. Fuji -- A Symbol of Japan	疑問文を理解できる。現在形と過去形を理解できる
		2週	Lesson 1 Mt. Fuji -- A Symbol of Japan	SVOの構文を理解する。仮定の副詞節で現在形をもいることが理解できる。
		3週	Lesson 2 Sleep in Animals	比較級の基本を理解できる
		4週	Lesson 2 Sleep in Animals	to-不定詞の副詞用法を理解する
		5週	同上	have to ～, would like to ～が理解できる。前置詞の後の動名詞を理解する。
		6週	Lesson 3 Nagatomo Yuta -- A Long Hard Road to Success	begin to ～, try to～を理解できる。現在完了〔経験〕を理解する。
		7週	同上	as -- as possibleを理解できる。目的語としてのthat節を理解する。
		8週	前期中間試験	

	2ndQ	9週	試験返却・説明 Lesson　3　Nagatomo Yuta -- A Long Hard Road to Success	受け身の基本を理解できる。
		10週	Lesson 4 Kawaii and Japanese Pop Culture	It -- to ～の構文を理解できる。
		11週	同上	助動詞"can"が理解できる。
		12週	同上	関係詞の基本を理解する。
		13週	Lesson 5 Panana Paper	最上級の基本を理解する。分詞の後置修飾の基本を理解する。
		14週	同上	関係詞(目的格)の省略を理解する。SVCの構文を理解できる。
		15週	同上	現在完了の継続用法の基本を理解する。SVOCの構文の基本を理解できる。
		16週	期末試験の返却、説明	
後期	3rdQ	1週	Lesson 6 A Story about Instant Noodles	知覚動詞の用法を理解する。
		2週	同上	関係詞"that"の用法を理解する。
		3週	同上	使役動詞の用法を理解する。
		4週	Lesson 7 The Earth, Our Home!	appear to ～ を理解する。to-不定詞の形容詞用法の基本を理解する。
		5週	同上	関係副詞"where"の基本を理解する。間接疑問の基本を理解する。
		6週	同上	It -- that～の構文を理解する。
		7週	Lesson　6&7　のまとめ	復習をする。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	試験返却、説明 Lesson 8 Mr. Fija and Uchinaaguchi	現在完了進行形を理解する。
		10週	同上	関係副詞"when"を理解する。
		11週	同上	仮定法過去の構文の基本を理解する。
		12週	Lesson 9 The Power to Unite People	過去完了の基本を理解する。
		13週	同上	未来進行形の基本を理解する。
		14週	同上	分詞構文の基本を理解する。
		15週	Lesson　7 & 8　のまとめ Focus on Grammar　4	
		16週	学年末試験の返却、説明	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	10	0	30	100
基礎的能力	60	0	0	10	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語表現Ⅰ

科目基礎情報

科目番号	1911013	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	大修館書店「Genius ジーニアス総合英語　English Grammar in 27 Lessons」この教科書は２年生の英語表現Ⅱでも使用するので、大切に扱うこと		
担当教員	桑田 明広,前田 弘隆,上杉 鉛一,江原 智子,朝倉 和		

到達目標

(1) 名詞・動詞・形容詞・副詞の語形変化を覚える。
(2) 単語や語句の文中での「働き」を理解する。
(3) 語や語句の「働き」にもとづいて、文の組み立てを理解する。
(4) 日本語と英語との語順の違いを理解する。
(5) 基本例文を暗記し、それをもとに自分からメッセージを伝えるための英文を作る。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	語尾の変化形に気づき文中での意味が理解できる	名詞や動詞等の不規則変化形を間違えない	名詞や動詞等の不規則変化形を間違える
評価項目2	「働き」の違いをもとに、例文が正確に理解できる	「働き」から主語や動詞、目的語等の区別がつく	「働き」から主語や動詞、目的語等の区別がつかない
評価項目3	文の組み立ての違いから、例文が正確に理解できる	文の組み立てが区別できる	文の組み立てが区別できない
評価項目4	語順の違いや前置詞の働きを理解し、その知識を作文に利用できる	語順の違いや前置詞の働きが分かる	語順の違いや前置詞の働きが分からない
評価項目5	暗記した基本例文をもとに、新しい例文が作れる	基本例文を暗記し、筆記や口頭で再現できる	基本例文を暗記せず、筆記や口頭で再現できない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1) 中学校で学習してきた総合的な英語の知識を、文の組み立てや文中での働きを中心に見直して、文法的な理解と知識の整理をする。 (2) 基本例文に慣れ、それをもとに自分なりの例文が作れるように練習する。
授業の進め方・方法	・中学校で習った英語の知識の「復習」と新しい「見方」の学習になるので、英語が苦手な人は「再スタート」、そうでない人は知識の「定着」と「応用」の授業であることを充分理解し、授業に臨んでください。 ・１年生で教科書の半分を学習し、残りは２年生の「英語表現Ⅱ」で学習する。
注意点	・小テストを重視するので、日々の復習を忘れないこと。 ・提出物等の期限は厳守してください。 ・学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問してください。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス Lesson1　文の種類	シラバス確認、評価方法についての説明 文の種類（平叙文、疑問文、命令文、感嘆文）
		2週	Lesson 2　動詞と文型（１）	第１文型、第２文型、第３文型
		3週	Lesson 3　動詞と文型（２）	第４文型
		4週	同上	第５文型
		5週	同上	第４文型と第５文型の違い、there構文
		6週	Puls１　注意すべき動詞	注意すべき動詞、複数の文型で使われる動詞、句動詞
		7週	前期中間試験	
		8週	答案返却と解説	
	2ndQ	9週	Lesson 4　時制（１）	現在形、現在進行形、過去形、過去進行形

		10週	Lesson 5　時制（２）	未来形
		11週	Lesson 6　完了形（１）	現在完了
		12週	同上	同上
		13週	Lesson 7　完了形（２）	過去完了、過去完了進行
		14週	同上	大過去、未来完了
		15週	前期末試験	
		16週	答案返却と解説	
後期	3rdQ	1週	Lesson 8　　助動詞（１）	can/could, may/might, must/have to
		2週	Lesson 9　　助動詞（２）	will/would, will/shall
		3週	Lesson 9　　助動詞（２） Lesson 10　　助動詞（３）	will/would, used to should/ought to
		4週	Lesson 10　　助動詞（３）	had better/ need, 助動詞＋have ＋過去分詞
		5週	Plus２　助動詞を使った表現	慣用表現
		6週	Lesson 11　受動態（１）	受動態の基本、さまざまな受動態
		7週	後期中間試験	
		8週	答案返却と解説	
	4thQ	9週	Lesson 12　受動態（2）	受動態の様々な形
		10週	同上	同上
		11週	Lesson 13　不定詞（1）	不定詞の名詞的用法、形容詞的用法
		12週	同上	同上
		13週	Lesson 14　不定詞（2）	副詞的用法
		14週	同上	同上
		15週	学年末試験	
		16週	答案返却と解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	10	0	30	100
基礎的能力	60	0	0	10	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	保健体育Ⅰ

科目基礎情報

科目番号	1911014	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	最新高等保健体育		
担当教員	橋本 真		

到達目標

1　自分や周囲の心身の健康・安全について理解し、ひとりひとりが主体的に授業におけるルールを意識して実行できる。
2　保健分野の内容について正しい知識を習得し、それに基づいて自分の考えを表明できる。
3　球技では基本的な個人技能を習得する。
4　水泳ではクロールと平泳ぎの泳法を習得する。
5　ダンスではダンスコンテストを通じて、自分たちの感情を身体で表現する。
6 CLIL学習では体育やスポーツを通じて英語を活用できるようにする。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて、自主的に率先して理解や判断のもと適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解し適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解して適切な行動ができない。
評価項目2	保健分野の内容について正しい知識を習得し、それに基づいて自分の考えを表明できる。	保健分野の内容について正しい知識を習得している。	保健分野の内容について正しい知識を習得していない。
評価項目3	パス、ドリブルなどのボールを所持したときの技能だけでなく、スペースについての理解などオフザボールの動きについても習得している。	パス、ドリブルなどのボールを所持したときの適切な技能を習得している。	パス、ドリブルなどのボールを所持したときの適切な技能を習得していない。
評価項目4	クロールと平泳ぎに必要な技能を習得しているだけでなく、その技術を周囲に対して教授することができる。	クロールと平泳ぎに必要な技能を習得している。	クロールと平泳ぎに必要な技能を習得していない。
評価項目5	ダンスに必要な技能の習得し、自分の感情を身体で表現するだけでなく、それを周囲に対して教授することができる。	ダンスに必要な技能の習得し、自分の感情を身体で表現することができる。	ダンスに必要な技能の習得し、自分の感情を身体で表現することができない。
評価項目6	率先してCLIL学習について、取り組むことができる。	CLIL学習について、取り組むことができる。	CLIL学習について、取り組むことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1)体育の学習を通じて、運動やスポーツをすることの楽しさを体験し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する心身を醸成する。 (2)(1)のために必要な豊かな心、生きる力および規範意識の重要性について理解しながら、主体的、計画的に自身の健康と体力向上を考えて実行できる授業を展開する。 評価については、体育内容で70%、保健内容で30%の割合とする。
授業の進め方・方法	通常の授業はグラウンドや体育館などの体育施設で実技を行なう。準備運動やストレッチング、トレーニングを実施し、個人の体力や技能の向上を図るとともに、ゲーム中での技術や判断、戦術理解などの総合的な能力を体得する。天候や施設などの状況により、シラバスどおりには実施できない場合がある。
注意点	(1) 授業時の服装は、本校指定の体操服に限る。 (2) 安全への配慮を考慮して、当然のことながら装飾品を外し、爪を切るなど自己安全管理を求める。 (3) シラバスの項目・内容を確認して、ルール等を事前に予習しておく。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	授業内容について理解している。
		2週	アライメント調査と新体力テスト屋内種目	アライメント調査の目的と必要性について理解している。 体力テストの意義や必要性について理解している。 体力テストの各調査項目について適切な実施方法を実行している。 体力テストの結果をもとに、自分の私生活へ反映することができる。
		3週	新体力テスト屋外種目	体力テストの意義や必要性について理解している。 体力テストの各調査項目について適切な実施方法を実行している。 体力テストの結果をもとに、自分の私生活へ反映することができる。
		4週	New sports	インディアカの基本用語やルールについて理解している。
		5週	New sports	ソフトバレーではゲーム中にアタックを打って得点を決めることができる。
		6週	New sports	アルティメットではゲーム中に有効なスペースを見つけて利用することができる。
		7週	New sports	アルティメットゲーム中に有効なスペースを見つけて利用することができる。
		8週	保健：妊娠と出産	妊娠や出産についての正しい知識を理解したうえで、自分の意見を表明できる。

	2ndQ	9週	ウォータースポーツ	クロールについて効率的なフォームで最低25メートル泳ぐことができる。
		10週	ウォータースポーツ	平泳ぎについて効率的なフォームで最低25メートル泳ぐことができる。
		11週	ウォータースポーツ	平泳ぎについて効率的なフォームで最低25メートル泳ぐことができる。
		12週	ウォータースポーツ	平泳ぎについて効率的なフォームで最低25メートル泳ぐことができる。
		13週	ウォータースポーツ	平泳ぎについて効率的なフォームで最低25メートル泳ぐことができる。
		14週	保健：救急救命講習	救急救命講習についての正しい知識を理解したうえで、必要な実技を習得している。
		15週	前期末試験	
		16週	前期末試験返却・解説	
後期	3rdQ	1週	保健：喫煙と健康	喫煙についての正しい知識を理解したうえで、自分の意見を表明できる。
		2週	ダンス	ダンスに必要な技能を習得しようとしている。
		3週	ダンス	グループで協力して1つのダンスを作ることができる。
		4週	ダンス	グループで協力して1つのダンスを作ることができる。
		5週	ダンス	自分たちの感情をダンスを通じて表現することができる。
		6週	ダンス	自分たちの感情をダンスを通じて表現することができる。
		7週	クラスマッチの練習	
		8週	クラスマッチの練習	
	4thQ	9週	こころの健康	こころの健康についての正しい知識を理解したうえで、自分の私生活へ実践しようとしている。
		10週	フットボール（CLIL学習）	サッカーの基本用語やルールについて理解している。
		11週	フットボール（CLIL学習）	ゲーム中に適切なプレーを選択している。
		12週	フットボール（CLIL学習）	サッカーではゲーム中に有効なスペースを見つけて利用することができる。
		13週	フットボール（CLIL学習）	サッカーではゲーム中に有効なスペースを見つけて利用することができる。
		14週	フットボール（CLIL学習）	フットサルの基本用語やルールについて理解している。
		15週	学年末試験	
		16週	学年末試験返却・解説	

評価割合

	試験	レポート・課題	実技	その他	合計
総合評価割合	70	30	70	30	200
体育内容	0	0	70	30	100
保健内容	70	30	0	0	100

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	基礎実習

科目基礎情報

科目番号	1911015	科目区分	一般 / 必修
授業形態	実習	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	自主教材を使用		
担当教員	朝倉 和		

到達目標

(1)本校の専門教育に使用される施設や教育内容を体験し、自分の将来の専門性についての見通しを得る。
(2) 情報リテラシについて理解する。
(3) レポートの書き方を理解し、基本的なプレゼンテーションを実施できる。
(4) 海や船への関心を高め、仲間と協調する心の大切さを身につける。
(5) 工具や器具の取扱を理解し、それらを利用して自作ができるようになる。
(6) 社会を支える経済について基本的な事柄を知る。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	情報リテラシについてが理解できて、内容も説明できる。	情報リテラシについてが理解できる。	情報リテラシについてに関する理解できていない。
評価項目2	レポートの書き方を理解し、基本的なプレゼンテーションが理解できて、実施できる。	レポートの書き方を理解し、基本的なプレゼンテーションが理解できる。	レポートの書き方を理解し、基本的なプレゼンテーションに関する理解できていない。
評価項目3	海や船への関心を高め、仲間と協調し行動する大切さが理解できる。	海や船への関心を高め、仲間と協調する大切さを理解できる。	海や船への関心を高め、仲間と協調する大切さを理解できていない。
評価項目4	工具や器具の取扱を理解し、それらを利用して自作が実行できる。	工具や器具の取扱を理解し、それらを利用して自作が理解できる。	工具や器具の取扱を理解し、それらを利用して自作に関する理解できていない。
評価項目5	経済学が提供する概念や社会の見方を組合せ、経済現象が説明できる。	経済学という一つの社会の見方が説明できる。	経済学という一つの社会の見方が説明できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	①本科目は各学科の専門科目の基礎となるもので、組織において協力して行動することの意義を理解しながら、実技・実習と情報演習を行う。 ②一般教科、商船学科、電子制御工学科、流通情報工学科で学習する基礎的な実習・演習を所属学科に関係なく習得する。 ③本科目では専門的知識・技術とその基礎を体験する。社会に貢献できる創造力と実践力の基礎を身につける。
授業の進め方・方法	前期は、１年生を６班にわけ、週ごとに、「練習船実習」「ロープワーク」「触媒と酵素のはたらきの観察」「工具・測定器取扱実習」「プログラミング実習」「キャリアを考えるーキャリアプランニングの第一歩」のそれぞれを体験実習する。あわせて、クラスごとに行われる情報演習の授業も受講しパソコン操作のの基礎練習をする。後期は、情報演習に特化した授業を受講する。
注意点	教室での座学と違って、実習施設や設備の利用には、学習内容以外にも、実習態度や危険を避けるための服装等にも注意を払う必要がある。各実習テーマに沿った指示を守ることが肝要である。正当な事由なく無断欠席した場合は未履修となる。病気などで止むを得ない事情により欠席する場合には、学級担任または教務係に授業開始前に連絡すること。予習事項はガイダンスの時に指示する。班ごとに実習の内容が異なるので、日程表と簡易手引書で確認すること。連絡事項や服装などを毎回確認すること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	練習船実習	練習船乗船中の常道や危険回避に関する知識を得る
		2週	ロープワーク	船の運航と不可欠なロープの使い方を知る
		3週	触媒と酵素のはたらきの観察	ガラス器具や化学試薬などの適切な取扱を学習する
		4週	工具・測定器取扱実習	実習工具や測定機の扱い方を知る
		5週	プログラミング実習	プログラミングに関する知識を得る
		6週	キャリアを考えるーキャリアプランニングの第一歩	社会活動をささえる経済活動についてその意義を理解し、経済人として活躍する基礎知識を得る
		7週	情報演習	ワープロ・表計算の実際を体験する；ワープロ検定・表計算検定祖受験する
		8週	情報セキュリティー講演	情報社会のセキュリティーの重要性を知る
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		

		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

評価割合

	試験	発表	レポート・課題	小テスト	成果品・実技	その他	合計
総合評価割合	0	0	50	0	50	0	100
基礎的能力	0	0	30	0	30	0	60
専門的能力	0	0	10	0	10	0	20
分野横断的能力	0	0	10	0	10	0	20

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	現代文Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	1921001	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	『新　探求現代文Ｂ』（桐原書店）、『常用漢字　ダブルクリア　三訂版』（尚文出版）。その他、必要に応じて配布する。		
担当教員	山下 航正		

到達目標

(1)文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。
(2)鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、感受性を培うことができる。
(3)読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。
(4)現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	文学作品について、鑑賞の方法を理解し、実践できる。また、幅広い文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。	文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。	文学作品について、鑑賞の方法を理解できない。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解したり、作品の意義について意見を述べることができない。
評価項目2	鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、十分に感受性を培うことができる。	鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、感受性を培うことができる。	鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、感受性を培うことができない。
評価項目3	読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に積極的に生かすことができる。	読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	読書習慣の形成をとおして感受性を培ったり、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができない。
評価項目4	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を十分に深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を積極的かつ適切に活用して表現できる。	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深めたり、その特徴を把握することができない。また、それらの知識を活用して表現することができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	現代文（評論、小説、詩等）や表現単元を通して、内容を文章に即して理解し、相手に自己を表現できるようになることを、目標とする。われわれ人間と「ことば」とは、決して切り離せないものである。事実、相手との意思疎通、知識・技術の獲得と提供、自身の思考、いわゆる「コミュニケーション」と言われる活動のいずれも、「ことば」を用いないものはない。そして、これら「コミュニケーション」活動はすべて、「理解」と「表現」とを土台としている。 評論や小説、随想といった「表現」に触れ、その内容を適切に「理解」すること。また、相手に「理解」されやすい「表現」を心がけていくこと。授業を通じて「コミュニケーションスキル」基礎力を養い、よき「理解」者・よき「表現」者となることができるよう、意識的かつ意欲的な取り組みを期待したい。
授業の進め方・方法	「授業計画」を参照のこと。
注意点	(1) 随時、読書タイムや漢字小テストを行う。 (2) 読書感想文などの文章表現、読書メモ等の課題を出すことがある。 (3) 板書記録用のノートまたはルーズリーフの他に、プリント保管用のファイルや国語事典、漢和辞典を持参することが望ましい。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	村上春樹「自己とは何か（あるいはおいしい牡蠣フライの食べ方）」	(1) 段落相互の関係を把握しつつ、内容を丁寧に読みとる。 (2) 内容を踏まえ、論理展開とそれに対する筆者の工夫を把握する。 (3) 著者のものの見方・感じ方・考え方を自身に引きつけて捉え直す。
		2週	同上	同上
		3週	同上	同上
		4週	江國香織「晴れた空の下で」	(1) 物語内容（場面展開）を丁寧に読み取る。 (2) 語りを通して、登場人物の心情や関係を捉える。 (3) 小説の語りを通して、「語る」という行為への眼差しや、「表現」への意識を持つ。
		5週	同上	同上
		6週	同上	同上
		7週	同上	同上
		8週	前期中間試験 答案返却・解説	

	2ndQ	9週	鷲田清一「いのちは誰のものか？」	(1) 段落相互の関係を把握しつつ、内容を丁寧に読みとる。 (2) 内容を踏まえ、論理展開とそれに対する筆者の工夫を把握する。 (3) 著者のものの見方・感じ方・考え方を自身に引きつけて捉え直す。
		10週	同上	同上
		11週	同上	同上
		12週	同上	同上
		13週	宮沢賢治「永訣の朝」	(1) 語句に注目して背景や情景を捉える。 (2) 作品に詠み込まれた「ものの見方」を理解し、味わう。 (3) 作者の他の作品との関連について知る。
		14週	同上	同上
		15週	瀬戸内に関わる文学とプレゼンテーション（グループ研究発表）	(1) グループごとにテーマを設定して作品を分析し、資料としてまとめ、提示（発表）することができる。
		16週	前期期末試験 答案返却・解説	
後期	3rdQ	1週	瀬戸内に関わる文学とプレゼンテーション（グループ研究発表）	(1) グループごとにテーマを設定して作品を分析し、資料としてまとめ、提示（発表）することができる。 (2) 質疑応答から、聴衆としてふさわしい態度も身につけることができる。 (3) 郷土に関わりのある作家・作品を扱うことにより、地域社会に対する関心や理解を深める。
		2週	同上	同上
		3週	同上	同上
		4週	同上	同上
		5週	短歌（教科書掲載を中心に）	(1) 語句に注目して情景を捉える。 (2) 様々な表現技法について理解する。 (3) 作品に詠み込まれた「ものの見方」を理解し、味わう。
		6週	同上	同上
		7週	同上	同上
		8週	後期中間試験 試験返却・解説	
	4thQ	9週	村上陽一郎「科学者とは何か」	(1) 段落構成の把握を通じて、論の展開を押さえ、文章の主題を捉える。 (2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解く。 (3) 筆者がいう「学問」や「科学」の捉え方について、自身に引きつけて考察する。
		10週	同上	同上
		11週	同上	同上
		12週	同上	同上
		13週	村上春樹「鏡」	(1) 物語内容（場面展開）を丁寧に読み取る。 (2) 語りを通して、登場人物の心情や関係を捉える。 (3) 小説の語りを通して、「語る」という行為への眼差しや、「表現」への意識を持つ。
		14週	同上	同上
		15週	同上	同上
		16週	学年末試験 試験返却・解説	

評価割合

	試験	小テスト	レポート・課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	20	0	0	0	100
基礎的能力	70	10	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	古典Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	1921002	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教科	対象学年	2
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	『新　探求古典Ｂ』（古文編）（漢文編）（桐原書店）、『古典文法クリアノート』（尚文出版）。その他、必要に応じて配布する。		
担当教員	朝倉 和,山下 航正		

到達目標

(1)代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。
(2)古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。
(3)代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。
(4)教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	幅広く古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	基礎的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解したり、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができない。
評価項目2	古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができ、それを踏まえた音読・朗読ができる。	古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができる。	古文・漢文について、音読・朗読もしくは暗唱することにより、特有のリズムや韻などを味わうことができない。
評価項目3	幅広い古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。	代表的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。また、それらに親しもうとすることができる。	基礎的な古文・漢文について、日本文学史および中国文学史における位置を理解したり、作品の意義について意見を述べることができない。また、それらに親しもうとすることができない。
評価項目4	教材として取り上げた作品以外についても、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できる。	教材として取り上げた作品について、用いられている言葉の現代の言葉とのつながりや、時代背景などに関する古文・漢文の基礎的知識を習得できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	古典（古文・漢文）を読むことで、日本文化の歴史を理解し、国際人としての基盤を養成することを目的とする。国際人として行動するためには、自国の理解が欠かせない。１年次よりも長文の古典を読むことで、日本文化の多彩な様相について認識を深め、現代の文化の源流を学ぶことができ、日本についてさらに深い理解を得ることができる。古典を学習することは、現代とは違う「ものの見方・感じ方・考え方」を知ることでもある。現代とは異なる価値観を理解しようとし、馴染みのない表現に目を開くことは、広い視野を養い、他者（異文化間・自国間）とのコミュニケーションを実現させる力を養う基礎となる。なお、大学受験を想定しないため、古文の文法や漢文の句法は基礎の習得に留め、内容の理解に重点を置く。
授業の進め方・方法	（１）随時、古典文法や、漢文の訓読に関する小テストを行う。 （２）ノートの取り方は事前に指導するので、毎回、授業範囲分の教科書の本文を写してくること。
注意点	（１）電子辞書や古語辞典、漢和辞典を持参することが望ましい。 （２）学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1 漢詩の読解 劉禹錫「秋風引」、李白「望廬山瀑布」、杜甫「登高」、頼山陽「題不識庵撃機山図」等	1-(1) 詩形や押韻・対句など漢詩の規則を学び、理解する。 1-(2) 漢詩特有の表現を理解する。 1-(3) 中国の古人の「ものの見方」を理解し、味わう。
		2週	同上	同上
		3週	2 漢文の読解 陶潜「桃花源記」	2-(1) 書き下し文を正しく書くことによって、漢文に慣れることができる。 2-(2) 口語訳を通じて、中国の古人の物の見方、考え方、感じ方を知ることができる。 2-(3) 物語の展開に沿って正確に読解する。 2-(4) 桃源郷が作られた理由をさぐる。桃源郷と大崎上島を比較する。
		4週	同上	同上
		5週	同上	同上
		6週	同上	同上
		7週	同上	同上
		8週	前期中間試験 答案返却・解説	

	2ndQ	9週	3 古文の基礎	3-(1)動詞・形容詞・形容動詞を復習する。 3-(2)助動詞の識別ができる。 3-(3)助動詞の「ず」「る・らる」「す・さす・しむ」「き・けり」「べし」「なり」等が理解できる。 3-(4)係り結びの法則が理解できる。
		10週	同上	同上
		11週	4 古文の読解 「平家物語」先帝入水	4-(1) 古文の特徴に注意しながら読解する。重要単語・文法事項を注意する。 4-(2) 場面に応じた登場人物の心情を把握する。 4-(3) 口語訳を通じて、我が国の古人の物の見方、考え方、感じ方を知る。 4-(4) 瀬戸内海を舞台とした源平の合戦記を取り扱うことにより、瀬戸内近郊地域・社会に対する興味・関心・理解を深めることができる。 4-(5) ビデオ鑑賞。英訳の読解。
		12週	同上	同上
		13週	同上	同上
		14週	同上	同上
		15週	同上	同上
		16週	前期期末試験 答案返却・解説	

評価割合

	試験	小テスト	レポート・課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	20	0	0	0	100
基礎的能力	70	10	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	歴史

科目基礎情報

科目番号	1921003	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	『詳説　世界史B　改訂版』(山川出版社、2016年)		
担当教員	小河 浩		

到達目標

(1)ルネサンス以降の近代ヨーロッパ、絶対王政時代などについて高等学校履修程度の内容が理解できる。
(2)市民革命、産業革命などについて高等学校履修程度の内容が理解できる。
(3)植民地獲得から資本主義時代、社会主義やファシズムの勃興、世界大戦などについて高等学校履修程度の内容が理解できる。
(4) 中国(明・清から現代まで)について高等学校履修程度の内容が理解できる。
(5)戦後から米ソ冷戦構造、冷戦構造崩壊後の世界について、高等学校履修程度の内容が理解できる。 また上記の時代にあたる日本および地域史について理解できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	ルネサンス以降の近代ヨーロッパ、絶対王政時代などについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できて、内容も説明できる。	ルネサンス以降の近代ヨーロッパ、絶対王政時代などについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できる。	ルネサンス以降の近代ヨーロッパ、絶対王政時代などについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できていない。
評価項目2	市民革命、産業革命などについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できて、内容も説明できる。	市民革命、産業革命などについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できる。	市民革命、産業革命などについて高等学校履修程度の基礎的な用語などが理解できていない。
評価項目3	植民地獲得から資本主義時代、社会主義やファシズムの勃興、世界大戦などについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できて、内容も説明できる	植民地獲得から資本主義時代、社会主義やファシズムの勃興、世界大戦などについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できる。	植民地獲得から資本主義時代、社会主義やファシズムの勃興、世界大戦などについて高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できていない。
評価項目4	中国(明・清から現代まで)について高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できて、内容も説明できる。	中国(明・清から現代まで)について高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できる。	中国(明・清から現代まで)について高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できていない。
評価項目5	戦後から米ソ冷戦構造、冷戦構造崩壊後の世界について高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できて、内容も説明できる。また、上記の時代にあたる日本および地域史について基礎的な事項が理解できて、内容も説明できる。	戦後から米ソ冷戦構造、冷戦構造崩壊後の世界について高等学校履修程度の基礎的な用語が理解できる。また上記の時代にあたる日本および地域史について基礎的な事項が理解できる。	戦後から米ソ冷戦構造、冷戦構造崩壊後の世界および、上記の時代にあたる日本および地域史について基礎的な用語が理解できていない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1)ルネサンス以降の近代ヨーロッパ、絶対王政時代などについて理解できる。 (2)市民革命、産業革命などについて理解できる。 (3)植民地獲得から資本主義時代、社会主義やファシズムの勃興、世界大戦などについて理解できる。 (4)中国(明・清から現代まで)について理解できる。 (5)戦後から米ソ冷戦構造、冷戦構造崩壊後の世界および、上記の時代にあたる日本および地域史について理解できる。
授業の進め方・方法	2年の歴史では、ルネサンス、大航海時代、宗教改革から絶対王政、市民革命期、帝国主義から二度の世界大戦を経て、米ソ冷戦構造からソ連崩壊後の現代にいたるまでのはば広い対象に関して学習する。中国に関しては明と清およびその後の中華人民共和国にいたるまでを学ぶなど、近代以降の歴史について学習する。グローバル化した世界の展開を理解するのは、語学ばかりでなく、世界の歴史や文化についての幅広い知識が必要である。本学年では、現代にいたるまでの世界の動向について、日本も含めて学習する。
注意点	(1)シラバス内容に照らし合わせて予習をしてくること。 (2)課題などは必ず期限内に提出すること。 (3)学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1.ルネサンス、大航海時代、宗教改革	ガイダンス 1-(1) ヨーロッパのルネサンス全体について理解できる。
		2週	1.ルネサンス、大航海時代、宗教改革	1-(2)大航海時代や日本についての影響について理解できる 。
		3週	1.ルネサンス、大航海時代、宗教改革	1-(3)宗教改革とプロテスタントについて理解できる。
		4週	2.絶対王政、啓蒙専制君主、植民地獲得	2-(1)絶対王政時代について理解できる 。
		5週	2.絶対王政、啓蒙専制君主、植民地獲得	2-(2) 啓蒙専制君主について理解できる。
		6週	2.絶対王政、啓蒙専制君主、植民地獲得	2-(3)ヨーロッパ諸国の植民地獲得運動や、ヨーロッパの思想や科学などについて理解できる 。
		7週	前期中間試験	前期中間試験
		8週	3イギリス市民革命、産業革命、資本主義の時代、フランス革命とナポレオンなど	答案返却と解説 3-(1)イギリス市民革命について理解できる 。
	2ndQ	9週	3イギリス市民革命、産業革命、資本主義の時代、フランス革命とナポレオンなど	3-(2)産業革命やその背景、資本主義について理解できる 。

		10週	3イギリス市民革命、産業革命、資本主義の時代、フランス革命とナポレオンなど	3-(3)フランス革命やナポレオンの台頭について理解できる 。
		11週	3イギリス市民革命、産業革命、資本主義の時代、フランス革命とナポレオンなど	3-(4)ナポレオン没落後の西欧での市民革命の進行について理解できる 。
		12週	3イギリス市民革命、産業革命、資本主義の時代、フランス革命とナポレオンなど	3-(5)啓蒙思想やヨーロッパの科学の発展について理解できる 。
		13週	3イギリス市民革命、産業革命、資本主義の時代、フランス革命とナポレオンなど	3-(6) アメリカの独立について理解できる。
		14週	4.明と清、近代ヨーロッパ諸国の植民地支配、社会主義思想、両世界大戦の時代	4-(1) 明と清について理解できる。
		15週	4.明と清、近代ヨーロッパ諸国の植民地支配、社会主義思想、両世界大戦の時代	4-(2) 欧米列強の植民地支配とアジア、アフリカ、明治維新や地域について理解できる。
		16週	前期末試験	前期末試験
後期	3rdQ	1週	4.明と清、近代ヨーロッパ諸国の植民地支配、社会主義思想、両世界大戦の時代	答案返却と解説 4-(3) 植民地側の抵抗について理解できる。
		2週	4.明と清、近代ヨーロッパ諸国の植民地支配、社会主義思想、両世界大戦の時代	4-(4)社会主義思想の普及や欧米市民社会について理解できる。
		3週	4.明と清、近代ヨーロッパ諸国の植民地支配、社会主義思想、両世界大戦の時代	4-(5)帝国主義の時代の世界情勢について理解できる。
		4週	4.明と清、近代ヨーロッパ諸国の植民地支配、社会主義思想、両世界大戦の時代	4-(6)欧米列強による中国半植民地化と辛亥革命について理解できる。
		5週	4.明と清、近代ヨーロッパ諸国の植民地支配、社会主義思想、両世界大戦の時代	4-(7)第一次世界大戦と日本や地域について理解できる 。
		6週	4.明と清、近代ヨーロッパ諸国の植民地支配、社会主義思想、両世界大戦の時代	4-(8)ソヴィエト革命の展開について理解できる。
		7週	4.明と清、近代ヨーロッパ諸国の植民地支配、社会主義思想、両世界大戦の時代	4-(9)戦間期の時代、世界恐慌やファシズムの台頭 について理解できる。
		8週	4.明と清、近代ヨーロッパ諸国の植民地支配、社会主義思想、両世界大戦の時代	4-(10) 第二次世界大戦、太平洋戦争について理解できる。
	4thQ	9週	5.戦後と米ソ冷戦構造の時代、ソ連崩壊から冷戦終結後の世界、現代文明の諸問題など	5-(1)東西両陣営の形成について理解できる。
		10週	5.戦後と米ソ冷戦構造の時代、ソ連崩壊から冷戦終結後の世界、現代文明の諸問題など	5-(2)朝鮮戦争やキューバ危機、世界各地での冷戦構造の展開について理解できる。
		11週	後期中間試験	後期中間試験
		12週	5.戦後と米ソ冷戦構造の時代、ソ連崩壊から冷戦終結後の世界、現代文明の諸問題など	答案返却と解説 5-(3)米ソ冷戦構造の新展開と雪解けなどについて理解できる 。
		13週	5.戦後と米ソ冷戦構造の時代、ソ連崩壊から冷戦終結後の世界、現代文明の諸問題など	5-(4)戦後日本の歩みについて、現代にいたるまで理解できる。
		14週	5.戦後と米ソ冷戦構造の時代、ソ連崩壊から冷戦終結後の世界、現代文明の諸問題など	5-(5)ソ連崩壊から冷戦終結後の現代について理解できる 。
		15週	5.戦後と米ソ冷戦構造の時代、ソ連崩壊から冷戦終結後の世界、現代文明の諸問題など	5-(6)地域紛争や、科学・産業の発展、思想とその諸問題について理解できる。
		16週	学年末試験	学年末試験、答案返却と解説

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	課題	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	15	15	0	100
基礎的能力	50	0	0	15	15	0	80
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	数学ⅡA

科目基礎情報

科目番号	1921004	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	新基礎数学（大日本図書）、新基礎数学問題集（大日本図書）、新微分積分Ⅰ（大日本図書）、新微分積分Ⅰ問題集（大日本図書）		
担当教員	平井 剛和		

到達目標

(1)さまざまな初等関数について、その性質とグラグを理解が理解できる。
(2)三角関数、指数関数、対数関数のグラフと性質が理解できる。
(3)極限値の計算ができて、導関数の定義が理解できる。
(4)導関数の性質を用いて、いろいろな関数の微分が計算できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
いろいろな関数	関数の性質を一般的に理解し、いろいろな関数を系統的に捉えている。	いろいろな関数の性質を理解し、そのグラフをかくことができる。	いろいろな関数の性質を理解し、そのグラフをかくことができない。
三角関数	三角関数の性質やグラフを理解し、その基礎的な活用ができる。	三角関数の性質やグラフを理解し、様々な式変形や、方程式・不等式を解くことができる。	三角関数の性質やグラフが理解出来ず、様々な式変形や、方程式や不等式を解くことが出来ない。
指数関数と対数関数	指数関数と対数関数の性質やグラフを理解し、その基礎的な活用ができる。	三角関数の性質やグラフを理解し、様々な式変形や、方程式・不等式を解くことができる。	三角関数の性質やグラフを理解することが出来ず、様々な式変形や、方程式や不等式が解くことができない。
関数の極限と導関数	関数の極限値を理解し、導関数を導くことができる。	関数の極限を計算することが出来て、いろいろな関数の導関数を導くことができる。	関数の極限を計算することができず、いろいろな関数の導関数を導くことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1) 数学の科目を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門科目を理解できる能力を身につける授業を行う。 (2) 1年次に続いて更なる計算技術の定着を目標とする。 (3)無理関数などの初等的関数の性質を理解することを目標とする。 (4)三角関数の性質を理解することを目標とする。 (5)指数関数と対数関数の関係と性質を理解することを目標とする。 (6)微分法の概念を理解し、様々な関数の導関数の計算ができるようにする。 (7) 学習内容の理解を深め、3年次の数学や専門科目の「応用数学」に対応できるようにする。
授業の進め方・方法	教科書の内容に沿った演習中心の授業を行う。また、授業で習った内容を課題として出題する。
注意点	(1) 今後学ぶ数学や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・問題集などを活用して主体的に学習すること。 (3) 復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	いろいろな関数	無理関数のグラフをかくことができる。
		2週	いろいろな関数	いろいろな関数の性質を理解できる。
		3週	いろいろな関数	逆関数の提議と性質が理解できる。
		4週	三角関数	弧度法が理解できる。
		5週	三角関数	三角関数のグラフがかける。
		6週	三角関数	三角関数の方程式が解ける。
		7週	三角関数	三角関数の不等式が解ける。
		8週	三角関数	加法定理を用いた計算ができる。
	2ndQ	9週	三角関数	二倍角公式と半角公式を用いた計算ができる。
		10週	三角関数	三角関数の合成ができる。
		11週	指数関数	累乗根の計算ができる。
		12週	指数関数	指数の拡張ができる。
		13週	指数関数	指数関数のグラグがかける。
		14週	指数関数	指数関数の方程式と不等式がとける。
		15週	前期中間試験	
		16週	前期中間試験の復習	前期中間試験の復習を行い、夏休みの課題の範囲が理解できる。
後期	3rdQ	1週	対数関数	対数の定義が理解できる。
		2週	対数関数	対数の性質が理解できる。
		3週	対数関数	底の変換公式を用いた計算ができる。
		4週	対数関数	対数関数のグラフをかくことができる。
		5週	対数関数	対数の方程式を解くことができる。
		6週	対数関数	常用対数の理解ができる。
		7週	関数の極限	関数の極限値を計算できる。
		8週	関数の極限	無限大の概念を理解できる。

	4thQ	9週	関数の極限	微分係数の定義を理解できる。
		10週	関数の極限	導関数を定義を用いて導くことができる。
		11週	後期中間試験	
		12週	導関数	導関数の性質を使って微分の計算ができる。
		13週	導関数	導関数の性質を使って微分の計算ができる。
		14週	導関数	三角関数の微分の計算ができる。
		15週	導関数	自然対数の底の定義を理解し、指数関数の微分が計算できる。
		16週	学年末試験	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	5	5	5	20	5	100
基礎的能力	40	5	5	5	20	5	80
専門的能力	15	0	0	0	0	0	15
分野横断的能力	5	0	0	0	0	0	5

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	数学ⅡB

科目基礎情報

科目番号	1921005	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	新基礎数学（大日本図書）、新基礎数学問題集（大日本図書）		
担当教員	菅田 慶		

到達目標

(1) 直線や円の方程式を求めることができる。
(2) ベクトルの概念を理解し、平面図形・空間図形への応用ができる。
(3) ベクトルを利用して直線・平面・球の方程式を理解し、様々な問題を適切に処理することができる。
(4) 行列の性質や逆行列について理解し、基本的な計算ができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	直線や円の方程式を用いて、複雑な問題を処理することができる。	直線や円の方程式を求めることができる。	直線や円の方程式を求めることができない。
評価項目2	ベクトルを用いた解法と用いない解法を比較することにより、ベクトルの有用性について認識している。	ベクトルの概念を理解し、平面図形・空間図形への応用ができる。	ベクトルの概念を理解していない。
評価項目3	ベクトルと直線・平面・球の方程式の関係性を深く理解し、複雑な問題を処理することができる。	ベクトルを利用して直線・平面・球の方程式を理解し、様々な問題を適切に処理することができる。	ベクトルを利用して直線・平面・球の方程式を理解していない。
評価項目4	連立方程式の行列を用いた解法について、計算過程を論理的に説明できる。	行列の性質や逆行列について理解し、基本的な計算ができる。	行列の性質や逆行列について理解しておらず、基本的な計算ができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1) 数学を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門的内容を理解する能力を身につける授業を行う。 (2) 1年次に続いて更なる計算技術の定着を目標とする。 (3) ベクトルの概念を理解し、基礎から応用まで幅広く学習する。 (4) 行列の概念を理解し、基本的な計算技術を習得する。 (5) 学習内容の理解を深め、3年次の数学や専門科目に対応できるようにする。
授業の進め方・方法	(1) 今後学ぶ数学や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・問題集などを活用して主体的に学習すること。 (3) 復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	図形と式	2点間の距離を求めることができる。
		2週	図形と式	内分点の座標を求めることができる。
		3週	図形と式	通る点や傾きから直線の方程式を求めることができる。
		4週	図形と式	2つの直線の平行・垂直条件を理解している。
		5週	図形と式	基本的な円の方程式を求めることができる。
		6週	前期中間試験・答案返却・解説	
		7週	平面ベクトル	ベクトルの定義が理解できる。
		8週	平面ベクトル	平面ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。
	2ndQ	9週	平面ベクトル	平面ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。
		10週	平面ベクトル	平面ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。
		11週	平面ベクトル	平面ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。
		12週	平面ベクトル	平面ベクトルの内積を求めることができる。
		13週	平面ベクトル	平面ベクトルの内積を求めることができる。
		14週	平面ベクトル	平面において、ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。
		15週	平面ベクトル	平面において、ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。
		16週	前期末試験・答案返却・解説	
後期	3rdQ	1週	空間ベクトル	空間ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。
		2週	空間ベクトル	空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。
		3週	空間ベクトル	空間ベクトルの内積を求めることができる。
		4週	空間ベクトル	空間において、ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。

		5週	直線・平面・球の方程式	ベクトル方程式を用いて、直線・平面・球の方程式を求めることができる。
		6週	直線・平面・球の方程式	ベクトル方程式を用いて、直線・平面・球の方程式を求めることができる。
		7週	直線・平面・球の方程式	ベクトル方程式を用いて、直線・平面・球の方程式を求めることができる。
		8週	直線・平面・球の方程式	直線・平面・球の方程式を用いて応用問題を解くことができる。
	4thQ	9週	後期中間試験・答案返却・解説	
		10週	行列	行列の定義を理解している。
		11週	行列	行列の和・差・数との積の計算ができる。
		12週	行列	行列の積の計算ができる。
		13週	行列	行列の積の計算ができる。
		14週	行列	逆行列の定義を理解し、2次の正方行列の逆行列を求めることができる。
		15週	行列	連立方程式への応用ができる。
		16週	学年末試験・答案返却・解説	

評価割合

	試験	小テスト	課題	授業態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	10	20	10	0	0	100
基礎的能力	60	10	20	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	数学ⅡC

科目基礎情報

科目番号	1921006	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	新線形代数（大日本図書）、新線形代数問題集（大日本図書）		
担当教員	菅田 慶,平井 剛和		

到達目標

(1) さまざまな初等関数について、その性質とグラグを理解が理解できる。
(2) 三角関数、指数関数、対数関数のグラフと性質が理解できる。
(3) 極限値の計算ができて、導関数の定義が理解できる。
(4) 導関数の性質を用いて、いろいろな関数の微分が計算できる。
(5) 直線や円の方程式を求めることができる。
(6) ベクトルの概念を理解し、平面図形・空間図形への応用ができる。
(7) ベクトルを利用して直線・平面・球の方程式を理解し、様々な問題を適切に処理することができる。
(8) 行列の性質や逆行列について理解し、基本的な計算ができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	関数の性質を一般的に理解し、いろいろな関数を系統的に捉えている。	いろいろな関数の性質を理解し、そのグラフをかくことができる。	いろいろな関数の性質を理解できず、そのグラフをかくことができない。
評価項目2	三角関数の性質やグラフを理解し、その基礎的な活用ができる。	三角関数の性質やグラフを理解し、様々な式変形や、方程式・不等式を解くことができる。	三角関数の性質やグラフが理解できず、様々な式変形や、方程式や不等式を解くことができない。
評価項目3	指数関数と対数関数の性質やグラフを理解し、その基礎的な活用ができる。	指数関数・対数関数の性質やグラフを理解し、様々な式変形や、方程式・不等式を解くことができる。	指数関数・対数関数の性質やグラフが理解できず、様々な式変形や、方程式・不等式を解くことができない。
評価項目4	関数の極限値を理解し、導関数を導くことができる。	関数の極限を計算することができて、いろいろな関数の導関数を導くことができる。	関数の極限を計算することができず、いろいろな関数の導関数を導くことができない。
評価項目5	直線や円の方程式を用いて、複雑な問題を処理することができる。	直線や円の方程式を求めることができる。	直線や円の方程式を求めることができない。
評価項目6	ベクトルを用いた解法と用いない解法を比較することにより、ベクトルの有用性について認識している。	ベクトルの概念を理解し、平面図形・空間図形への応用ができる。	ベクトルの概念を理解していない。
評価項目7	ベクトルと直線・平面・球の方程式の関係性を深く理解し、複雑な問題を処理することができる。	ベクトルを利用して直線・平面・球の方程式を理解し、様々な問題を適切に処理することができる。	ベクトルを利用して直線・平面・球の方程式を理解していない。
評価項目8	連立方程式の行列を用いた解法について、計算過程を論理的に説明できる。	行列の性質や逆行列について理解し、基本的な計算ができる。	行列の性質や逆行列について理解しておらず、基本的な計算ができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1) 数学を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門的内容を理解する能力を身につける授業を行う。 (2) 1年次に続いて更なる計算技術の定着を目標とする。 (3)無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の性質を理解することを目標とする。 (4)微分法の概念を理解し、様々な関数の導関数の計算ができるようにする。 (5) ベクトルの概念を理解し、基礎から応用まで幅広く学習する。 (6) 行列の概念を理解し、基本的な計算技術を習得する。 (7) 学習内容の理解を深め、3年次の数学や専門科目に対応できるようにする。
授業の進め方・方法	教科書の内容に沿った演習中心の授業を行う。また、授業で習った内容を課題として出題する。
注意点	(1) 今後学ぶ数学や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・問題集などを活用して主体的に学習すること。 (3) 復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	いろいろな関数	無理関数のグラフをかくことができる。
		2週	三角関数	弧度法が理解でき、三角関数のグラフがかける。
		3週	図形と式	2点間の距離・内分点の座標を求めることができる。
		4週	図形と式	通る点や傾きから直線の方程式を求めることができる。
		5週	図形と式	基本的な円の方程式を求めることができる。
		6週	前期中間試験	
		7週	三角関数	三角関数の方程式・不等式が解ける。
		8週	三角関数	加法定理・２倍角公式・半角公式を用いた計算ができ、三角関数の合成ができる。
	2ndQ	9週	指数関数	累乗根の計算ができる。
		10週	指数関数	指数方程式・不等式が解ける。
		11週	平面ベクトル	ベクトルの定義が理解できる。

		12週	平面ベクトル	平面ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。
		13週	平面ベクトル	平面ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。
		14週	平面ベクトル	平面ベクトルの内積を求めることができる。
		15週	平面ベクトル	平面において、ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。
		16週	前期末試験	
後期	3rdQ	1週	対数関数	対数の定義・性質が理解でき、基本的な計算ができる。
		2週	対数関数	対数の方程式を解くことができる。
		3週	関数の極限	関数の極限値を計算できる。
		4週	空間ベクトル	空間ベクトルの基本的な計算(和・差・定数倍)ができ、大きさを求めることができる。
		5週	空間ベクトル	空間ベクトルの成分表示ができ、内積等の基本的な計算ができる。
		6週	空間ベクトル	空間において、ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。
		7週	直線・平面・球の方程式	ベクトル方程式を用いて、直線・平面・球の方程式を求めることができる。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	関数の極限	導関数を定義を用いて導くことができる。
		10週	導関数	導関数の性質を使って微分の計算ができる。
		11週	導関数	三角関数・指数関数の微分の計算ができる。
		12週	行列	行列の和・差・数との積の計算ができる。
		13週	行列	行列の積の計算ができる。
		14週	行列	逆行列の定義を理解し、2次の正方行列の逆行列を求めることができる。
		15週	行列	連立方程式への応用ができる。
		16週	学年末試験	

評価割合

	試験	小テスト	課題	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	40	40	20	0	0	100
基礎的能力	0	40	40	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	物理

科目基礎情報

科目番号	1921007	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	「物理基礎」高木堅志郎、植松恒夫編（啓林館）、「物理」高木堅志郎、植松恒夫編（啓林館）、「学習到達度試験（物理）過去問演習」藤原滋泰（ http://www.hiroshima-cmt.ac.jp/faculty/ippan/007.html ）		
担当教員	藤原 滋泰		

到達目標

(1) 物体に力が働いた時の運動の状態を理解出来る様になり、具体的な計算ができる様になる。
(2) エネルギーと仕事の関係、エネルギー相互の変換、エネルギー保存則を学び、理解を深められる様になる。
(3) 波の基本的性質を学び、身近な波である音や光について理解し、波についての各種の物理量を計算できる様になる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	力の概念と各法則について理解しており、複雑な合成や分解の計算結果を運動方程式に正しく代入し、計算することも出来る。	力の種類と単位、フックの法則、力の合成と分解、力の成分、力の釣り合い、作用･反作用の法則、慣性の法則、運動の法則について説明でき、運動方程式を解ける。	力についての基本的な概念を説明できず、力についての法則も理解出来ない。運動方程式を立てることも出来ない。
評価項目2	複数の力が働く場合でも運動方程式を立てることが出来、それらを正しく連立して解くことができる。摩擦角についての問題も解くことができる。	張力が働く場合の運動、押し合う力が働く２物体の運動、摩擦力が働く場合の運動、空気抵抗が働く場合の運動、圧力と浮力について基本的な問題を解くことができる。	力の働きについて説明できない。または、力のベクトルを図形に記入することが出来ない。よって、運動方程式を立てることも出来ない。
評価項目3	波の位相、横波と縦波、波の独立性と重ね合わせの原理、定常波、自由端反射と固定端反射についての応用的な問題を解くことが出来る。	媒質の振動、等速円運動と単振動、波の位相、横波と縦波、波の独立性と重ね合わせの原理、定常波、自由端反射と固定端反射についての基本的な問題を解ける。	波や等速円運動、単振動の基本的な概念を理解しておらず、波についての基本的な物理量の計算ができない。自由端や固定端で反射した波についての簡単な作図もできない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1) 自動車の様な乗り物の運動や、ボールの運動の様な、速さや動く向きが絶えず変化し、良く観察すると複雑な運動を正確に表す方法を学ぶ。 (2) 物を持ち上げたり運んだりするには力が必要であり、身の回りの運動する物体には、重力や摩擦力が働いている。この様な力の性質を学び、物体に力が働いた時の運動状態について学習する。 (3) 運動がエネルギー保存則により理解出来る事を学び、エネルギーと仕事の関係、エネルギーの種類と相互変換なども学習する。 (4) 波の基本的性質を学び、身近な波である音や光について理解し、波についての各種の物理量を計算できる様になる。
授業の進め方・方法	(1) 講義を行い、ノートをとってもらった後に、演習プリントを配布し、問題を解いてもらう。 (2) 問題を解き、発表する際には、質疑応答を行うことで互いの理解を深める様にする。 (3) 理解した内容をチェックするために、Blackboardのオンラインテストを受講して下さい。 (4) Blackboardから配信している、学習到達度試験対策の電子書籍をダウンロードして、問題演習に役立てて下さい。
注意点	(1) 物理量の持つ意味と単位を明確に理解する。例えば、電子、電流、磁界、加速度、力、運動の法則、運動方程式、モーメントと重心、熱量、比熱、理想気体といった用語を自分の言葉で説明出来るくらい明確に理解する。用語の捕らえ方の違いから来る誤解を招かない様に注意する。 (2) 用語の意味を踏まえた上で、法則の意味（イメージ）がつかめているかどうか、公式の導出過程が解ったかどうかを確認する。ノートに枠で囲ってある式は必ず覚える。 (3) 特に試験前には、演習プリントを自力で解き直す（最初から、ノートや解答を見て答えだけを探そうとしない）。自分で考えながら解く事で、法則の適用の仕方を身に付ける。 (4) 授業態度を含め、あたりまえの事をきちんとやる。苦手だからこそ、ノート、演習プリントは完全に提出できる様、毎時間、常に整えておきましょう。 試験問題の大半を占める演習プリントの問題を解ける様にしておく。解けない場合は、必ず質問して下さい。質問をする時は、ノートやプリントを持って来て下さい。 (5) 何が足りなかったから解けなかったのか、何が理解出来ていれば解けていたのかを認識出来る様に、ある程度の長時間を掛けて頑張って下さい。 (6) 専門科目の「工業力学」、「材料力学」、「電気回路」、「電子電気工学」、「電磁気学」、「応用物理」等に発展して行く為の基礎を取り扱う。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1.運動の法則	1-(1) 慣性の法則、運動の法則について説明でき、問題を解くことができる。 1-(2) 運動方程式、重力と質量、単位と次元について説明でき、運動方程式を解くことができる。
		2週	2. 運動方程式の応用	2-(1) 張力が働く場合の運動、押し合う力が働く２物体の運動について説明でき、運動方程式を解くことができる。
		3週	2. 運動方程式の応用	2-(2) 摩擦力が働く場合の運動、静止摩擦力、摩擦角、動摩擦力についての問題を解くことができる。
		4週	2. 運動方程式の応用	2-(3) 空気抵抗が働く場合の運動について説明でき、運動方程式を解くことができる。
		5週	2. 運動方程式の応用	2-(4) 圧力と浮力についての計算ができる。
		6週	3. 仕事とエネルギー	3-(1) 仕事の原理、仕事、仕事率
		7週	3. 仕事とエネルギー	3-(2) 負の仕事、曲面に沿って動く場合の仕事
		8週	前期中間試験 答案返却・解説	

	2ndQ	9週	3. 仕事とエネルギー	3-(3) 物体の運動エネルギーに関する計算ができる。 3-(4) 運動エネルギーと仕事に関する計算ができる。
		10週	3. 仕事とエネルギー	3-(5) 重力による位置エネルギーに関する計算ができる。
		11週	3. 仕事とエネルギー	3-(6) 弾性力による位置エネルギーに関する計算ができる。
		12週	3. 仕事とエネルギー	3-(7) 力学的エネルギー保存則について理解し、様々な物理量の計算に利用できる。
		13週	4. 温度と熱	4-(1) 原子や分子の熱運動と絶対温度との関連について理解している。 4-(2) 物体の熱容量と比熱について理解している。
		14週	4. 温度と熱	4-(3) 時間の推移とともに、熱の移動によって熱平衡状態に達することを理解している。 4-(4) 熱量の保存則を表す式を立て、熱容量や比熱を求めることができる。
		15週	4. 温度と熱	4-(5) 気体の内部エネルギーについて理解している。 4-(6) 熱力学第一法則について理解している。 5-(7) ボイル・シャルルの法則について説明できる。
		16週	前期期末試験 答案返却・解説	
後期	3rdQ	1週	4. 温度と熱	4-(7) エネルギーには多くの形態があり互いに変換できることを、具体例を挙げて説明できる。 4-(8) 不可逆変化について理解し、具体例を挙げることができる。
		2週	4. 温度と熱	4-(9) 熱機関について理解し、熱効率に関する計算ができる。
		3週	5. 波の伝わり方	5-(1) 波の波長、周期、振動数、速さについて説明と計算が出来る。
		4週	5. 波の伝わり方	5-(2) 横波と縦波についての計算や作図ができる。
		5週	6. 波の重ね合わせ・干渉と回折	6-(1) 波の重ね合わせの原理を理解している。 6-(2) 波の独立性を理解している。
		6週	6. 波の重ね合わせ・干渉と回折	6-(3) 定常波、自由端反射と固定端反射についての計算や作図ができる。
		7週	6. 波の重ね合わせ・干渉と回折	6-(4) 波面、２つの波の干渉、波の回折の問題が解ける。
		8週	後期中間試験 答案返却・解説	
	4thQ	9週	7. 波の反射と屈折・音	7-(1) 波の反射と屈折、ホイヘンスの原理についての問題が解ける。 7-(2) 音波について説明でき、音波の性質に関する問題が解ける。
		10週	7. 波の反射と屈折・音	7-(3) 音源の振動、ドップラー効果についての計算ができる。
		11週	7. 波の反射と屈折・音	7-(4) 弦の長さと、弦を伝わる波の速さから、弦の固有振動数を求めることができる。
		12週	7. 波の反射と屈折・音	7-(5) 気柱の長さと音速から、開管、閉管の固有振動数を求めることができる（開口端補正は考えない）。
		13週	7. 波の反射と屈折・音	7-(6) 共振、共鳴現象について具体例を挙げることができる。
		14週	8. 光	8-(1) 光の進み方、光の性質についての問題が解ける。
		15週	8. 光	8-(2) レンズ、光の回折と干渉についての計算ができる。
		16週	学年末試験 答案返却・解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	0	20	0	0	100
基礎的能力	40	5	0	20	0	0	65
専門的能力	30	5	0	0	0	0	35
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	理科総合

科目基礎情報

科目番号	1921008	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	化学基礎（東京書籍）、生物基礎（東京書籍）、レッツトライノート化学基礎		
担当教員	大沼 みお		

到達目標

(1) 物質量について理解し、応用できる。
(2) 気体の性質に関する知識を習得し、応用できる。
(3) 酸と塩基に関する知識を習得し、応用できる。
(4) 酸化還元反応に関する知識を習得し、説明できる。
(5) 生物の特徴の一つである、遺伝と遺伝情報がどのような形で現れるかについて知識を習得し、説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1 物質量	物質量について理解し、発展的な問題を解くことができる。	物質量について理解し、標準的な計算問題を解くことができる。	物質量について理解していない。
評価項目2 化学反応式	化学反応式を理解し、発展的な問題を解くことができる。	化学反応式を理解し、標準的な問題を解くことができる。	化学反応式を理解していない。
評価項目3 酸と塩基	酸と塩基について理解し、発展的な問題を解くことができる。	酸と塩基について理解し、標準的な問題を解くことができる。	酸と塩基について理解していない。
評価項目4 生物の多様性と生態系	生物の多様性と生態系について理解し、発展的な問題を解くことができる。	生物の多様性と生態系について理解し、標準的な問題を解くことができる。	生物の多様性と生態系について理解していない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	化学：1年生で学んだ物質の構造、化学結合などの知識を基礎に、様々な物質の性質や化学変化に関する知識と考え方を習得する。 生物：様々な生命現象を科学的に説明できる様になるための基礎的な知識を学ぶ。
授業の進め方・方法	教科書を用いて講義形式で授業を行います。学習内容に応じて適宜、動画などを視聴します。また、演習を行う時間を適宜設けます。
注意点	(1) 予習復習を行うこと。 (2) 分からない点は放置せずに質問すること。 (3) 宿題は必ず期限内に提出すること。 (4) 携帯電話、居眠り、過度な私語、意味の無い立ち歩きなどは減点対象とします。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1年生（化学）の復習（原子の構造と化学結合） 1.原子量・分子量・式量と物質量	原子の構造と化学結合について理解している。 原子の相対質量と原子量か゛理解できる。
		2週	1.原子量・分子量・式量と物質量	分子量・式量がどのような意味をもつか理解できる。 アボガド口定数を理解し、物質量(mol)を用いて物質の量を表すことができる。物質量に関する問題が解ける。
		3週	1.原子量・分子量・式量と物質量	気体の体積と物質量の関係を理解し、問題が解ける。
		4週	2.溶液の濃度	電離について説明でき、電解質と非電解質の区別ができる。 質量パーセント濃度の説明ができ、質量パーセント濃度の計算ができる。
		5週	2.溶液の濃度	モル濃度の説明ができ、モル濃度の計算ができる。
		6週	原子量・分子量・式量と物質量、溶液の濃度の演習	
		7週	前期中間試験　答案返却・解説	
		8週	3.化学反応式	化学反応を反応物、生成物、係数を理解して組み立てることができる。
	2ndQ	9週	3.化学反応式	化学反応を反応物、生成物、係数を理解して組み立てることができる。
		10週	3.化学反応式	化学反応を用いて化学量論的な計算することができる。
		11週	3.化学反応式	化学反応を用いて化学量論的な計算することができる。
		12週	3.化学反応式	化学反応を用いて化学量論的な計算することができる。
		13週	4.酸と塩基	酸・塩基の定義(ブレンステッドまで)が説明できる。 酸・塩基の化学式から酸・塩基の価数をつけることができる。
		14週	4.酸と塩基	酸・塩基の化学式から酸・塩基の価数をつけることができる。 電離度から酸・塩基の強弱を説明できる。
		15週	化学反応式、酸・塩基の演習	
		16週	前期末試験　答案返却・解説	
後期	3rdQ	1週	前期の復習（物質量と化学反応式）	物質量について理解している。 化学反応を用いて化学量論的な計算することができる。

		2週	前期の復習（酸と塩基）	酸・塩基の定義を理解している。 酸・塩基の価数と強弱を理解している。
		3週	4.酸と塩基	pHが説明でき、pHから水素イオン濃度、水素イオン濃度からpHを計算できる。
		4週	4.酸と塩基	pHが説明でき、pHから水素イオン濃度、水素イオン濃度からpHを計算できる。
		5週	4.酸と塩基	中和反応がどのような反応であるか説明できる。また、中和滴定の計算ができる。
		6週	4.酸と塩基	中和反応がどのような反応であるか説明できる。また、中和滴定の計算ができる。
		7週	4.酸と塩基	中和反応がどのような反応であるか説明できる。また、中和滴定の計算ができる。
		8週	物質量と化学反応式、酸と塩基の演習	
	4thQ	9週	後期中間試験 答案返却・解説	
		10週	1年生（生物）の復習（生物の共通性，細胞とエネルギー）	生物の共通性について理解している。
		11週	生物の多様性と生態系	植生の遷移について説明でき、そのしくみについて説明できる。
		12週	生物の多様性と生態系	世界のバイオームとその分布について説明できる。 日本のバイオームの水平分布、垂直分布について説明できる。
		13週	生物の多様性と生態系	生態系の構成要素(生産者、消費者、分解者、非生物的環境)とその関係について説明できる。 生態ピラミッドについて説明できる。
		14週	生物の多様性と生態系	生態系における炭素の循環とエネルギーの流れについて説明できる。 熱帯林の減少と生物多様性の喪失について説明できる。
		15週	生物の多様性と生態系の演習	
		16週	学年末試験　答案返却・解説	

評価割合

	試験	課題	態度	合計
総合評価割合	70	30	0	100
基礎的能力	70	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	総合英語Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	1921009	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 4
開設学科	一般教科	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	4
教科書/教材	vividEnglish Communication Ⅱ （第一学習社）		
担当教員	江原 智子		

到達目標

(1) まとまった長文として書いてある内容を読み取る。
(2) 使われている語彙や語法を理解し、それらを用いて発話をする。
(3) 既出や新出の文法項目について理解する。
(4) テキストの内容をパラフレーズしたり自らの意思を簡単に英語で表出する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1 内容理解	個々の文だけでなく文章全体の表す内容を十分に理解している。	おおまかに全体を把握している。	不十分に文をたどって全体をつかみ切れていない。
評価項目2 言語教材	テキストに出ている語彙や表現を自らが使うことができるほどマスターしている。	語彙や語法をほぼ理解しているが、十分には使えない。	言語材料を分かっていない。
評価項目3 文法事項	文法事項を十分に分かっている。	だいたい分かっている。	文法事項の大切な箇所が十分に理解できていない。
評価項目４ 表出	自分の意思を伝えるまとまった英文を書くことができる。	読み手にどうにか伝わる英文を書くことができる。	幾つかの文を並べることしかできない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	まとまった文章を読解する力を培うとともに、語彙や語法を習得して発話する力へつなげる。 既習の文法項目を復習し、新たな項目をマスターする。 読み取った内容に基づいた発話をすることも目指す。
授業の進め方・方法	主として通常の読んで訳してゆく方法を採る。 本文をノートに書き写しておき、必ず予習をしておく。 前回の内容の復習を小テストの形で行なうので、復習も必ずやること。
注意点	ノートの作成は平生点として評価する。本文（ポイントを書き込む）、訳（抄訳も可）、板書、単語・熟語一覧（自分の為の）、など。 英和辞典（電子辞書も可）を持参していなければ減点する。 単語、熟語、その他について頻繁に小テストを実施し、また、指示された事について英作文を提出してもらう。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	Lesson 1 Pictograms —— Useful Signs on Streets	進行形・受け身，S+V+C(＝現在分詞・過去分詞)，seem to ～を理解し，文を作ることができる。
		2週		
		3週	Lesson 2 Fun with Pakkun	It is … (for A) to ～，S+V+it+C+to ～，All you have to do is (to) ～を理解し，文を作ることができる。
		4週		
		5週	Lesson 3 Origami Is Not Just a Piece of Paper!	It is＋形容詞＋that-節，S+V+it+C+that-節，S+V+O+O(＝名詞節)を理解し，文を作ることができる。
		6週		
		7週	前期中間試験	
		8週	答案返却と解説 Focus on Grammar ①	文構造(S+V+C，S+V+O+C)を理解し，文を作ることができる。
	2ndQ	9週	Lesson 4 Numbers Talk	関係代名詞の制限用法，関係代名詞の非制限用法，完了形，完了形(受け身)を理解し，文を作ることができる。
		10週		

		11週	Lesson 5 The Doctor in the Stomach	群動詞(受け身)，進行形(受け身)，関係副詞の制限用法，関係副詞の非制限用法を理解し，文を作ることができる。
		12週		
		13週	Lesson 6 Nature for the Next Generation	「時」や「理由」などを表す副詞節， 分詞構文(現在分詞)，「推量」を表す助動詞，助動詞＋have＋過去分詞を理解し，文を作ることができる。
		14週		
		15週	前期末試験	
		16週	答案返却と解説 Focus on Grammar ②	受け身の応用表現(完了・進行・群動詞の受け身)，関係詞(制限・非制限)を理解し，文を作ることができる。
後期	3rdQ	1週	Lesson 7 A Young Man in the Sea Who Made a Change	「時」や「理由」などを表す副詞節，分詞構文(過去分詞)，関係代名詞 … 前置詞， 前置詞＋関係代名詞を理解し，文を作ることができる。
		2週		
		3週	Lesson 8 Streetcars in the 21st Century	仮定法過去，S＋V＋O＋C(＝原形不定詞，現在分詞)，S＋V＋O＋C(＝過去分詞)，同格のthatを理解し， 文を作ることができる。
		4週		
		5週	Lesson 9 The Challenge of Disarmament	have [get]＋O＋過去分詞，完了不定詞，仮定法過去完了， 省略を理解し，文を作ることができる。
		6週		
		7週	後期中間試験	
		8週	答案返却と解説 Focus on Grammar ③	副詞の働きをする句や節(分詞構文，接続詞に導かれる節)，関係詞(関係代名詞が前置詞をともなう形)を理解し，文を作ることができる。
	4thQ	9週	Lesson 10 Inventing Innovative Things for Society	倒置，分詞構文(完了形)，as if＋仮定法，複合関係詞を理解し，文を作ることができる。
		10週		
		11週	Focus on Grammar ④	仮定法，特別な構文(省略，倒置)を理解し，文を作ることができる。
		12週	Reading 1 The Safe	
		13週	Reading 2 The Joker	
		14週	Listen & Speak 1	
		15週	Listen & Speak 2	
		16週	学年末試験 答案返却と解説	

評価割合

	試験	小テスト	レポート課題	合計
総合評価割合	60	30	10	100
基礎的能力	60	30	10	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語表現Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	1921010	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	総合英語　FACTBOOK English Grammar Standard (桐原書店)		
担当教員	桑田 明広		

到達目標

(1)不定詞、動名詞の各用法を理解し、その違いに気づく
(2)分詞の各用法を理解する
(3)関係詞を理解する
(4)比較の各用法を理解する
(5)仮定法の考え方を理解する
(5)仮定法の考え方を理解する

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
準動詞の各用法を理解する	各用法を理解し、それを含む英文の意味を理解する	各用法の意味が言える	各用法が理解できない
関係詞の使われ方を理解する	関係詞を含んだ英文の意味を理解し、関係詞を含む英作文が出来る	関係詞の使われ方を理解する	関係の使われ方が理解できない
比較の各用法を理解する	比較を含んだ英文の意味が分かる	各級の形を理解できる	各級の形が分からない
仮定法を理解する	仮定法の表現が分かり自分でも使うことができる	仮定法の表現が分かる	仮定法の考え方が理解できない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	"(1)中学校・高専1年で学習した語句・文法事項の復習に加え高２程度の語句・文法を学習する (2)文法事項を発展させる（準動詞、関係代名詞、比較の発展、） (3)新出事項を学習する（分詞構文、関係副詞、仮定法） (4)「話す」「書く」を中心として4技能の力を伸ばす (5)重要構文の暗唱と、その重要性を理解する"
授業の進め方・方法	(1) 今後学ぶ英語や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・小テスト・練習課題などを活用して主体的に学習すること。 (3) 予習・復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。 "
注意点	(1)日頃の学習の積み重ねが重要なので、復習を特にしっかりする (2)そのためにもノートをきちんととる (3)繰り返し行う小テストを大事にする

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	１．不定詞・動名詞	不定詞の名詞、形容詞、副詞用法を理解する
		2週	１．不定詞・動名詞	原形不定詞の用法を理解する
		3週	１．不定詞・動名詞	不定詞の完了形、受動形を理解する
		4週	１．不定詞・動名詞	be-to構文を理解する
		5週	１．不定詞・動名詞	動名詞の各用法、完了形、受動形を理解する
		6週	１．不定詞・動名詞	不定詞と動名詞の違いを理解する
		7週	前期中間試験	
		8週	試験の返却、 ２．分詞	現在分詞、過去分詞の形を理解する
	2ndQ	9週	２．分詞	現在分詞、過去分詞の意味の違いを理解する
		10週	２．分詞	分詞の限定用法を理解する
		11週	２．分詞	限定用法のうち、特に後置修飾を理解する

		12週	２．分詞	分詞構文を理解する
		13週	２．分詞	独立分詞構文を理解する
		14週	２．分詞	動名詞と、現在分詞の違いを理解する
		15週	総まとめ	不定詞、動名詞、分詞のまとめをする
		16週	試験返却、説明	試験の解説とともに前期の総復習をする
後期	3rdQ	1週	３．関係詞	主格、目的格を理解する
		2週	３．関係詞	上記に加え、所有格を理解する
		3週	３．関係詞	whatの使われ方を理解する
		4週	３．関係詞	関係副詞を理解する
		5週	３．関係詞	非制限用法を理解する
		6週	３．関係詞	複合関係詞を理解する
		7週	３．関係詞	関係詞のまとめをする
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	試験返却、説明 ４．比較	試験の間違いの箇所に気づく 比較級、最上級の形を理解する
		10週	４．比較	原級、比較級の意味を理解する
		11週	４．比較	最上級の意味を理解する
		12週	４．比較	最上級⇔比較級、原級の書き換えが出来る 比較を含んだ熟語を理解する
		13週	５．仮定法	仮定法の考え方を理解する
		14週	５．仮定法	仮定法を用いた表現を理解する
		15週	総まとめ	1年間の学習内容の重要事項を復習する
		16週	試験返却、説明	重要点を復習する

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	5	0	35	100
基礎的能力	60	0	0	5	0	35	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	保健体育Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	1921011	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	最新高等保健体育		
担当教員	橋本 真		

到達目標

1 自分や周囲の心身の健康・安全について理解し、ひとりひとりが主体的に授業におけるルールを意識して実行できる。
2 保健分野の内容について正しい知識を習得し、それに基づいて自分の考えを表明できる。
3 球技では個人技能だけでなく集団技能を習得する。
4水泳では背泳ぎの泳法を習得する。
5 器械運動では自分の技能に合った技の組み合わせができる。
6 CLIL学習では体育やスポーツを通じて英語を活用できるようにする。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールにうついてについて、自主的に率先して理解や判断のもと適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解し適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解して適切な行動ができない。
評価項目2	保健分野の内容について正しい知識を習得し、それに基づいて自分の考えを表明できる。	保健分野の内容について正しい知識を習得している。	保健分野の内容について正しい知識を習得していない。
評価項目3	パス、ドリブル、スペースについての理解などの個人技能だけでなく、集団での戦術などの技能についても習得している。	パス、ドリブル、スペースについての理解などの個人技能を習得している。	パス、ドリブル、スペースについての理解などの個人技能を習得していない。
評価項目4	背泳ぎに必要な技能を習得しているだけでなく、その技術を周囲に対して教授することができる。	背泳ぎに必要な技能を習得している。	背泳ぎに必要な技能を習得していない。
評価項目5	器械運動に必要な技能を習得し技の組み合わせを考えることができるだけでなく、その技術を周囲に対して教授することができる。	器械運動に必要な技能を習得し技の組み合わせを考えることができる。	器械運動に必要な技能を習得し技の組み合わせを考えることができない。
評価項目6	率先してCLIL学習について、取り組むことができる。	CLIL学習について、取り組むことができる。	CLIL学習について、取り組むことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1)体育の学習を通じて、運動やスポーツをすることの楽しさを体験し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する心身を醸成する。 (2)(1)のために必要な豊かな心、生きる力および規範意識の重要性について理解しながら、主体的、計画的に自身の健康と体力向上を考えて実行できる授業を展開する。 ※体育実技と保健の評価割合は70%と30%とする。
授業の進め方・方法	通常の授業はグラウンドや体育館などの体育施設で実技を行なう。準備運動やストレッチング、トレーニングを実施し、個人の体力や技能の向上を図るとともに、ゲーム中での技術や判断、戦術理解などの総合的な能力を体得する。天候や施設などの状況により、シラバスどおりには実施できない場合がある。
注意点	(1) 授業時の服装は、本校指定の体操服に限る。 (2) 安全への配慮を考慮して、当然のことながら装飾品を外し、爪を切るなど自己安全管理を求める。 (3) シラバスの項目・内容を確認して、ルール等を事前に予習しておく。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション、からだつくり運動	からだつくり運動の意義や必要性について理解している
		2週	体力テスト	体力テストの意義や必要性について理解している
		3週	体力テスト	体力テストの各調査項目について適切な実施方法を実行している
		4週	ソフトボール	ソフトボールの基本用語やルールについて理解している
		5週	ソフトボール	バッティングについて適切な動作を習得している
		6週	ソフトボール	守備時の適切な動き方について理解している
		7週	ソフトボール	守備時の適切な動き方について理解している
		8週	薬物乱用と健康	薬物について正しい知識を習得し、自分の意見を表明できる
	2ndQ	9週	ウォータースポーツ	背泳ぎについて効率的なフォームで最低25メートル泳ぐことができる
		10週	ウォータースポーツ	背泳ぎについて効率的なフォームで最低25メートル泳ぐことができる
		11週	ウォータースポーツ	10分間泳に必要なフォームを習得している
		12週	ウォータースポーツ	水球の基本用語やルールについて理解している
		13週	ウォータースポーツ	水球の基本用語やルールについて理解している
		14週	スポーツと栄養	スポーツと栄養の関係について正しい知識を習得し、自分の私生活
		15週	前期末試験	

		16週	前期末試験返却・解説	
後期	3rdQ	1週	器械運動（CLIL学習）	器械運動の基本用語や安全について理解している。
		2週	器械運動（CLIL学習）	器械運動の基本用語や安全について理解している
		3週	器械運動（CLIL学習）	自分ができる技を組み合わせて発表できる
		4週	器械運動（CLIL学習）	自分ができる技を組み合わせて発表できる
		5週	器械運動（CLIL学習）	自分ができる技を、周囲に対して教授することができる
		6週	クラスマッチ	
		7週	クラスマッチ	
		8週	飲酒と健康	飲酒について正しい知識を習得し、自分の意見を表明できる
	4thQ	9週	バスケットボール	バスケットボールの基本用語やルールについて理解している
		10週	バスケットボール	ゲーム中にドリブル、パス、シュートなど適切なプレーを選択している
		11週	バスケットボール	チームでポジションや戦術について考えて実践している
		12週	バスケットボール	チームでポジションや戦術について考えて実践している
		13週	アダプテッドスポーツ	障がい者のスポーツについて理解し、自分の考えを述べることができる
		14週	まとめ	2年次の学習内容について理解している
		15週	学年末試験	
		16週	学年末試験返却・解説	

評価割合

	試験	レポート課題	発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	20	10	70	0	30	200
体育実技	0	0	0	70	0	30	100
保健	70	20	10	0	0	0	100

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	国語I

科目基礎情報

科目番号	1931001	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	『現代文Ｂ』（桐原書店）、『常用漢字　ダブルクリア　三訂版』（尚文出版）。その他、必要に応じて配布する。		
担当教員	山下 航正		

到達目標

(1)文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。
(2)鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、感受性を培うことができる。
(3)読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。
(4)現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。
(5)情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	文学作品について、鑑賞の方法を理解し、実践できる。また、幅広い文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。	文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。	文学作品について、鑑賞の方法を理解できない。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解したり、作品の意義について意見を述べることができない。
評価項目2	鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、十分に感受性を培うことができる。	鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、感受性を培うことができる。	鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、感受性を培うことができない。
評価項目3	読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に積極的に生かすことができる。	読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	読書習慣の形成をとおして感受性を培ったり、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができない。
評価項目4	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を十分に深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を積極的かつ適切に活用して表現できる。	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。	現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深めたり、その特徴を把握することができない。また、それらの知識を活用して表現することができない。
評価項目5	情報の収集や発想・選択・構成の方法を十分に理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を創意工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を積極的かつ適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解したり、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができない。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	現代文で扱う文章は、随想、評論、小説といったものであるが、それらすべてに「表現」者（作者・著者・小説での語り手）が存在する。そして「表現」者は、「理解」者であるわれわれ読者に向けて、何らかを伝えるべく文章（物語）を書いている（語っている）。よって、われわれ読者には、文章（物語）の読み深めを通して、書き手（語り手）の表現意図を正しく理解することが要求される。それがひいては、われわれ自身が「表現」者として、対他意識を持ってどのように実践していくかを学ぶことにもなる。 随筆や評論、小説といった「表現」に触れ、その内容をより正確に「理解」すること。また、相手により的確に「理解」してもらえる「表現」を心がけていくこと。授業を通じて「コミュニケーションスキル」基礎力を磨き、よき「理解」者・よき「表現」者となることができるよう、意識的かつ意欲的な取り組みを期待したい。
授業の進め方・方法	「授業計画」を参照のこと。
注意点	(1) 随時、読書タイムや漢字小テストを行う。 (2) 読書感想文などの文章表現、読書メモ等の課題を出すことがある。 (3) 板書記録用のノートまたはルーズリーフの他に、プリント保管用のファイルや国語事典、漢和辞典を持参することが望ましい。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。 (5)後期中間のみ、「定期試験50」＋「小テスト5」＋「レポート・課題20」＋「発表35」でもって評価を行う。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	幸田文「濃紺」	(1) 物語内容（場面展開）を丁寧に読み取る。 (2) 語りを通して、登場人物の心情や関係を捉える。 (3) 小説の語りを通して、「語る」という行為への眼差しや、「表現」への意識を持つ。
		2週	同上	同上
		3週	同上	同上
		4週	同上	同上

		5週	内田樹「言葉は「ものの名前」ではない」	(1) 段落構成の把握を通じて、論の展開を押さえ、文章の主題を捉える。 (2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解く。 (3) 社会に対しての視野を広げる。
		6週	同上	同上
		7週	同上	同上
		8週	前期中間試験 詩形返却・解説	
	2ndQ	9週	吉野弘「I was born」	(1) 語句に注目して情景を捉える。 (2) 作品に詠み込まれた「ものの見方」を理解し、味わう。 (3) 作者の他の作品との関連について知る。
		10週	同上	同上
		11週	同上	同上
		12週	今村仁司「市民社会化する家族」	(1) 段落構成の把握を通じて、論の展開を押さえ、文章の主題を捉える。 (2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解く。 (3) 社会に対しての視野を広げる。
		13週	同上	同上
		14週	同上	同上
		15週	ディベート	(1) ディベート（グループ対抗での討議）を通して、説得の論法、弁論の技術を身につける。
		16週	前期期末試験 答案返却・解説	
後期	3rdQ	1週	ディベート	(1) ディベート（グループ対抗での討議）を通して、説得の論法、弁論の技術を身につける。 (2) ディベーターとして、適切に表現し、効果的に説明することを意識する。 (3) 聴衆として、他者のプレゼンテーションを適切に評価する。
		2週	同上	同上
		3週	同上	同上
		4週	同上	同上
		5週	俳句 広島に縁のある俳人を中心に	(1) 語句に注目して情景を捉える。 (2) 様々な表現技法について理解する。 (3) 作品に詠み込まれた「ものの見方」を理解し、味わう。 (4) 作品を通して郷土・地域への眼差しを持つ。
		6週	同上	同上
		7週	同上	同上
		8週	後期中間試験 試験返却・解説	
	4thQ	9週	中村雄二郎「言葉の〈意味〉と〈表徴〉」	(1) 段落構成の把握を通じて、論の展開を押さえ、文章の主題を捉える。 (2) 難解な語句、指示語、表現の細部に注目しながら、丁寧に読み解く。 (3) 人間に不可欠な〈言葉〉というものについて理解を深める。
		10週	同上	同上
		11週	同上	同上
		12週	同上	同上
		13週	短歌	(1) 語句に注目して情景を捉える。 (2) 様々な表現技法について理解する。 (3) 作品に詠み込まれた「ものの見方」を理解し、味わう。
		14週	同上	同上
		15週	同上	同上
		16週	学年末試験 試験返却・解説	

評価割合

	試験	小テスト	レポート・課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	20	0	0	0	100
基礎的能力	70	10	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	数学IIIA

科目基礎情報

科目番号	1931002	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	新微分積分学Ｉ（大日本図書）、新微分積分Ｉ問題集（大日本図書）新線形代数（大日本図書）、新線形代数問題集（大日本図書）		
担当教員	菅田 慶		

到達目標

(1) 微分法の概念を理解し、計算技術を習得する。
(2) 微分法を用いて関数の増減を調べ、グラフの概形をかくことができる。
(3) 関数の最大値・最小値や、接線の方程式を求めることができる。
(4) 線形変換の概念を理解し、それを用いて様々な問題を解くことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	微分法の高度な計算技術を習得している。	微分法の概念を理解し、計算技術を習得している。	微分法の計算技術を習得していない。
評価項目2	微分法を用いて複雑な関数の増減を調べ、そのグラフの概形をかくことができる。	微分法を用いて関数の増減を調べ、グラフの概形をかくことができる。	微分を用いて関数の増減を調べることができない。
評価項目3	複雑な関数の最大値・最小値や、接線の方程式を求めることができる。	関数の最大値・最小値や、接線の方程式を求めることができる。	関数の最大値・最小値や、接線の方程式を求めることができない。
評価項目4	線形変換の概念を深く理解し、それを用いて様々な難問題を解くことができる。	線形変換の概念を理解し、それを用いて様々な問題を解くことができる。	線形変換の概念が理解できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1) 数学を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門的内容を理解する能力を身につける授業を行う。 (2) 更なる計算技術を習得し、専門科目に対応できるよう、発展的な内容を理解することを目標とする。 (3) 2学年に引き続き、微分法の基本的計算方法を習得し、微分法を用いて関数のグラフの概形を調べるなど、様々な活用方法を学習する。 (4) 2学年に引き続き、行列の性質への理解を深め、線形変換の概念を理解し、その様々な応用について学習する。
授業の進め方・方法	(1) 今後学ぶ数学や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・問題集などを活用して主体的に学習すること。 (3) 復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	いろいろな関数の導関数	導関数の定義を理解している。積・商の導関数の公式を使うことができる。
		2週	いろいろな関数の導関数	三角関数の導関数を求めることができる。
		3週	いろいろな関数の導関数	指数関数の導関数を求めることができる。
		4週	いろいろな関数の導関数	対数関数の導関数を求めることができる。
		5週	いろいろな関数の導関数	合成関数の導関数を求めることができる。
		6週	いろいろな関数の導関数	合成関数の導関数を求めることができる。
		7週	前期中間試験・答案返却・解説	
		8週	いろいろな関数の導関数	逆三角関数を理解している。逆三角関数の導関数を求めることができる。
	2ndQ	9週	関数の変動	基本的な関数の接線の方程式を求めることができる。
		10週	関数の変動	基本的な関数の接線の方程式を求めることができる。
		11週	関数の変動	関数の増減表をかいて、極値を求め、グラフの概形をかくことができる。
		12週	関数の変動	関数の増減表をかいて、極値を求め、グラフの概形をかくことができる。
		13週	関数の変動	関数の増減表をかいて、極値を求め、グラフの概形をかくことができる。
		14週	関数の変動	関数の最大値・最小値を求めることができる。
		15週	関数の変動	関数の最大値・最小値を求めることができる。
		16週	前期末試験・答案返却・解説	
後期	3rdQ	1週	関数の変動	高次導関数を求め、グラフの凹凸や変曲点を求めることができる。
		2週	関数の変動	グラフの凹凸や変曲点を調べ、グラフの概形をかくことができる。
		3週	関数の変動	ロピタルの定理を用いて、不定形の極限を求めることができる。
		4週	関数の変動	ロピタルの定理を用いて、不定形の極限を求めることができる。

		5週	関数の変動	ロピタルの定理を用いて関数の極限を調べ、グラフの概形をかくことができる。
		6週	いろいろな応用	関数の媒介変数表示を理解している。
		7週	いろいろな応用	媒介変数表示による関数の導関数を計算し、接線の方程式を求めることができる。
		8週	いろいろな応用	媒介変数表示による関数の導関数を計算し、接線の方程式を求めることができる。
	4thQ	9週	後期中間試験・答案返却・解説	
		10週	線形変換	線形変換の定義を理解している。
		11週	線形変換	線形変換の基本的性質を理解している。
		12週	線形変換	線形変換による、点や直線の像を求めることができる。
		13週	線形変換	合成変換と逆変換を求めることができる。
		14週	線形変換	平面・空間内の回転を表す線形変換を求めることができる。
		15週	線形変換	回転を表す線形変換を用いて、図形を回転させることができる。
		16週	学年末試験・答案返却・解説	

評価割合

	試験	課題	授業態度	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	20	10	0	0	0	100
基礎的能力	70	20	10	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	数学IIIB

科目基礎情報

科目番号	1931003	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	新線形代数（大日本図書）、新線形代数問題集　（大日本図書）、新微分積分学Ｉ（大日本図書）、新微分積分Ｉ問題集（大日本図書）		
担当教員	川崎 雄貴		

到達目標

(1) 不定積分、定積分の意味を理解し、様々な初等関数の積分ができる。
(2) 置換積分、部分積分などを用いて様々な積分の計算ができる。
(3) 図形の面積を積分を用いて計算できる。
(4) 曲線に長さや立体の体積などの幾何的量を積分を用いて計算できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	行列式の複雑な計算問題を解くことができる。	行列式の定義や性質を理解し、基本的な計算ができる。	行列式の定義を理解できない。または、その基本的な計算ができない。
評価項目2	不定積分、定積分の意味を理解し、公式を用いて複雑な積分計算ができる。	不定積分、定積分の意味を理解し、公式を用いた簡単な積分計算ができる。	不定積分、定積分の意味が理解できない。または、公式を用いた簡単な積分計算ができない。
評価項目3	置換積分、部分積分などを用いて様々な発展的な積分の計算ができる。	置換積分、部分積分などを用いて様々な積分の計算ができる。	置換積分、部分積分などを用いた基礎的な積分の計算ができない。
評価項目4	様々な応用的な場面で、自分で式を立て、積分を用いて様々な図形の面積を計算できる。	図形の面積、体積、曲線の長さを積分を用いて計算できる。	図形の面積、体積、曲線の長さを積分を用いて計算できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1) 数学の科目を学び、自然現象を科学的に説明できるとともに、各学科の専門科目を理解できる能力を身につける授業を行う。 (2) 専門科目の「応用数学」に対応できるよう、さらなる発展的な概念である積分学を理解することを目標とする。
授業の進め方・方法	(1) 今後学ぶ数学や専門科目の基礎となる科目であるから、学習内容をしっかりと身に付ける必要がある。 (2) 学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠である。教科書・問題集などを活用して主体的に学習すること。 (3) 復習課題を出題するので必ず期限内に提出すること。 (4) 学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	１年間の授業計画の説明・行列式	行列式の定義が理解できる。
		2週	行列式	行列式の性質が理解できる。
		3週	行列式	行列式の定義および性質を理解し、基本的な行列式の値を求めることができる。
		4週	行列式	複雑な行列式の値を求めることができる。
		5週	行列式	複雑な行列式の値を求めることができる。
		6週	行列式	クラメルの公式を用いて連立方程式を解くことができる。
		7週	前期中間試験	
		8週	答案返却・解説	
	2ndQ	9週	積分の基本的計算	不定積分と定積分の定義を理解している。
		10週	積分の基本的計算	不定積分の基本的な計算ができる。
		11週	積分の基本的計算	定積分の基本的な計算ができる。
		12週	積分の基本的計算	分数関数・無理関数の不定積分・定積分の計算ができる。
		13週	積分の基本的計算	三角関数の不定積分・定積分の計算ができる。
		14週	積分の基本的計算	指数関数・対数関数の不定積分・定積分の計算ができる。
		15週	積分の基本的計算	分数関数・無理関数・三角関数・指数関数・対数関数の不定積分・定積分の計算ができる。
		16週	前期末試験答案返却・解説	
後期	3rdQ	1週	積分の発展的計算	定積分の定義を理解している（区分求積法）。
		2週	積分の発展的計算	置換積分を用いて、不定積分を求めることができる。
		3週	積分の発展的計算	部分積分を用いて、不定積分を求めることができる。
		4週	積分の発展的計算	置換積分および部分積分を用いて、不定積分を求めることができる。
		5週	積分の発展的計算	置換積分を用いて、定積分を求めることができる。
		6週	積分の発展的計算	部分積分を用いて、定積分を求めることができる。
		7週	積分の発展的計算	置換積分および部分積分を用いて、定積分を求めることができる。
		8週	後期中間試験	

	4thQ	9週	答案返却・解説	
		10週	積分の応用	基本的な曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。
		11週	積分の応用	基本的な曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。
		12週	積分の応用	いろいろな曲線の長さを求めることができる。
		13週	積分の応用	いろいろな曲線の長さを求めることができる。
		14週	積分の応用	基本的な立体の体積を求めることができる。
		15週	積分の応用	基本的な立体の体積を求めることができる。
		16週	学年末試験答案返却・解説	

評価割合

	試験	発表	小テスト	レポート・課題	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	10	20	0	0	100
基礎的能力	70	0	10	20	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	物理（M3）

科目基礎情報

科目番号	1931004	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	「物理基礎」高木堅志郎、植松恒夫編（啓林館）、「物理」高木堅志郎、植松恒夫編（啓林館）、「学習到達度試験（物理）過去問演習」藤原滋泰（ http://www.hiroshima-cmt.ac.jp/faculty/ippan/007.html ）		
担当教員	藤原 滋泰		

到達目標

(1) 波の基本的性質を学び、身近な波である音や光について理解し、波についての各種の物理量を計算できる様になる。
(2) 運動の法則をもとに、２つの物体が衝突したり、１つの物体が分裂したりする際に成り立つ法則について理解出来る様になる。
(3) 円運動やばねに吊されたおもりの振動の様に、一定の時間間隔で同じ動きを繰り返す運動について理解出来る様になる。
(4) 万有引力の法則を学び、天体だけでなく、人工衛星や探査機などの運動についても考えられるようになる。
(5) 微分積分を用いた、簡易な力学の問題を解ける様になる。
(6) 日常生活に身近な静電気・モーター・発電機・電波などの原理について、何も見ないで説明できる様になる。
(7) 電気の正体やモーターが動く仕組み、交流の電気についての基礎知識を身に付け、問題を解ける様になる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	ドップラー効果や弦や気柱の振動、共鳴や共振についてについての複雑な問題が解ける。	音源の振動、ドップラー効果、弦や気柱の振動、共鳴についてついての基本的な計算ができる。	音波、音源の振動、ドップラー効果、弦や気柱の振動について説明できない。または、基本的な計算が出来ない。
評価項目2	物体の釣り合いの条件、滑らかな面への斜め衝突、衝突とエネルギーの保存、運動量と力学的エネルギーについての複雑な問題が解ける。	剛体のつりあい、運動量の保存、反発係数、弾性衝突、非弾性衝突、完全非弾性衝突についての基本的な計算ができる。	物体の重心、運動量、反発係数について説明できない。または、基本的な計算が出来ない。
評価項目3	等速円運動をする物体に働く力、円錐振り子、慣性系と非慣性系、遠心力、ループコースター、単振動の力学的エネルギーについての応用的な問題が解ける。	等速円運動の速度、加速度、慣性力と遠心力、単振動、単振動の変位、速度、加速度、初期位相、ばね振り子についての基本的な計算ができる。	等速円運動、角速度、ラジアン、周期、回転数、遠心力、単振動について説明できない。または、基本的な問題を解く事も出来ない。
評価項目4	ケプラーの法則、万有引力、万有引力による位置エネルギー、宇宙への旅、静止衛星、宇宙速度についての応用的な問題が解ける。	惑星の運動、天動説、地動説、面積速度、焦点、ケプラーの法則、万有引力、万有引力定数についての基本的な問題が解ける。	ケプラーの法則、万有引力について説明できない。または、基本的な問題への適用が出来ない。
評価項目5	速度、加速度、変位の問題を微分積分を用いて解くことが出来る。また、 簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くこともできる。	速度、加速度、変位の基本的な問題を微分積分を用いて解くことが出来る。また、 仕事、力積、位置エネルギーと力の基本的な問題を微分積分を用いて解くことが出来る。	速度、加速度、変位の概念を微分積分を用いて説明することが出来ない。
評価項目6	直流回路、クーロンの法則、電界、電気力による位置エネルギー、電界と電位の関係、ジュール熱と抵抗・電圧・電流の関係についての発展的な計算ができる。	電気量、クーロンの法則、点電荷の周りの電界、電気力による位置エネルギー、電界と電位の関係、電力とジュール熱、直流回路についての基本的な計算ができる。	電気量、導体と不導体、静電誘導、クーロンの法則、電流、電気抵抗、電力についての基本的な概念を説明できない。または、基本的な計算ができない。
評価項目7	電流が作る磁界、ローレンツ力、電磁誘導の法則、自己誘導と相互誘導、交流と電磁波についての応用的な問題が解ける。	磁気力と磁界、電流が作る磁界、電流が磁界から受ける力、ローレンツ力、電磁誘導の法則、磁界中を運動する導体の棒についての基本的な計算ができる。	磁気力、磁界、電磁誘導についての基本的な説明や簡単な計算ができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1) 大きさのある剛体の重心や釣り合いの関係について学習する。 (2) ２物体が衝突したり、１つの物体が分裂したりする際に成り立つ法則について学ぶ。 (3) 周期的な運動のもととなる力の性質や、運動の様子について学ぶ。 (4) 万有引力について学び、天体だけでなく、人工衛星や探査機などの運動について考える。 (5) 自動車の様な乗り物の運動や、ボールの運動の様な、速さや動く向きが絶えず変化し、良く観察すると複雑な運動を微分積分を用いて表す方法を学ぶ。 (6) 私達の生活に身近な静電気・モーター・発電機・電波などについて学ぶ。 (7) 電界と電位、電流と磁界、電磁誘導と電磁波についての式や原理、法則などについて学ぶ。
授業の進め方・方法	(1) 講義を行い、ノートをとってもらった後に、演習プリントを配布し、問題を解いてもらう。 (2) 問題を解き、発表する際には、質疑応答を行うことで互いの理解を深める様にする。 (3) 理解した内容をチェックするために、Blackboardのオンラインテストを受講して下さい。 (4) Blackboardから配信している、学習到達度試験対策の電子書籍をダウンロードして、問題演習に役立てて下さい。
注意点	(1) 物理量の持つ意味と単位を明確に理解する。例えば、電子、電流、磁界、加速度、力、運動の法則、運動方程式、モーメントと重心、熱量、比熱、理想気体といった用語を自分の言葉で説明出来るくらい明確に理解する。用語の捕らえ方の違いから来る誤解を招かない様に注意する。 (2) 用語の意味を踏まえた上で、法則の意味（イメージ）がつかめているかどうか、公式の導出過程が解ったかどうかを確認する。ノートに枠で囲ってある式は必ず覚える。 (3) 特に試験前には、演習プリントを自力で解き直す（最初から、ノートや解答を見て答えだけを探そうとしない）。自分で考えながら解く事で、法則の適用の仕方を身に付ける。 (4) 授業態度を含め、あたりまえの事をきちんとやる。苦手だからこそ、ノート、演習プリントは完全に提出できる様、毎時間、常に整えておきましょう。 試験問題の大半を占める演習プリントの問題を解ける様にしておく。解けない場合は、必ず質問して下さい。質問をする時は、ノートやプリントを持って来て下さい。 (5) 何が足りなかったから解けなかったのか、何が理解出来ていれば解けていたのかを認識出来る様に、ある程度の長時間を掛けて頑張って下さい。 (6) 専門科目の「工業力学」、「材料力学」、「電気回路」、「電子電気工学」、「電磁気学」、「応用物理」等に発展して行く為の基礎を取り扱う。

授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1. 波の反射と屈折・音	1-(1) 波の反射と屈折、ホイヘンスの原理についての問題 が解ける。 1-(2) 音波について説明でき、音波の性質に関する問題が 解ける。
		2週	1. 波の反射と屈折・音	1-(3) 音源の振動、ドップラー効果についての計算ができ る。
		3週	1. 波の反射と屈折・音	1-(4) 弦の長さと、弦を伝わる波の速さから、弦の固有振 動数を求めることができる。
		4週	1. 波の反射と屈折・音	1-(5) 気柱の長さと音速から、開管、閉管の固有振動数を 求めることができる(開口端補正は考えない)。
		5週	1. 波の反射と屈折・音	1-(6) 共振、共鳴現象について具体例を挙げることができ る。
		6週	2. 光	2-(1) 光の進み方、光の性質についての問題が解ける。
		7週	2. 光	2-(2) レンズ、光の回折と干渉についての計算ができる。
		8週	前期中間試験 答案返却・解説	
	2ndQ	9週	3. 剛体のつりあい	3-(1) 物体に働く力の合成についての計算ができる。 3-(2) 物体の重心の計算ができる。
		10週	3. 剛体のつりあい	3-(3)　物体の釣り合いの条件の問題を解くことができる。
		11週	4. 運動量の保存・反発係数	4-(1) 運動量、運動量の変化と力積の問題を解くことができる。
		12週	4. 運動量の保存・反発係数	4-(2) 運動量の保存についての問題を解くことができる。 4-(3) 反発係数、弾性衝突、非弾性衝突、完全非弾性衝突の計算ができる。
		13週	4. 運動量の保存・反発係数	4-(4) 滑らかな面への斜め衝突の問題を解くことができる。 4-(5) 衝突とエネルギーの保存、運動量と力学的エネルギーの計算ができる。
		14週	5. 微分積分を用いた力学	5-(1) 速度、加速度、変位の問題を微分積分を用いて解くことが出来る。 5-(2) 仕事、力積、位置エネルギーと力の問題を微分積分を用いて解くことが出来る。
		15週	5. 微分積分を用いた力学	5-(3) 簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くことができる。
		16週	前期期末試験 答案返却・解説	
後期	3rdQ	1週	6. 円運動・慣性力と遠心力	6-(1) 等速円運動、角速度、ラジアン、周期、回転数についての問題を解くことができる。
		2週	6. 円運動・慣性力と遠心力	6-(2) 等速円運動の速度、加速度の計算ができる。
		3週	6. 円運動・慣性力と遠心力	6-(3) 等速円運動をする物体に働く力、円錐振り子の問題を解くことができる。 6-(4) 遠心力の問題を解くことができる。
		4週	7. 単振動・万有引力	7-(1) 単振動、単振動の変位、速度、加速度、初期位相の問題を解くことができる。
		5週	7. 単振動・万有引力	7-(2) 復元力、水平ばね振り子、鉛直ばね振り子、単振り子の問題を解くことができる。
		6週	7. 単振動・万有引力	7-(3) 万有引力、万有引力定数、重力の計算ができる。
		7週	7. 単振動・万有引力	7-(4) 万有引力による位置エネルギー、静止衛星の問題が解ける。
		8週	後期中間試験 答案返却・解説	
	4thQ	9週	9. 電界と電位	9-(1) 静電気について説明できる。 9-(2) 導体と不導体の違いについて、自由電子と関連させて説明できる。 9-(3) 電場・電位について説明できる。
		10週	9. 電界と電位	9-(4) クーロンの法則が説明できる。 9-(5) クーロンの法則から、点電荷の間にはたらく静電気力を求めることができる。
		11週	10. 電流	10-(1) オームの法則から、電圧、電流、抵抗に関する計算ができる。 10-(2) 抵抗を直列接続、及び並列接続したときの合成抵抗の値を求めることができる。
		12週	10. 電流	10-(3) ジュール熱や電力を求めることができる。
		13週	11.電流と磁界	11-(1) 磁気力と磁界について説明できる。 11-(2) 電流が作る磁界について説明でき、計算できる。
		14週	11.電流と磁界 12. 電磁誘導と電磁波	11-(3) 電流が磁界から受ける力について説明できる。 12-(1) 電磁誘導の現象と法則について、説明できる。
		15週	12. 電磁誘導と電磁波	12-(2) 直流や交流について説明できる。 12-(3) 電磁波とその利用について説明できる。
		16週	学年末試験 答案返却・解説	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	0	20	0	0	100
基礎的能力	40	5	0	20	0	0	65
専門的能力	30	5	0	0	0	0	35
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	物理（C3）

科目基礎情報

科目番号	1931005	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 3
開設学科	一般教科	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	3
教科書/教材	「物理基礎」高木堅志郎、植松恒夫編（啓林館）、「物理」高木堅志郎、植松恒夫編（啓林館）、「学習到達度試験（物理）過去問演習」藤原滋泰（ http://dep.hiroshima-cmt.ac.jp/~general/staff/fujiwara1.htm ）		
担当教員	藤原 滋泰		

到達目標

(1) 波の基本的性質を学び、身近な波である音や光について理解し、波についての各種の物理量を計算できる様になる。
(2) 運動の法則をもとに、２つの物体が衝突したり、１つの物体が分裂したりする際に成り立つ法則について理解出来る様になる。
(3) 円運動やばねに吊されたおもりの振動の様に、一定の時間間隔で同じ動きを繰り返す運動について理解出来る様になる。
(4) 万有引力の法則を学び、天体だけでなく、人工衛星や探査機などの運動についても考えられるようになる。
(5) 微分積分を用いた、簡易な力学の問題を解ける様になる。
(6) 日常生活に身近な静電気・モーター・発電機・電波などの原理について、何も見ないで説明できる様になる。
(7) 電気の正体やモーターが動く仕組み、交流の電気についての基礎知識を身に付け、問題を解ける様になる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	ドップラー効果や弦や気柱の振動、共鳴や共振についてについての複雑な問題が解ける。	音源の振動、ドップラー効果、弦や気柱の振動、共鳴についてついての基本的な計算ができる。	音波、音源の振動、ドップラー効果、弦や気柱の振動について説明できない。または、基本的な計算が出来ない。
評価項目2	物体の釣り合いの条件、滑らかな面への斜め衝突、衝突とエネルギーの保存、運動量と力学的エネルギーについての複雑な問題が解ける。	剛体のつりあい、運動量の保存、反発係数、弾性衝突、非弾性衝突、完全非弾性衝突についての基本的な計算ができる。	物体の重心、運動量、反発係数について説明できない。または、基本的な計算が出来ない。
評価項目3	等速円運動をする物体に働く力、円錐振り子、慣性系と非慣性系、遠心力、ループコースター、単振動の力学的エネルギーについての応用的な問題が解ける。	等速円運動の速度、加速度、慣性力と遠心力、単振動、単振動の変位、速度、加速度、初期位相、ばね振り子についての基本的な計算ができる。	等速円運動、角速度、ラジアン、周期、回転数、遠心力、単振動について説明できない。または、基本的な問題を解く事も出来ない。
評価項目4	ケプラーの法則、万有引力、万有引力による位置エネルギー、宇宙への旅、静止衛星、宇宙速度についての応用的な問題が解ける。	惑星の運動、天動説、地動説、面積速度、焦点、ケプラーの法則、万有引力、万有引力定数についての基本的な問題が解ける。	ケプラーの法則、万有引力について説明できない。または、基本的な問題への適用が出来ない。
評価項目5	速度、加速度、変位の問題を微分積分を用いて解くことが出来る。また、 簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くこともできる。	速度、加速度、変位の基本的な問題を微分積分を用いて解くことが出来る。また、 仕事、力積、位置エネルギーと力の基本的な問題を微分積分を用いて解くことが出来る。	速度、加速度、変位の概念を微分積分を用いて説明することが出来ない。
評価項目6	直流回路、クーロンの法則、電界、電気力による位置エネルギー、電界と電位の関係、ジュール熱と抵抗・電圧・電流の関係についての発展的な計算ができる。	電気量、クーロンの法則、点電荷の周りの電界、電気力による位置エネルギー、電界と電位の関係、電力とジュール熱、直流回路についての基本的な計算ができる。	電気量、導体と不導体、静電誘導、クーロンの法則、電流、電気抵抗、電力についての基本的な概念を説明できない。または、基本的な計算ができない。
評価項目7	電流が作る磁界、ローレンツ力、電磁誘導の法則、自己誘導と相互誘導、交流と電磁波についての応用的な問題が解ける。	磁気力と磁界、電流が作る磁界、電流が磁界から受ける力、ローレンツ力、電磁誘導の法則、磁界中を運動する導体の棒についての基本的な計算ができる。	磁気力、磁界、電磁誘導についての基本的な説明や簡単な計算ができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1) 大きさのある剛体の重心や釣り合いの関係について学習する。 (2) ２物体が衝突したり、１つの物体が分裂したりする際に成り立つ法則について学ぶ。 (3) 周期的な運動のもととなる力の性質や、運動の様子について学ぶ。 (4) 万有引力について学び、天体だけでなく、人工衛星や探査機などの運動について考える。 (5) 自動車の様な乗り物の運動や、ボールの運動の様な、速さや動く向きが絶えず変化し、良く観察すると複雑な運動を微分積分を用いて表す方法を学ぶ。 (6) 私達の生活に身近な静電気・モーター・発電機・電波などについて学ぶ。 (7) 電界と電位、電流と磁界、電磁誘導と電磁波についての式や原理、法則などについて学ぶ。
授業の進め方・方法	(1) 講義を行い、ノートをとってもらった後に、演習プリントを配布し、問題を解いてもらう。 (2) 問題を解き、発表する際には、質疑応答を行うことで互いの理解を深める様にする。 (3) 理解した内容をチェックするために、Blackboardのオンラインテストを受講して下さい。 (4) Blackboardから配信している、学習到達度試験対策の電子書籍をダウンロードして、問題演習に役立てて下さい。
注意点	(1) 物理量の持つ意味と単位を明確に理解する。例えば、電子、電流、磁界、加速度、力、運動の法則、運動方程式、モーメントと重心、熱量、比熱、理想気体といった用語を自分の言葉で説明出来るくらい明確に理解する。用語の捕らえ方の違いから来る誤解を招かない様に注意する。 (2) 用語の意味を踏まえた上で、法則の意味（イメージ）がつかめているかどうか、公式の導出過程が解ったかどうかを確認する。ノートに枠で囲ってある式は必ず覚える。 (3) 特に試験前には、演習プリントを自力で解き直す（最初から、ノートや解答を見て答えだけを探そうとしない）。自分で考えながら解く事で、法則の適用の仕方を身に付ける。 (4) 授業態度を含め、あたりまえの事をきちんとやる。苦手だからこそ、ノート、演習プリントは完全に提出できる様、毎時間、常に整えておきましょう。 試験問題の大半を占める演習プリントの問題を解ける様にしておく。解けない場合は、必ず質問して下さい。質問をする時は、ノートやプリントを持って来て下さい。 (5) 何が足りなかったから解けなかったのか、何が理解出来ていれば解けていたのかを認識出来る様に、ある程度の長時間を掛けて頑張って下さい。 (6) 専門科目の「工業力学」、「材料力学」、「電気回路」、「電子電気工学」、「電磁気学」、「応用物理」等に発展して行く為の基礎を取り扱う。

授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1. 波の反射と屈折・音	1-(1) 波の反射と屈折、ホイヘンスの原理についての問題 が解ける。 1-(2) 音波について説明でき、音波の性質に関する問題が 解ける。
		2週	1. 波の反射と屈折・音	1-(3) 音源の振動、ドップラー効果についての計算ができ る。
		3週	1. 波の反射と屈折・音	1-(4) 弦の長さと、弦を伝わる波の速さから、弦の固有振 動数を求めることができる。
		4週	1. 波の反射と屈折・音	1-(5) 気柱の長さと音速から、開管、閉管の固有振動数を 求めることができる(開口端補正は考えない)。
		5週	1. 波の反射と屈折・音	1-(6) 共振、共鳴現象について具体例を挙げることができ る。
		6週	2. 光	2-(1) 光の進み方、光の性質についての問題が解ける。
		7週	2. 光	2-(2) レンズ、光の回折と干渉についての計算ができる。
		8週	前期中間試験 答案返却・解説	
	2ndQ	9週	3. 剛体のつりあい	3-(1) 物体に働く力の合成についての計算ができる。 3-(2) 物体の重心の計算ができる。
		10週	3. 剛体のつりあい	3-(3)　物体の釣り合いの条件の問題を解くことができる。
		11週	4. 運動量の保存・反発係数	4-(1) 運動量、運動量の変化と力積の問題を解くことができる。
		12週	4. 運動量の保存・反発係数	4-(2) 運動量の保存についての問題を解くことができる。 4-(3) 反発係数、弾性衝突、非弾性衝突、完全非弾性衝突の計算ができる。
		13週	4. 運動量の保存・反発係数	4-(4) 滑らかな面への斜め衝突の問題を解くことができる。 4-(5) 衝突とエネルギーの保存、運動量と力学的エネルギーの計算ができる。
		14週	5. 微分積分を用いた力学	5-(1) 速度、加速度、変位の問題を微分積分を用いて解くことが出来る。 5-(2) 仕事、力積、位置エネルギーと力の問題を微分積分を用いて解くことが出来る。
		15週	5. 微分積分を用いた力学	5-(3) 簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くことができる。
		16週	前期期末試験 答案返却・解説	
後期	3rdQ	1週	6. 円運動・慣性力と遠心力	6-(1) 等速円運動、角速度、ラジアン、周期、回転数についての問題を解くことができる。
		2週	6. 円運動・慣性力と遠心力	6-(2) 等速円運動の速度、加速度の計算ができる。
		3週	6. 円運動・慣性力と遠心力	6-(3) 等速円運動をする物体に働く力、円錐振り子の問題を解くことができる。 6-(4) 遠心力の問題を解くことができる。
		4週	7. 単振動・万有引力	7-(1) 単振動、単振動の変位、速度、加速度、初期位相の問題を解くことができる。
		5週	7. 単振動・万有引力	7-(2) 復元力、水平ばね振り子、鉛直ばね振り子、単振り子の問題を解くことができる。
		6週	7. 単振動・万有引力	7-(3) 万有引力、万有引力定数、重力の計算ができる。
		7週	7. 単振動・万有引力	7-(4) 万有引力による位置エネルギー、静止衛星の問題が解ける。
		8週	後期中間試験 答案返却・解説	
	4thQ	9週	9. 電界と電位	9-(1) 静電気について説明できる。 9-(2) 導体と不導体の違いについて、自由電子と関連させて説明できる。 9-(3) 電場・電位について説明できる。
		10週	9. 電界と電位	9-(4) クーロンの法則が説明できる。 9-(5) クーロンの法則から、点電荷の間にはたらく静電気力を求めることができる。
		11週	10. 電流	10-(1) オームの法則から、電圧、電流、抵抗に関する計算ができる。 10-(2) 抵抗を直列接続、及び並列接続したときの合成抵抗の値を求めることができる。
		12週	10. 電流	10-(3) ジュール熱や電力を求めることができる。
		13週	11.電流と磁界	11-(1) 磁気力と磁界について説明できる。 11-(2) 電流が作る磁界について説明でき、計算できる。
		14週	11.電流と磁界 12. 電磁誘導と電磁波	11-(3) 電流が磁界から受ける力について説明できる。 12-(1) 電磁誘導の現象と法則について、説明できる。
		15週	12. 電磁誘導と電磁波	12-(2) 直流や交流について説明できる。 12-(3) 電磁波とその利用について説明できる。
		16週	学年末試験 答案返却・解説	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	0	20	0	0	100
基礎的能力	40	5	0	20	0	0	65
専門的能力	30	5	0	0	0	0	35
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	物理（D3）

科目基礎情報

科目番号	1931006	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教科	対象学年	3
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	「物理基礎」高木堅志郎、植松恒夫編（啓林館）、「物理」高木堅志郎、植松恒夫編（啓林館）、「学習到達度試験（物理）過去問演習」藤原滋泰（ http://www.hiroshima-cmt.ac.jp/faculty/ippan/007.html ）		
担当教員	藤原 滋泰		

到達目標

(1) 波の基本的性質を学び、身近な波である音や光について理解し、波についての各種の物理量を計算できる様になる。
(2) 大きさのある剛体の重心や釣り合いの関係について、具体的な計算ができる様になる。
(3) 運動の法則をもとに、2つの物体が衝突したり、1つの物体が分裂したりする際に成り立つ法則について理解出来る様になる。
(4) 微分積分を用いた、簡易な力学の問題を解ける様になる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	ドップラー効果や弦や気柱の振動、共鳴や共振についてについての複雑な問題が解ける。	音源の振動、ドップラー効果、弦や気柱の振動、共鳴についてついての基本的な計算ができる。	音波、音源の振動、ドップラー効果、弦や気柱の振動について説明できない。または、基本的な計算が出来ない。
評価項目2	物体の釣り合いの条件、滑らかな面への斜め衝突、衝突とエネルギーの保存、運動量と力学的エネルギーについての複雑な問題が解ける。	剛体のつりあい、運動量の保存、反発係数、弾性衝突、非弾性衝突、完全非弾性衝突についての基本的な計算ができる。	物体の重心、運動量、反発係数について説明できない。または、基本的な計算が出来ない。
評価項目3	速度、加速度、変位の問題を微分積分を用いて解くことが出来る。また、 簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くこともできる。	速度、加速度、変位の基本的な問題を微分積分を用いて解くことが出来る。また、 仕事、力積、位置エネルギーと力の基本的な問題を微分積分を用いて解くことが出来る。	速度、加速度、変位の概念を微分積分を用いて説明することが出来ない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1) 大きさのある剛体の重心や釣り合いの関係について学習する。 (2) ２物体が衝突したり、１つの物体が分裂したりする際に成り立つ法則について学ぶ。 (3) 自動車の様な乗り物の運動や、ボールの運動の様な、速さや動く向きが絶えず変化し、良く観察すると複雑な運動を微分積分を用いて表す方法を学ぶ。
授業の進め方・方法	(1) 講義を行い、ノートをとってもらった後に、演習プリントを配布し、問題を解いてもらう。 (2) 問題を解き、発表する際には、質疑応答を行うことで互いの理解を深める様にする。 (3) 理解した内容をチェックするために、Blackboardのオンラインテストを受講して下さい。 (4) Blackboardから配信している、学習到達度試験対策の電子書籍をダウンロードして、問題演習に役立てて下さい。
注意点	(1) 物理量の持つ意味と単位を明確に理解する。例えば、電子、電流、磁界、加速度、力、運動の法則、運動方程式、モーメントと重心、熱量、比熱、理想気体といった用語を自分の言葉で説明出来るくらい明確に理解する。用語の捕らえ方の違いから来る誤解を招かない様に注意する。 (2) 用語の意味を踏まえた上で、法則の意味（イメージ）がつかめているかどうか、公式の導出過程が解ったかどうかを確認する。ノートに枠で囲ってある式は必ず覚える。 (3) 特に試験前には、演習プリントを自力で解き直す（最初から、ノートや解答を見て答えだけを探そうとしない）。自分で考えながら解く事で、法則の適用の仕方を身に付ける。 (4) 授業態度を含め、あたりまえの事をきちんとやる。苦手だからこそ、ノート、演習プリントは完全に提出できる様、毎時間、常に整えておきましょう。 試験問題の大半を占める演習プリントの問題を解ける様にしておく。解けない場合は、必ず質問して下さい。質問をする時は、ノートやプリントを持って来て下さい。 (5) 何が足りなかったから解けなかったのか、何が理解出来ていれば解けていたのかを認識出来る様に、ある程度の長時間を掛けて頑張って下さい。 (6) 専門科目の「工業力学」、「材料力学」、「電気回路」、「電子電気工学」、「電磁気学」、「応用物理」等に発展して行く為の基礎を取り扱う。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1. 波の反射と屈折・音	1-(1) 波の反射と屈折、ホイヘンスの原理についての問題 が解ける。 1-(2) 音波について説明でき、音波の性質に関する問題が 解ける。
		2週	1. 波の反射と屈折・音	1-(3) 音源の振動、ドップラー効果についての計算ができ る。
		3週	1. 波の反射と屈折・音	1-(4) 弦の長さと、弦を伝わる波の速さから、弦の固有振 動数を求めることができる。
		4週	1. 波の反射と屈折・音	1-(5) 気柱の長さと音速から、開管、閉管の固有振動数を 求めることができる(開口端補正は考えない)。
		5週	1. 波の反射と屈折・音	1-(6) 共振、共鳴現象について具体例を挙げることができ る。
		6週	2. 光	2-(1) 光の進み方、光の性質についての問題が解ける。
		7週	2. 光	2-(2) レンズ、光の回折と干渉についての計算ができる。
		8週	前期中間試験 答案返却・解説	
	2ndQ	9週	3. 剛体のつりあい	3-(1) 物体に働く力の合成についての計算ができる。 3-(2) 物体の重心の計算ができる。

		10週	3. 剛体のつりあい	3-(3)　物体の釣り合いの条件の問題を解くことができる。
		11週	4. 運動量の保存・反発係数	4-(1) 運動量、運動量の変化と力積の問題を解くことができる。
		12週	4. 運動量の保存・反発係数	4-(2) 運動量の保存についての問題を解くことができる。
		13週	4. 運動量の保存・反発係数	4-(3) 反発係数、弾性衝突、非弾性衝突、完全非弾性衝突の計算ができる。
		14週	5. 微分積分を用いた力学	5-(1) 速度、加速度、変位の問題を微分積分を用いて解くことが出来る。 5-(2) 仕事、力積、位置エネルギーと力の問題を微分積分を用いて解くことが出来る。
		15週	5. 微分積分を用いた力学	5-(3) 簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くことができる。
		16週	前期期末試験 答案返却・解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	10	0	20	0	0	100
基礎的能力	40	5	0	20	0	0	65
専門的能力	30	5	0	0	0	0	35
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	理科総合（M3）

科目基礎情報

科目番号	1931007	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教科	対象学年	3
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	化学基礎（東京書籍）、生物基礎（東京書籍），レッツトライノート化学基礎		
担当教員	大沼 みお		

到達目標

生物
(1) 地球上の植生、生態系を理解し、その保全について考えることができる。
地学
(2) 地球の外観と内部の活動を理解し、その保全について考えることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1 生態	地球上の植生、生態系について理解し、発展的な問題を解くことができる。	地球上の植生、生態系について理解し、標準的な問題を解くことができる。	地球上の植生、生態系について理解していない。
評価項目2 地学：地球の概観、内部とその活動	地球の概観、内部とその活動について理解し、発展的な問題を解くことができる。	地球の概観、内部とその活動について理解し、標準的な問題を解くことができる。	地球の概観、内部とその活動について理解していない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	地学、生物：地球の構造と様々な生命現象を科学的に説明できる様になるための基礎的な知識を学ぶ。
授業の進め方・方法	教科書を用いて講義形式で授業を行います。学習内容に応じて適宜、動画などを視聴します。また、演習を行う時間を適宜設けます。
注意点	(1) 予習復習を行うこと。 (2) 分からない点は放置せずに質問すること。 (3) 宿題は必ず期限内に提出すること。 (4) 携帯電話、居眠り、過度な私語、意味の無い立ち歩きなどは減点対象とします。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	2.生態	地球上の様々な環境と生態系について理解している。
		2週	2.生態	地球上の様々な環境と生態系について理解している。
		3週	2.生態	地球上の様々な環境と生態系について理解している。
		4週	2.生態	地球上の様々な環境と生態系について理解している。
		5週	2.生態	様々な環境問題について理解し、保全について考えることができる。
		6週	2.生態	様々な環境問題について理解し、保全について考えることができる。
		7週	生態の演習	
		8週	後期中間試験　答案返却・解説	
	4thQ	9週	3.地球の概観、内部とその活動	太陽系を構成する惑星の中に地球があり、月は地球の衛星であることを説明できる。 地球は大気と水で覆われた惑星であることを説明できる。
		10週	3.地球の概観、内部とその活動	地球は大気と水で覆われた惑星であることを説明できる。 陸地および海底の大地形とその形成を説明できる。
		11週	3.地球の概観、内部とその活動	地球の内部構造を理解して、内部には何があるか説明できる。 マグマの生成と火山活動を説明できる。
		12週	3.地球の概観、内部とその活動	地震の発生と断層運動を理解できる。 地球科学を支えるプレートテクトニクスを説明できる。
		13週	3.地球の概観、内部とその活動	地球科学を支えるプレートテクトニクスを説明できる。 大気圏の構造・成分を理解し、大気圧を説明できる。 大気の熱収支を理解し、大気の運動を説明できる。
		14週	3.地球の概観、内部とその活動	大気の熱収支を理解し、大気の運動を説明できる。 大気の大循環を理解し、大気中の風の流れなどの気象現象を説明できる。 海水の運動を理解し、潮流、高潮、津波などを説明できる。
		15週	地球の概観、内部とその活動の演習	
		16週	学年末試験　答案返却・解説	

評価割合

	試験	課題・レポート	態度	合計
総合評価割合	70	30	0	100
基礎的能力	70	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	理科総合（D3）

科目基礎情報

科目番号	1931008	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	化学基礎（東京書籍）、生物基礎（東京書籍），レッツトライノート化学基礎		
担当教員	大沼 みお		

到達目標

生物
(1) 生物の体内環境の維持について理解し、発展的な問題を解くことができる。
(2) 地球上の植生、生態系を理解し、その保全について考えることができる。
地学
(3) 地球の外観と内部の活動を理解し、その保全について考えることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1 生物の体内環境の維持	生物の体内環境の維持について理解し、発展的な問題を解くことができる。	生物の体内環境の維持について理解し、標準的な計算ができる。	生物の体内環境の維持について理解していない。
評価項目2 生態	地球上の植生、生態系について理解し、発展的な問題を解くことができる。	地球上の植生、生態系について理解し、標準的な問題を解くことができる。	地球上の植生、生態系について理解していない。
評価項目3 地学：地球の概観、内部とその活動	地球の概観、内部とその活動について理解し、発展的な問題を解くことができる。	地球の概観、内部とその活動について理解し、標準的な問題を解くことができる。	地球の概観、内部とその活動について理解していない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	地学、生物：地球の構造と様々な生命現象を科学的に説明できる様になるための基礎的な知識を学ぶ。
授業の進め方・方法	教科書を用いて講義形式で授業を行います。学習内容に応じて適宜、動画などを視聴します。また、演習を行う時間を適宜設けます。
注意点	(1) 予習復習を行うこと。 (2) 分からない点は放置せずに質問すること。 (3) 宿題は必ず期限内に提出すること。 (4) 携帯電話、居眠り、過度な私語、意味の無い立ち歩きなどは減点対象とします。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1.生物の体内環境の維持	体内環境について説明できる。
		2週	1.生物の体内環境の維持	体内環境について説明できる。
		3週	1.生物の体内環境の維持	体内環境を維持するしくみについて説明できる。
		4週	1.生物の体内環境の維持	体内環境を維持するしくみについて説明できる。
		5週	1.生物の体内環境の維持	体内環境を維持するしくみについて説明できる。
		6週	体内環境と体内環境を維持するしくみついての演習	
		7週	前期中間試験 答案返却・解説	
		8週	1.生物の体内環境の維持	免疫のしくみについて説明できる。
	2ndQ	9週	1.生物の体内環境の維持	免疫のしくみについて説明できる。
		10週	1.生物の体内環境の維持	免疫のしくみについて説明できる。
		11週	1.生物の体内環境の維持	免疫のしくみについて説明できる。
		12週	1.生物の体内環境の維持	免疫のしくみについて説明できる。
		13週	1.生物の体内環境の維持	免疫のしくみについて説明できる。
		14週	1.生物の体内環境の維持	免疫のしくみについて説明できる。
		15週	免疫のしくみについての演習	
		16週	前期末試験 答案返却・解説	
後期	3rdQ	1週	2.生態	地球上の様々な環境と生態系について理解している。
		2週	2.生態	地球上の様々な環境と生態系について理解している。
		3週	2.生態	地球上の様々な環境と生態系について理解している。
		4週	2.生態	様々な環境問題について理解し、保全について考えることができる。
		5週	2.生態	様々な環境問題について理解し、保全について考えることができる。
		6週	2.生態	様々な環境問題について理解し、保全について考えることができる。
		7週	生態の演習	
		8週	後期中間試験　答案返却・解説	
	4thQ	9週	3.地球の概観、内部とその活動	太陽系を構成する惑星の中に地球があり、月は地球の衛星であることを説明できる。 地球は大気と水で覆われた惑星であることを説明できる。
		10週	3.地球の概観、内部とその活動	地球は大気と水で覆われた惑星であることを説明できる。 陸地および海底の大地形とその形成を説明できる。

		11週	3.地球の概観、内部とその活動	地球の内部構造を理解して、内部には何があるか説明できる。 マグマの生成と火山活動を説明できる。
		12週	3.地球の概観、内部とその活動	地震の発生と断層運動を理解できる。 地球科学を支えるプレートテクトニクスを説明できる。
		13週	3.地球の概観、内部とその活動	地球科学を支えるプレートテクトニクスを説明できる。 大気圏の構造・成分を理解し、大気圧を説明できる。 大気の熱収支を理解し、大気の運動を説明できる。
		14週	3.地球の概観、内部とその活動	大気の熱収支を理解し、大気の運動を説明できる。 大気の大循環を理解し、大気中の風の流れなどの気象現象を説明できる。 海水の運動を理解し、潮流、高潮、津波などを説明できる。
		15週	地球の概観、内部とその活動の演習	
		16週	学年末試験　答案返却・解説	

評価割合

	試験	課題・レポート	態度	合計
総合評価割合	70	30	0	100
基礎的能力	70	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	総合英語III

科目基礎情報

科目番号	1931009	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 3
開設学科	一般教科	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	3
教科書/教材	大修館書店「CompassⅢ English Communication Revised」		
担当教員	江原 智子,朝倉 和		

到達目標

（1）単語や語句の文中での「働き」を理解する
（2）語や語句の「働き」に基づいて、文の組み立てを理解する
（3）日本語の語順と異なる英語の文型をしっかりと認識し、文章を正確に読み取る
（4）複数の文を組み合わせた文章の作成を目指す

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	ある程度の分量の英文を読み、その構造・構文を正しくつかんで日本語に変換できる	ある程度の英文を読んで概要や要点をつかむことができる。	主語・目的語等の働きが理解できない
評価項目2	主要4品詞の区別と文中での働きが関連付けられる。	主要4品詞（動詞・名詞・形容詞・副詞）の区別ができる	主要品詞の区別ができない
評価項目3	文型の組み立ての違いを正確に理解し、内容を読み取ることができる。	文型の違いによる分の組み立てが区別できる	文の組み立てが区別できない
評価項目4	複数の文を組み合わせて、自身の考えを述べる文章が作成できる	例文をもとにした単独の文が作文できる	例文をもとにした単独の文が作文できない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	英文を読み解く技術（リーディング・スキル）を身につけていきましょう。具体的には、文章をより正確に読み解くために、語彙・表現、文法を学ぶと同時に、文章を読む前の内容の予測や、複数の文章の組み合わせ・構造の仕組み、論理的な話題の展開にも着目し、短文のみではなく、長文の英語を読み解く技術を身につけることを目指します。
授業の進め方・方法	（1）予習では全体を読み取り、語彙・熟語などの確認してください。 （2） Unit 1では、 英文を読み解くために必要な技術（リーディング・スキル）に重点を置きます。日本語に訳すのではなく「何が書いてあるのか」、「筆者の言いたいことは何か」を的確に読み取るコツを学ぶようにしましょう。 （3）Unit 2では、Unit 1 で学んだリーディング・スキルを活用して複数の段落のある英文を読み、段落ごとの要点をつかみながら読み取ることを意識することを学びましょう。 （4） Unit 3では、自分の力でまとまった分量の英文を読み取る訓練をします。
注意点	・小テストや課題、発表などへの工夫や取り組みも評価の対象です。 ・授業には、必ず英和辞典を持参してください。 ・提出物等の期限は厳守してください。 ・学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問してください。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	本授業の到達目標と評価方法を知る
		2週	Unit 1 Lesson 1	内容を予測することに着目する
		3週	Unit 1 Lesson 2	パグラフとトピック・センテンスに着目する
		4週	Unit 1 Lesson 3	パラグラフ間のつながりに着目する
		5週	Unit 1 Lesson 4	各パラグラフの役割に着目する
		6週	Unit 1 Lesson 5	ディスコースマーカーに着目する（1）
		7週	Unit 1 Lesson 1～5	Unit 1 Lesson 1～5 総復習
		8週	前期中間試験	
	2ndQ	9週	Unit 1 Lesson 6	ディスコースマーカーに着目する（2）
		10週	Unit 1 Lesson 7	指示語や言い換えに着目する
		11週	Unit 1 Lesson 8	要約と書き手の意図に着目する
		12週	Unit 2 Lesson 1	help＋O＋動詞の原形/unless…を理解する
		13週	Unit 2 Lesson 2	that[those]of ～/so (that)…を理解する
		14週	Unit 2 Lesson 3	no matter how… / would rather ～ (than...)を理解する
		15週	Unit 2 Lesson 4	even though… / enough to ～を理解する
		16週	Unit 1 Lesson 5～ Unit 2 Lesson 4 Review	Unit 1 Lesson 5～ Unit 2 Lesson 4 総復習
後期	3rdQ	1週	Unit 2 Lesson 4 (続き)	even though… / enough to ～を理解する
		2週	Unit 2 Lesson 5	one ～, the other… / the 比較級～, the＋比較級 ,,,を理解する
		3週	Unit 2 Lesson 6	allow＋O＋to～ / when[while]＋ingを理解する
		4週	Unit 2 Lesson 7	倒置（否定後の強調）/ 完了形の分詞構文を理解する
		5週	同上	同上

		6週	Unit 2 Lesson 8	suggest＋that＋S＋(should)＋動詞の原形／prevent ＋ from ＋ -ingを理解する
		7週	同上	
		8週	Unit 2 Lesson 4～ Unit 2 Lesson 8 Review	
	4thQ	9週	中間試験	
		10週	Unit 3 Lesson 1	さまざまな形式のまとまった分量の英文を読めるようになる（健康・エッセイ）
		11週	Unit 3 Lesson 2	さまざまな形式のまとまった分量の英文を読めるようになる（食文化・エッセイ）
		12週	Unit 3 Lesson 3	さまざまな形式のまとまった分量の英文を読めるようになる（美術・説明文）
		13週	Unit 3 Lesson 4	さまざまな形式のまとまった分量の英文を読めるようになる（科学・説明文）
		14週	Unit 3 Lesson 5	さまざまな形式のまとまった分量の英文を読めるようになる（物語）
		15週	同上	さまざまな形式のまとまった分量の英文を読めるようになる（物語）
		16週	Unit 3 Lesson 1～ Lesson 5 Review	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	10	0	30	100
基礎的能力	60	0	0	10	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語表現III

科目基礎情報

科目番号	1931010	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	Departure English Expression I revised（大修館）		
担当教員	上杉 鉛一,前田 弘隆		

到達目標

(1) キー・センテンスはすべて暗唱し書くことができる。
(2) キー・センテンスを応用して簡単な英文を作り出す。
(3) 英会話に必要な英文法を十分に理解する。"

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1 基本例文の習得	基本的な文をすべて暗唱し書くことができる。	基本的な文をだいたい暗唱し書くことができる。	"基本的な文を十分に暗唱できず書くこともできない。"
評価項目2 基本例文を手本にした作文力	基本文を応用した作文がスムーズにできる。	基本文に沿った作文ができる。	基本文の理解が十分でない。
評価項目3 文法知識を応用した作文力	文法項目に基づいた英作文ができる。	文法項目に基づいた簡単な英作文ができる。	文法項目に基づいた英作文が十分にできない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	国際社会で活躍する為のコミュニケーション基礎力を培うために、文法項目を総復習しながら英語の文を作ることによって能動的な発話のできる土台を築くことを目指す。
授業の進め方・方法	(1) 比較的簡単な教科書を用いるので、書いてある内容はすべてマスターするよう心がける。 (2) 教科書、ノート、辞書は必ず携行する。 (3) 毎回、小テストを実施するので、復習は必ず行う。 (4) ノート整理を平生点として評価する。予習しておき、授業で添削することが好ましい。"
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	Lesson 1 Our School Year Starts (1)	第1・2文型の理解・習熟
		2週	Lesson 1 Our School Year Starts (2)	第3文型, there構文の理解・習熟
		3週	Lesson 2 My Friends (1)	第4文型の理解・習熟
		4週	Lesson 2 My Friends (2)	第5文型の理解・習熟
		5週	Lesson 3 My Hometown (1)	現在形、過去形と現在進行形の区別・習熟
		6週	Lesson 3 My Hometown (2)	過去進行形の理解・習熟、状態動詞の理解・習熟
		7週	前期中間試験	
		8週	答案返却と解説 Lesson 4 My Plan for the Future (1)	未来を表す表現の区別・習熟(will, be going to など)
	2ndQ	9週	Lesson 4 My Plan for the Future (2)	未来を表す表現の区別・習熟(未来進行形、 be sbout to、副詞節の現在形 など)
		10週	Lesson 5 Movies and Music (1)	現在完了形の各用法の区別・習熟、現在完了進行形の理解・習熟
		11週	Lesson 5 Movies and Music (2)	過去完了の各用法の区別・習熟、過去完了進行形、未来完了進行形の区別・習熟

		12週	Lesson 6 Save the Earth (1)	助動詞"can, may, must, have to)の理解・習熟
		13週	Lesson 6 Save the Earth (2)	助動詞(should, shall)の理解・習熟
		14週	Lesson 4, 5, 6のまとめ	前期の復習
		15週	前期末試験	
		16週	答案返却と解説	
後期	3rdQ	1週	Lesson 7 Food and Health (1)	助動詞と完了不定詞の理解・習熟、used toとwouldの区別・理解
		2週	Lesson 7 Foods and Health (2)	wouldを含む熟語の区別・習熟
		3週	Lesson 8 Fun to Discover Japan (1)	受動態の基本の理解・習熟
		4週	Lesson 8 Fun to Discover Japan (2)	受動態の応用の理解・習熟
		5週	Lesson 9 Getting Along with Each Other (1)	to-不定詞の基本の理解・習熟
		6週	Lesson 9 Getting Along with Each Other (2)	to-不定詞の応用(否定、疑問詞＋、come to)の理解・習熟
		7週	後期中間試験	
		8週	答案編曲と解説 Lesson 10 Living in the Information Age (1)	不定詞の応用(SVO to 不定詞、for - toなど)の理解・習熟
	4thQ	9週	Lesson 10 Living in the Information Age (2)	不定詞の進行形、完了形、受動態の理解・習熟
		10週	Lesson 11 Did You Get My Message? (1)	動名詞の理解・習熟
		11週	Lesson 11 Did You Get My Message? (2)	同盟市と不定詞の区別・習熟
		12週	Lesson 12 Do You Know the Sports? (1)	分詞の基本の理解・習熟
		13週	Lesson 12 Do You Know the Sports? (2)	分詞構文の基本の理解・習熟
		14週	後期のまとめ	復習
		15週	学年末試験	
		16週	答案返却と解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	10	0	30	100
基礎的能力	60	0	0	10	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	体育・スポーツⅠ

科目基礎情報

科目番号	1931011	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	最新高等保健体育		
担当教員	柴山 慧		

到達目標

1 自分や周囲の心身の健康・安全について理解し、適切な行動をとる。
2 ひとりひとりが主体的になって、授業におけるルールを意識し実行できる。
3 球技ではゲームを自分たちで運営できるようにする。
4 ウォータースポーツでは4泳法を習得し個人メドレーを泳げるようにする。
5 健康スポーツ島実習においては地域や社会で関連する課題の解決に向けて行動できるようにする。
6 陸上運動では自分の課題を解決できるように考えて、記録を向上させることの楽しさを体験する。
7 CLIL学習では体育やスポーツを通じて英語を活用できるようにする。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールにうついてについて、自主的に率先して理解や判断のもと適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解し適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解して適切な行動ができない。
評価項目2	率先して主体的に授業におけるルールを意識し実行できる。	指示があった授業におけるルールを意識し実行できる。	指示があった授業におけるルールを意識し実行できない。
評価項目3	球技ではゲームや練習では、運営に主体的にかかわることができる。	球技ではゲームや練習では、運営協力的にかかわることができる。	球技でゲームや練習では、運営協力的にかかわることができない。
評価項目4	4泳法に必要な技能を習得しているだけでなく、その技術を周囲に対して教授することができる。	4泳法に必要な技能を習得している。	4泳法に必要な技能を習得していない。
評価項目5	率先して地域や社会の課題を解決できるように考えるだけでなく、周囲と一緒に考えながら取り組むことができる。	地域や社会の課題を解決できるように考えることができる。	地域や社会の課題を解決できるように考えない。
評価項目5	率先してCLIL学習について、取り組むことができる。	CLIL学習について、取り組むことができる。	CLIL学習について、取り組むことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1)体育の学習を通じて、運動やスポーツをすることの楽しさを体験し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する心身を醸成する。 (2)(1)のために必要な豊かな心、生きる力および規範意識の重要性について理解しながら、主体的、計画的に自身の健康と体力向上を考えて実行できる授業を展開する。
授業の進め方・方法	通常の授業はグラウンドや体育館などの体育施設で実技を行なう。準備運動やストレッチング、トレーニングを実施し、個人の体力や技能の向上を図るとともに、ゲーム中での技術や判断、戦術理解などの総合的な能力を体得する。天候や施設などの状況により、シラバスどおりには実施できない場合がある。
注意点	(1) 授業時の服装は、本校指定の体操服に限る。 (2) 安全への配慮を考慮して、当然のことながら装飾品を外し、爪を切るなど自己安全管理を求める。 (3) シラバスの項目・内容を確認して、ルール等を事前に予習しておく。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション、健スポ島実習1回目ワークショップ「地域課題への気づき」	本授業の内容を理解し、地域や社会の課題について気づくことができる
		2週	体力テスト	体力テストの意義や必要性について理解している
		3週	体力テスト	体力テストの各調査項目について適切な実施方法を実行している
		4週	バレーボール（CLIL学習）	バレーボールの基本用語やルールについて理解している
		5週	バレーボール（CLIL学習）	ゲーム中にレシーブ、トス、アタックなど適切なプレーを選択している
		6週	バレーボール（CLIL学習）	審判や記録係などゲームの運営に積極的に協力している
		7週	バレーボール（CLIL学習）	
		8週	バレーボール（CLIL学習）	
	2ndQ	9週	ウォータースポーツ	4泳法について効率的なフォームを習得し、個人メドレーを泳ぐことができる
		10週	ウォータースポーツ	自分に合ったウォータースポーツ、マリンスポーツについて考えることができる
		11週	ウォータースポーツ	
		12週	ウォータースポーツ	
		13週	ウォータースポーツ	
		14週	健スポ島実習2回目ワークショップ「アクションプランの決定」	地域や社会の課題を解決するアクションプランの合意形成に参加している
		15週	前期のまとめ	前期の学習内容について理解している
		16週		

後期	3rdQ	1週	陸上競技	陸上運動の基本用語やルールについて理解している
		2週	陸上競技	記録を向上させるために自分で考えて練習している
		3週	陸上競技	効率的な走りのフォームを理解し、それに近づけようとしている
		4週	陸上競技	
		5週	陸上競技	
		6週	クラスマッチの練習（屋内）	クラスマッチに必要な練習計画を立てて実行できる
		7週	クラスマッチの練習（屋外）	クラスマッチに必要な練習計画を立てて実行できる
		8週	健スポ島実習3回目「アクションプランの実行」	アクションプランについて積極的に実行している
	4thQ	9週	卓球	卓球の基本用語やルールについて理解している
		10週	卓球	適切なフォームでラリーを続けることができる
		11週	卓球	ゲーム中にスマッシュを打つことができる
		12週	卓球	
		13週	卓球	
		14週	健スポ島実習「アクションプラン実施の評価」	実施したアクションプランについて自己評価し他者の評価を認識している
		15週	後期のまとめ	
		16週		

評価割合

	試験	レポート課題	発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	20	0	50	0	30	100
体育	0	20	0	50	0	30	100
	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	国語Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	1941001	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教科	対象学年	4
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	適宜、プリントを配布する。		
担当教員	朝倉 和		

到達目標

(1)情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。
(2)他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想･思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。
(3)相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。
(4)社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを最大限に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに大いに生かすことができる。	情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができない。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができない。
評価項目2	他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想･思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に大いに資することができる。	他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想･思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想･思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができない。
評価項目3	相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションを効果的にとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を十二分に習得できる。	相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができない。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できない。
評価項目4	社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を十二分に理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして効果的に実践できる。	社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	前半は（1）日本語表現演習 と称し、日本語（特に科学・技術文章）の基本ルールを再確認する。これは、その後に続く、コミュニケーション基礎力の養成を目的とする（2）スピーチ・プレゼン、（3）文章作成 をより効果的な内容にする狙いがある。（2）スピーチ・プレゼン は、原稿の書き方・話し方・聞き方・質問の仕方等を学習する。（3）文章作成 を行う際は、文章の「型」や段落構成を、特に意識する。
授業の進め方・方法	（1）日本語表現問題演習は、プリントを使った問題演習形式である。事前に問題を解いておき、授業でその解説をする。 （2）スピーチ・プレゼンは、「おすすめの本」という題目で、一人ずつクラス全員の前で発表する（時間は3～5分）。 （3）文章作成は、課題ごとに文章を作成し、提出する。 （4）課題提出は期限厳守、フロッピーやＵＳＢメモリで提出する場合がある。発表や提出に際して、下書き原稿を一旦提出し、添削を受ける機会もある。
注意点	（1）課題提出は期限厳守、フロッピーやＵＳＢメモリで提出する場合がある。発表や提出に際して、下書き原稿を一旦提出し、添削を受ける機会もある。 （2）プリントをファイルするものを各自準備すること。 （3）電子辞書もしくは国語辞書を持参することが望ましい。 （4）学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標

前期	1stQ	1週	1．日本語表現演習	就職活動に際して、自分の考えを、的確に相手に伝えることは大切である。また、就職してからも、（科学・技術）文章が書けないかぎり、円滑に仕事を進めることは難しい。「句読点のルール」など基本的な事柄から再確認し、添削や演習を繰り返して文章能力の向上をはかる。 1-(1)「誤字の削除」 1-(2)「送りがなの付け方」 1-(3)「同訓・同音語句の選択」 1-(4)「形式名詞の識別」 1-(5)「補助動詞の識別」 1-(6)「禁則処理」 1-(7)「中点」 1-(8)「括弧・コロン」 1-(9)「接続詞」 1-(10)「接文語句」 1-(11)「カタカナ単語の表記」 1-(12)「長音符号」 1-(13)「副詞の表記」 1-(14)「当て字の表記」 1-(15)「敬語」
		2週	同上	同上
		3週	2．スピーチ・プレゼン	これまでの読書タイムで読んだ本の中で、最も印象的な１冊を選び、クラス全員の前で紹介することができる。その際、言葉遣いや発表態度にも気を配る。また、聞く側も、的確に発表を分析、評価することができるようになる。
		4週	同上	同上
		5週	同上	同上
		6週	同上	同上
		7週	同上	同上
		8週	3．文章作成	文章構成を意識しながら、様々なパターンの文章を書くことができる。 3-(1) 手紙・はがき・メール文書 3-(2) 小論文 3-(3) 自己推薦（ＰＲ）文・志望動機（理由）書
	2ndQ	9週	同上	同上
		10週	同上	同上
		11週	同上	同上
		12週	同上	同上
		13週	同上	同上
		14週	同上	同上
		15週	前期末試験 答案返却・解説	
		16週		

評価割合

	試験	発表	レポート・課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	30	20	0	0	0	100
基礎的能力	50	30	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	社会特論（M）

科目基礎情報

科目番号	1941002	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教科	対象学年	4
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材			
担当教員	澤田 大吾		

到達目標

（1）現代社会の政治的諸課題を理解できる
（2）現代社会の経済的諸課題を理解できる
（3）新聞記事やグラフ、表から現代社会に関する情報を読み取ることができる
（4）時事問題について自分の言葉で説明できる

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	現代社会の政治的諸課題を理解し、説明できる	現代社会の政治的諸課題を理解している	現代社会の政治的諸課題を理解できない
評価項目2	現代社会の経済的諸課題を理解し、説明できる	現代社会の経済的諸課題を理解できる	現代社会の経済的諸課題を理解できない
評価項目3	新聞記事やグラフ、表から現代社会に関する情報を読み取り、その背景についても考察できる	新聞記事やグラフ、表から現代社会に関する情報を読み取ることができる	新聞記事やグラフ、表から現代社会に関する情報を読み取ることができない
	時事問題について自分の意見を含めて説明できる	時事問題について自分の言葉で説明できる	時事問題について自分の言葉で説明できない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	（1）現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解を深める （2）現代社会を理解する上で必要な情報を読み取る能力を身につける
授業の進め方・方法	自主制作教材を用い講義を行う
注意点	新聞やニュースなどで、時事問題に関する情報を収集しておくこと

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1.　現代の資本主義経済	1-(1)資本主義体制の確立
		2週	1.　現代の資本主義経済	1-(2)資本主義経済の発展と成立
		3週	1.　現代の資本主義経済	1-(3)社会主義の変遷
		4週	2.　現代経済のしくみ	2-(1)経済主体と経済循環 2-(2)経済のしくみと企業
		5週	2.　現代経済のしくみ	2-(3)市場経済の機能と限界
		6週	2.　現代経済のしくみ	2-(4)国民所得と経済成長

		7週	2.　現代経済のしくみ	2-(5)金融のしくみと機能
		8週	2.　現代経済のしくみ	2-(6)財政のしくみと機能
	2ndQ	9週	3.　日本経済の発展と産業構造の変化	3-(1)GHQ統治下の日本
		10週	3.　日本経済の発展と産業構造の変化	3-(2)高度経済成長期
		11週	3.　日本経済の発展と産業構造の変化	3-(3)二つのショック
		12週	3.　日本経済の発展と産業構造の変化	3-(4)産業構造変化
		13週	3.　日本経済の発展と産業構造の変化	3-(5)バブル経済とその後
		14週	4.　現代社会と日本経済の課題	4-(1)日本農業と食料問題
		15週	4.　現代社会と日本経済の課題	る4-(2)社会保障と福祉
		16週	学年末試験	

評価割合

	試験	レポート・小テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	社会特論（C・D)

科目基礎情報

科目番号	1941003	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教科	対象学年	4
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材			
担当教員	澤田 大吾		

到達目標

（1）現代社会の政治的諸課題を理解できる
（2）現代社会の経済的諸課題を理解できる
（3）新聞記事やグラフ、表から現代社会に関する情報を読み取ることができる
（4）時事問題について自分の言葉で説明できる

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	現代社会の政治的諸課題を理解し、説明できる	現代社会の政治的諸課題を理解している	現代社会の政治的諸課題を理解できない
評価項目2	現代社会の経済的諸課題を理解し、説明できる	現代社会の経済的諸課題を理解できる	現代社会の経済的諸課題を理解できない
評価項目3	新聞記事やグラフ、表から現代社会に関する情報を読み取り、その背景についても考察できる	新聞記事やグラフ、表から現代社会に関する情報を読み取ることができる	新聞記事やグラフ、表から現代社会に関する情報を読み取ることができない
	時事問題について自分の意見を含めて説明できる	時事問題について自分の言葉で説明できる	時事問題について自分の言葉で説明できない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	（1）現代社会の政治的・経済的諸課題、および公正な社会の実現に向けた現在までの取り組みについて理解を深める （2）現代社会を理解する上で必要な情報を読み取る能力を身につける
授業の進め方・方法	自主制作教材を用い講義を行う
注意点	新聞やニュースなどで、時事問題に関する情報を収集しておくこと

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	1.　現代の資本主義経済	1-(1)資本主義体制の成立
		2週	1．現代の資本主義経済	1-(2)資本主義経済の発展と変容
		3週	1.　現代の資本主義経済	1-(3)社会主義の変遷
		4週	2.　現代経済のしくみ	2-(1)経済主体と経済循環 2-(2)経済のしくみと企業
		5週	2.　現代経済のしくみ	2-(3)市場経済の機能と限界
		6週	2.　現代経済のしくみ	2-(4)国民所得と経済成長
		7週	2.　現代経済のしくみ	2-(5)金融のしくみと機能
		8週	2.　現代経済のしくみ	2-(6)財政のしくみと機能
	4thQ	9週	3.　日本経済の発展と産業構造の変化	3-(1)GHQ統治下の日本

		10週	3.　日本経済の発展と産業構造の変化	3-(2)高度経済成長期
		11週	3.　日本経済の発展と産業構造の変化	3-(3)二つのショック
		12週	3.　日本経済の発展と産業構造の変化	3-(4)産業構造変化
		13週	3.　日本経済の発展と産業構造の変化	3-(5)バブル経済とその後
		14週	4.　現代社会と日本経済の課題	4-(1)日本農業と食料問題
		15週	4.　現代社会と日本経済の課題	4-(1)社会保障と福祉
		16週	学年末試験	

評価割合

	試験	レポート・小テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	70	30	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	発展英語Ⅰ（M）（下田）

科目基礎情報

科目番号	1941004	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	4
開設期	前期	週時間数	4
教科書/教材	金星堂　SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC® L&R TEST : BEGINNER		
担当教員	上杉 鉛一,江原 智子,下田 旭美		

到達目標

1. TOEIC受験の出題形式に慣れ、各問題形式の傾向を把握し、自信を持って臨める姿勢を身につける
2. 授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現、文法の構造、英文読解を理解し、運用できるようになる
3. 授業を通して、スコアアップに必要な自学自習方法の習得も目指す

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	授業で扱った、TOEICに頻出する語彙・表現に関する質問に80%以上答えられる。	授業で扱った、TOEICに頻出する語法・語彙に関する質問に70%以上答えられる。	授業で扱った、TOEICに頻出する語法・語彙に関する質問に60%以上答えられない。
評価項目2	授業で扱った、TOEICに頻出する文法の構造に関する質問に80%以上答えられる。	授業で扱った、TOEICに頻出する文法の構造に関する質問に70%以上答えられる。	授業で扱った、TOEICに頻出する文法の構造に関する質問に60%以上答えられない。
評価項目3	授業で扱った、TOEICに頻出する英文を読んで内容に関する質問に80%以上答えられる。	授業で扱った、TOEICに頻出する英文を読んで内容に関する質問に70%以上答えられる。	授業で扱った、TOEICに頻出する英文を読んで内容に関する質問に60%以上答えられない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	TOEIC受験の出題形式に慣れ、各問題形式の傾向を把握し、自信を持って臨める姿勢を身につけるため、TOEICに頻出する語彙・表現、文法の構造、英文読解の3つを柱とした基礎力をつけていきましょう。また、スコアアップに必要な自学自習方法も意識しながら、日々の授業を積み重ねていきましょう。
授業の進め方・方法	基本的に、教科書の内容に沿ってユニットごとに進めます。 教科書の内容とともに、ユニットごとにあるミニテストも実施し、TOIECの試験の出題形式に慣れるとともに、復習をしながら各問題形式の傾向も把握していきます。
注意点	・学習内容の定着には、日々の予習復習が不可欠です。 ・教科書・ミニテストなどを活用して主体的に学習するよう心がけてください。 ・提出物等の期限は厳守してください。 ・学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問してください。 ・辞書・ノート（ルーズリーフは不可）を必ず持参してください。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション Unit 1 Travel	シラバス確認、評価方法についての説明 旅行に関する語句・表現を覚える 名詞を学ぶ
		2週	Unit 1 Mini Test Unit 2 Dining Out	小テストと復習 レストランや食事に関する語句・表現を覚える、形容詞を学ぶ
		3週	Unit 2 Mini Test Unit 3 Shopping	小テストと復習 買い物に関する語句・表現を覚える、形容詞を学ぶ、副詞を学ぶ
		4週	Unit 3 Mini Test Unit 4 Entertainment	小テストと復習 エンターテインメントに関する語句・表現を覚える、時制を学ぶ
		5週	Unit 4 Mini Test Unit 5 Advertising	小テストと復習 広告・宣伝に関する語句・表現を覚える、主語と動詞の一致を学ぶ
		6週	Unit 5 Mini Test Unit 6 Events	小テストと復習 イベントに関する語句・表現を覚える 能動態・受動態を学ぶ
		7週	Unit 6 Mini Test Unit 7 Daily Life	小テストと復習 日常生活に関する語句・表現を覚える、動名詞・不定詞を学ぶ
		8週	Unit 7 Mini Test これまでの総復習	小テストと復習
	2ndQ	9週	Unit 8 Media Unit 8 Mini Test Unit 9 Recruiting	8:メディアに関する語句・表現を覚える 代名詞を学ぶ、小テストと復習、9:求人に関する語句・表現を覚える、比較を学ぶ

		10週	Unit 9 Mini Test Unit 10 Production & Sales Unit 10 Mini Test	9:小テストと復習、10:売上げ・業績に関する語句・表現を覚える、前置詞を学ぶ、小テストと復習
		11週	Unit 11 Meetings Unit 11 Mini Test Unit 12 Offices	11:会議に関する語句・表現を覚える、接続詞を学ぶ 小テストと復習、12:オフィスに関する語句・表現を覚える、前置詞と接続詞の違いを学ぶ
		12週	Unit 12 Mini Test Unit 13 Personnel Unit 13 Mini Test	12: 小テストと復習、13:人事関する語句・表現を覚える、関係代名詞を学ぶ、小テストと復習
		13週	Unit 14 Business Activities Unit 14 Mini Test Unit 15 Finance	14:ビジネスに関する語句・表現を覚える 語彙の結びつきを学ぶ、小テストと復習、15:予算・費用に関する語句・表現を覚える、語彙の結びつきを学ぶ
		14週	Unit 15 Mini Test これまでの総復習	15: 小テストと復習
		15週	前期末試験	
		16週	答案返却と解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	10	0	30	100
基礎的能力	60	0	0	10	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	発展英語Ⅰ（M）

科目基礎情報

科目番号	1941005	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	4
開設期	前期	週時間数	4
教科書/教材			
担当教員	下田 旭美		

到達目標

(1)日本語を適切に理解及び運用することができる。
(2)上記⑴を基に，日本語を適切な英語で，英語を適切な日本語で捉えることができる。
(3)異文化理解の姿勢を持ち，その第一歩として適切な語彙力を獲得する。
(4)日本語と英語の両言語を一対一の対連合関係ではなく，両言語の表現及び表す意味の違いを有機的に捉えることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	日本語を適切に理解及び運用することができる。	日本語の語感や意味を説明できる。	日本語の語感や意味を言語化できない。
評価項目2	上記⑴を基に，日本語を適切な英語で，英語を適切な日本語で捉えることができる。	自分の言葉で両言語の異同を言語化することができる。	教員によるサポートがあっても両言語の異同を言語化できない。
評価項目3	異文化理解の姿勢を持ち，その第一歩として適切な語彙力を有する。	授業で紹介された語彙・表現に関しては全て理解し運用もできる。	授業で紹介された語彙・表現の理解及び運用ができない。
評価項目4	日本語と英語の両言語を一対一の対連合関係ではなく，両言語の表現及び表す意味の違いを有機的に捉えることができる。	両言語における言語形式及び文型の使用方法を理解している。	両言語における言語形式及び文型の使用方法を理解できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	1. 語彙力，聴解力，口頭産出能力を育むことに主眼を置き，必要に応じて講義も織り交ぜながら，英語を運用する練習を行う。 2. 単元のまとまりごとに小テスト（全2回）を行い，その累積点数を中間テストに相当するものとして成績評価に当てる。 3. 英語と日本語のリズムの違いに触れながら，英語を聞き取る/発音する練習をペアワークやグループワークを中心に行う。 4. 英語と日本語の語順の違いに触れながら，自分で意思疎通を図るために最低限必要な文法の力を養う。 5. 聞き取りができない場合に適切に意味交渉する術も扱う。航海実習に備え積極的に取り組むこと。 6. 各単元開始前までにノートに本文を書き写しておくこと。体裁は問わないので，自分の分かりやすい方法でやること。
授業の進め方・方法	1. スマートフォンのアプリケーションを用い，プロソディシャドーイングを行う。履修生には使用するアプリケーションのダウンロード及びイヤフォンの準備を授業開始時に指示する。 2. 英語がどのような音で自分の耳に届くか，自分の発音が外国人にどのように聞こえているのか，なぜ聞き取りが難しいのかを体験的に学べるよう，授業では積極的に英語を用いて履修生に問いかける形式を目指す。よって，教員からの問いかけに対して何かしらの意思表示を英語ですることが求められる。 3. 授業の進行と並行して，履修生には自らの学習計画の立案を課題として課す。授業開始日から一週間以内に作成し，提出すること。また，学習計画は各自の進度に合わせて定期的にアップデートしていくこと。これに関しては授業開始時に詳しく指示する。
注意点	1. 運用能力の向上を目指した授業であるため，積極的な参加が単位修得の必須要件である。 2. 不明な点がある場合は積極的に質問すること。 3. 自分で考え，教員からの問いかけに対して自分の言葉で考えを言語化する姿勢を持ってほしい。 4. 現実場面を想定し，学生の現時点の英語力よりも難易度を多少高めに設定してあるため，自律的且つ積極的な授業態度が強く求められる授業であることを強調しておく。ただし，難易度は努力と積極性によって乗り越えられる程度であることも合わせて申し添える。 5. 成績評価あるいは授業そのものに関して不服申し立てを希望する場合，前述の通り授業への自律的且つ積極的参加がこの授業における学生の義務であり，この義務遂行が認められない学生に関しては，これを受け付けない。よって，授業が進むにつれ，授業内容の改善及び改変の要求を希望する学生は，自身の日々の態度に関して十分に内省すること。 6. できるだけ授業時間内ですべての学生への対応を目指すが，これが実現できない時限があった場合，希望する学生には何らかの形で必ずフィードバックを与えることを約束する。 7. 課題の提出に関して，ネット，Wi-Fi，印刷機，印刷用紙不足，インク切れなど，その他事前に想定可能な問題によって提出物の期限が過ぎることは理由として認めない。よって，課題の提出の際には，メールでの提出でも紙媒体での提出でも，必ず期日に間に合うように提出すること。 8. 成績評価欄に明示してあるとおり，授業中の取り組みは成績評価の40%を占める。一回の授業時間を大切にする姿勢で取り組むことを奨励する。 9. 授業中のスマートフォンの使用は，教員から指示がない限り認めない。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション ・英語学習のいろは1 ・メールアドレスの登録 ・アプリのダウンロード	シラバスを参照しながら授業進行上の注意点，成績評価などに関して理解する。単語の覚え方，発音の仕方，聞き取りの練習方法を紹介する。また，外国語学習の進め方やコツ，どのような人が上達するか，上達のコツなど，第二言語習得研究からの知見を紹介する。これを承けて学習計画課題に取り組むこと。
		2週	#1 レストランでの注文① ・学習計画課題提出締め切り	ここから第4週目まで「レストランでの注文」を授業で扱う。予習として，本文をノートに書き写しておくこと。①では重要事項の確認，本文の大意要約をメインに行う

		3週	# 1レストランでの注文②	②では主に聞き取りをメインに行う。練習方法としてリピーティングとシャドーイングを取り入れ，練習方法に慣れていくことを目指す。
		4週	#1 レストランでの注文③ ・学習計画課題修正締め切り	③では，主に発音の練習をピアラーニング形式で実施する。受講生の積極性と自律性が求められるため，そのつもりで参加してほしい。
		5週	第一回小テスト	#1を範囲として小テストを実施する。問題は単語，本文の意味の理解を問う問題，担当教員及びクラスメート同士の英語での会話。
		6週	#2 CDショップでの会話①	ここから第8週目まで「CDショップでの会話」を授業で扱う。予習として，本文をノートに書き写しておくこと。①では重要事項の確認，本文の大意要約をメインに行う
		7週	#2 CDショップでの会話②	②では主に聞き取りをメインに行う。練習方法としてリピーティングとシャドーイングを取り入れ，練習方法に慣れていくことを目指す。
		8週	#2 CDショップでの会話③ ・学習計画中間報告1	③では，主に発音の練習をピアラーニング形式で実施する。受講生の積極性と自律性が求められるため，そのつもりで参加してほしい。また，学習計画の中間報告を各自メールにて行うこと。
	2ndQ	9週	時間合わせ/復習 ・英語学習のいろは2	ここまでの学習を振り返る復習の時間を設ける。受講生は何ができるようになったか，どのようなことが課題として挙げられるか，各自説明できるように準備しておくこと。
		10週	第二回小テスト	#1と#2を範囲として小テストを実施する。問題は単語，本文の意味の理解を問う問題，担当教員及びクラスメート同士の英語での会話。
		11週	#3 インタビュー（NHKキャサリンさん）①-1	ここから第13週目まで「インタビュー（NHKキャサリンさん）」を授業で扱う。予習として，本文をノートに書き写しておくこと。なお，ここから分量が少し多くなるため，早めに取り組むこと。①では重要事項の確認，本文の大意要約をメインに行う
		12週	#3 インタビュー（NHKキャサリンさん）①-2	②では主に聞き取りをメインに行う。練習方法としてリピーティングとシャドーイングを取り入れ，練習方法に慣れていくことを目指す。
		13週	#3 インタビュー（NHKキャサリンさん）①-3	③では，主に発音の練習をピアラーニング形式で実施する。受講生の積極性と自律性が求められるため，そのつもりで参加してほしい。また，学習計画の中間報告を各自メールにて行うこと。
		14週	#3 インタビュー（NHKキャサリンさん）①-4	この単元は分量の都合上，各時限で適宜進度を調整する。
		15週	時間合わせ/復習 ・学習計画課題報告書提出	
		16週	時間合わせ/復習 ・テスト直し，自習時間等に当てる	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	30	20	0	100
基礎的能力	50	0	0	30	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	発展英語Ⅰ（C・D）

科目基礎情報

科目番号	1941006	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	4
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	南雲堂　「Our World Today」　Adam MURRAY　Anderson PASSONS		
担当教員	上杉 鉛一,江原 智子,前田 弘隆,下田 旭美		

到達目標

(1) 実際の会話場面のスピードに慣れ、聞き取り能力を鍛える。
(2) 出来るだけ短時間で英文を読み、内容を把握することに慣れる。
(3) 肉声による発信と受信を体験し、英語によるコミュニケーション力を身につける。

"

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	実際の会話場面のスピードに聞き取りが対応でき主旨を把握し、正確な情報が引き出せるようになる	実際の会話場面のスピードに慣れ、主旨が把握できるようになる	実際の会話場面のスピードに慣れず、主旨が把握できない
評価項目2	出来るだけ短時間で英文が読め、内容を把握し、正確な情報を引き出すことができる	ある程度の速さで英文が読め、主旨が把握できる	ある程度の速さで英文が読めず、内容が把握できない
評価項目3	現実の発話場面に身を置き、外国人の発話の聞き取りができ、必要情報を盛り込んだメッセージが返せるようになる	現実の発話場面に身を置き外国人の発話の聞き取りがある程度でき、何とか返信ができるようになる	肉声による英文メッセージが聞き取れず、返信できない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1) TOEICテストに準じた問題を解きながら、聞き取り理解と速読理解の訓練をする。 (2) 外国人講師による会話の授業を通じ、英語の発信力を磨く。 (3)発信力の実際として、英作文の練習も行う。
授業の進め方・方法	日本人による授業：TOEIC対応の授業と、自由作文の練習による発信作文の授業　と、外国人教師による会話の授業の二本立てである。
注意点	(1) 学修単位科目である意味をよく理解し、計画的な自学時間を確保すること。 (2) 授業の前半と後半で担当者が交代する。 (3) Khaked LAOUBI先生の授業は、自主教材が配付される。 (4)TOEIC対応の授業では教科書を用いるが、それ以外の内容については、教員自作のプリントを使用するので、教材管理に注意すること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1 ガイダンス　日常生活　可算・不可算名詞の復習　ファッション　代名詞の復習　食料品の買い出し　動詞活用の復習	シラバス確認、評価方法についての説明。可算・不可算名詞の区別と文中での取り扱いの違いを理解する。代名詞が正しく使える。動詞活用が正しくできる。ファッション用語・ショッピング場面での表現を身につける。
		2週	同上	同上
		3週	同上	同上
		4週	同上	同上
		5週	同上	同上
		6週	同上	同上
		7週	前期中間試験	
		8週	答案返却と解説	

	2ndQ	9週	2 料理　自動詞・他動詞　外食　不完全動詞・完全動詞　５文型　助動詞　ハウジング・家具　前置詞	自動詞・他動詞の違いと使い分けが正しくできる。文型の違いが正しく理解でき、それをもとに正しい文が作れる。助動詞の用法が正しく理解でき、必要に応じて正しく使い分けられる。　場所を表す前置詞が正しく選択できる。料理や家具等の語彙を身につける。
		10週	同上	同上
		11週	同上	同上
		12週	同上	同上
		13週	同上	同上
		14週	作文演習	適切な日本語への言いかえ練習
		15週	前期末試験	
		16週	答案返却と解説	
後期	3rdQ	1週	3 天気　前置詞　映画芝居　形容詞・副詞　スポーツ　現在進行形　交通・通勤　現在完了	時を表す前置詞が正しく選択できる。形容詞と福祉、その比較変化が正しくできる。現在形と現在完了形との違いが理解でき、使い分けられ、正しい文を作ることができる。現在形と過去形に対して現在完了形が持つ価値が理解でき、正しい場面で現在完了の文を作ることができる。天候表現やスポーツ用語、疼痛関連の用語を身につける。
		2週	同上	同上
		3週	同上	同上
		4週	同上	同上
		5週	同上	同上
		6週	作文演習	適切な日本語への言いかえ練習
		7週	後期中間試験	
		8週	答案返却と解説	
	4thQ	9週	4 車　過去形　銀行　未來時制　宿泊　接続詞　健康・医療　関係代名詞	動詞の活用と過去表現が正しく理解できる。未来表現と動詞の形が正しく連携できる。正しい接続詞が選択できる。場面に応じた用語を身につける。
		10週	同上	同上
		11週	同上	同上
		12週	同上	同上
		13週	同上	同上
		14週	作文演習	適切な日本語への言いかえ練習
		15週	学年末試験	
		16週	答案返却と解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	10	0	30	100
基礎的能力	60	0	0	10	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	体育・スポーツⅡ（M）

科目基礎情報

科目番号	1941007	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教科	対象学年	4
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	最新高等保健体育		
担当教員	柴山 慧		

到達目標

1 自分や周囲の心身の健康・安全について理解し、適切な行動をとる。
2 ひとりひとりが主体的になって、授業におけるルールを意識し実行できる。
3 球技では準備運動や練習なども含めて自分たちでスポーツの楽しみ方を実践できる。
4 バドミントンでは基本的な技能を身につける。
5 グラウンドゴルフでは、その意義や必要性を理解し大崎上島でのスポーツについて学習する。
6 スポーツ実験実習では、保健体育や健康、スポーツに関する事象について、調査や研究するための計画を立てて実行できる。
7 CLIL学習では体育やスポーツを通じて英語を活用することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールにうついてについて、自主的に率先して理解や判断のもと適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解し適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解して適切な行動ができない。
評価項目2	率先して主体的に授業におけるルールを意識し実行できる。	指示があった授業におけるルールを意識し実行できる。	指示があった授業におけるルールを意識し実行できない。
評価項目3	球技のゲームや練習では、運営に主体的にかかわることができる。	球技のゲームや練習では、運営協力的にかかわることができる。	球技のゲームや練習では、運営協力的にかかわることができない。
評価項目4	バドミントンに必要な技能を習得しているだけでなく、その技術を周囲に対して教授することができる。	バドミントンに必要な技能を習得している。	バドミントンに必要な技能を習得していない。
評価項目5	グラウンドゴルフに必要な技能や知識を習得しているだけでなく、大崎上島のスポーツについて考えることができる。	グラウンドゴルフに必要な技能や知識を習得している。	グラウンドゴルフに必要な技能や知識を習得していない。
評価項目6	保健体育や健康、スポーツに関する事象について、周囲と協力して調査や研究するための計画を立てて実行できる。	保健体育や健康、スポーツに関する事象について、調査や研究するための計画を立てて実行できる。	保健体育や健康、スポーツに関する事象について、調査や研究するための計画を立てて実行できない。
評価項目7	率先してCLIL学習に取り組むことができる。	CLIL学習に取り組むことができる。	CLIL学習に取り組むことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1)体育の学習を通じて、運動やスポーツをすることの楽しさを体験し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する心身を醸成する。 (2)(1)のために必要な豊かな心、生きる力および規範意識の重要性について理解しながら、主体的、計画的に自身の健康と体力向上を考えて実行できる授業を展開する。
授業の進め方・方法	通常の授業はグラウンドや体育館などの体育施設で実技を行なう。準備運動やストレッチング、トレーニングを実施し、個人の体力や技能の向上を図るとともに、ゲーム中での技術や判断、戦術理解などの総合的な能力を体得する。天候や施設などの状況により、シラバスどおりには実施できない場合がある。
注意点	(1) 授業時の服装は、本校指定の体操服に限る。 (2) 安全への配慮を考慮して、当然のことながら装飾品を外し、爪を切るなど自己安全管理を求める。 (3) シラバスの項目・内容を確認して、ルール等を事前に予習しておく。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション、からだつくり運動	からだつくり運動の意義や必要性について理解している
		2週	体力テスト	体力テストの意義や必要性について理解している
		3週	体力テスト	体力テストの各調査項目について適切な実施方法を実行している
		4週	グラウンドゴルフ	グラウンドゴルフの基本用語やルールについて理解している
		5週	グラウンドゴルフ	地域のスポーツについて考え、自分の生涯スポーツに生かそうとしている
		6週	バドミントン（CLIL学習）	審判や記録係などゲームの運営に積極的に協力している
		7週	バドミントン（CLIL学習）	バドミントンの基本用語やルールについて理解している
		8週	バドミントン（CLIL学習）	ゲーム中にスマッシュ、ハイクリア、ヘアピンなど適切なプレーを選択している
	2ndQ	9週	バドミントン（CLIL学習）	
		10週	バドミントン（CLIL学習）	
		11週	スポーツ実験実習	保健体育や健康、スポーツに関する事象について、調査や研究するための計画を立てている。
		12週	スポーツ実験実習	保健体育や健康、スポーツに関する事象について、調査や研究するための実験を実施している。

		13週	スポーツ実験実習	
		14週	スポーツ実験実習	
		15週	スポーツ実験実習	保健体育や健康、スポーツに関する事象について、実験の報告書をまとめて発表できている。
		16週		

評価割合

	試験	レポート課題	発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	20	0	50	0	30	100
体育	0	20	0	50	0	30	100
	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	体育・スポーツⅡ（C・D）

科目基礎情報

科目番号	1941008	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	4
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	最新高等保健体育		
担当教員	柴山 慧		

到達目標

1 自分や周囲の心身の健康・安全について理解し、適切な行動をとる。
2 ひとりひとりが主体的になって、授業におけるルールを意識し実行できる。
3 球技では準備運動や練習なども含めて自分たちでスポーツの楽しみ方を実践できる。
4 硬式テニスでは基本的な技能を身につける。
5 グラウンドゴルフでは、その意義や必要性を理解し大崎上島でのスポーツについて学習する。
6 スポーツ実験実習では、保健体育や健康、スポーツに関する事象の調査や研究について、実験計画を立てて実習することができる。
7 CLIL学習では体育やスポーツを通じて英語を活用することができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールにうついてについて、自主的に率先して理解や判断のもと適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解し適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解して適切な行動ができない。
評価項目2	率先して主体的に授業におけるルールを意識し実行できる。	指示があった授業におけるルールを意識し実行できる。	指示があった授業におけるルールを意識し実行できない。
評価項目3	ボール運動(球技)のゲームや練習では、運営に主体的にかかわることができる。	ボール運動(球技)のゲームや練習では、運営協力的にかかわることができる。	ボール運動(球技)のゲームや練習では、運営協力的にかかわることができない。
評価項目4	硬式テニスに必要な技能を習得しているだけでなく、その技術を周囲に対して教授することができる。	硬式テニスに必要な技能を習得している。	硬式テニスに必要な技能を習得していない。
評価項目5	グラウンドゴルフに必要な技能や知識を習得しているだけでなく、大崎上島のスポーツについて考えることができる。	グラウンドゴルフに必要な技能や知識を習得している。	グラウンドゴルフに必要な技能や知識を習得していない。
評価項目6	スポーツに関する事象の調査や研究について、周囲と協力して実験計画を立てて実習することができる。	スポーツに関する事象の調査や研究について、実験計画を立てて実習することができる。	スポーツに関する事象の調査や研究について、実験計画を立てて実習することができない。
評価項目7	率先してCLIL学習に取り組むことができる。	CLIL学習に取り組むことができる。	CLIL学習に取り組むことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1)体育の学習を通じて、運動やスポーツをすることの楽しさを体験し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する心身を醸成する。 (2)(1)のために必要な豊かな心、生きる力および規範意識の重要性について理解しながら、主体的、計画的に自身の健康と体力向上を考えて実行できる授業を展開する。
授業の進め方・方法	通常の授業はグラウンドや体育館などの体育施設で実技を行なう。準備運動やストレッチング、トレーニングを実施し、個人の体力や技能の向上を図るとともに、ゲーム中での技術や判断、戦術理解などの総合的な能力を体得する。天候や施設などの状況により、シラバスどおりには実施できない場合がある。
注意点	(1) 授業時の服装は、ジャージ等のスポーツができるものとする。 (2) 安全への配慮を考慮して、当然のことながら装飾品を外し、爪を切るなど自己安全管理を求める。 (3) シラバスの項目・内容を確認して、ルール等を事前に予習しておく。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション、からだつくり運動	からだつくり運動の意義や必要性について理解している
		2週	体力テスト	体力テストの意義や必要性について理解している
		3週	体力テスト	体力テストの各調査項目について適切な実施方法を実行している
		4週	グラウンドゴルフ	グラウンドゴルフの基本用語やルールについて理解している
		5週	グラウンドゴルフ	地域のスポーツについて考え、自分の生涯スポーツに生かそうとしている
		6週	バドミントン（CLIL学習）	審判や記録係などゲームの運営に積極的に協力している
		7週	バドミントン（CLIL学習）	バドミントンの基本用語やルールについて理解している
		8週	バドミントン（CLIL学習）	ゲーム中にスマッシュ、ハイクリア、ヘアピンなど適切なプレーを選択している
	2ndQ	9週	バドミントン（CLIL学習）	
		10週	バドミントン（CLIL学習）	
		11週	スポーツ実験実習	保健体育や健康、スポーツに関する事象の調査や研究について考えて、計画を立てている。

		12週	スポーツ実験実習	保健体育や健康、スポーツに関する事象の調査や研究について実験を実施している。
		13週	スポーツ実験実習	
		14週	スポーツ実験実習	
		15週	スポーツ実験実習	保健体育や健康、スポーツに関する事象の調査や研究について報告書をまとめて、発表ができている。
		16週		
後期	3rdQ	1週	硬式テニス＆選択スポーツ	硬式テニスの基本用語やルールについて理解している
		2週	硬式テニス＆選択スポーツ	硬式テニスでラリーを続けるのに必要な技能を習得している
		3週	硬式テニス＆選択スポーツ	硬式テニスのゲーム中にスマッシュ、ボレーなど適切なプレーを選択している
		4週	硬式テニス＆選択スポーツ	自分たちで適切なスポーツを選択して実行できる
		5週	クラスマッチの練習（屋内）	
		6週	クラスマッチの練習（屋外）	
		7週	硬式テニス＆選択スポーツ	硬式テニスのゲームを自分たちで運営できる
		8週	硬式テニス＆選択スポーツ	ペアでラリーを20回行うことができる
	4thQ	9週	硬式テニス＆選択スポーツ	
		10週	硬式テニス＆選択スポーツ	
		11週	ハンドボール	ゲーム中に必要な個人技能や集団技能を習得している
		12週	ハンドボール	審判や記録係などゲームの運営に積極的に協力している
		13週	ハンドボール	チームで準備運動、練習などを協力して考えて実行している
		14週	ハンドボール	
		15週	ハンドボール	
		16週		

評価割合

	試験	レポート課題	発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	20	0	50	0	30	100
体育	0	20	0	50	0	30	100
	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	文学と思想

科目基礎情報

科目番号	1951001	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教科	対象学年	5
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	適宜、プリントを配布する。		
担当教員	朝倉 和		

到達目標

(1)代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。
(2)

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりして、生きるヒントを見出すことができる。	代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解し、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができる。	代表的な古文・漢文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて人物・情景などを理解したり、人間・社会・自然などについて考えを深めたり広げたりすることができない。
評価項目2			
評価項目3			

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	我が国や中国の文学作品を通して、当時の人々の物の見方・感じ方・考え方（思想）を理解し、多様な価値観や、人間的な幅の広さを意識させる。そして、社会に出てから特に必要になってくると思われる、強い精神力の持ち方、人間力・仕事力・組織力・経営力・交渉力の高め方、社会人やリーダーとしての在り方（規範意識）などを確認する。
授業の進め方・方法	（１）授業の進行状況に応じて、ＤＶＤやビデオを鑑賞する。 （２）
注意点	（１）プリントをファイルするものを各自準備すること。 （２）電子辞書もしくは古語辞典・漢和辞典を持参することが望ましい。 （３）『徒然草』や『論語』には注釈書が豊富に存在するので、事前・事後に解釈を確認しておくと、理解が深まると思われる。 （４）学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	１．徒然草と無常観	1-(1) 無常観を根底にした美意識 に関して理解できる。（137段） 1-(2) 無常観とその浸透 に関して理解できる。（195,196,40-42段） 1-(3) 無常観とその形成要素（生命無常・人心無常・存在無常） に関して理解できる。（25-32段） 1-(4) DVD鑑賞（徒然草・アニメ・中世文学等）
		2週	同上	同上
		3週	同上	同上
		4週	同上	同上
		5週	同上	同上
		6週	同上	同上
		7週	２．孔子の思想	2-(1) 訓読・句法・故事成語 を確認できる。 2-(2) 孔子の生涯、『論語』の概要 を理解できる。（DVD鑑賞） 2-(3) 「君子」や「仁」を理解することができる。 2-(4) 『論語』を用いてプレゼンテーションを行うことができる。
		8週	同上	同上
	4thQ	9週	同上	同上
		10週	同上	同上
		11週	同上	同上
		12週	同上	同上
		13週	３．禅宗の思想	3-(1) スティーブ・ジョブズにおける禅宗の影響を確認できる。 3-(2) 祖師の逸話、悟りの境地、公案 を理解できる。 3-(3) 『中華若木詩抄』に見られる禅的発想を確認できる。 3-(4) 一休宗純や公案「婆子焼庵」 を知ることができる。（アニメ一休さん）
		14週	同上	同上
		15週	学年末試験 答案返却・解説	
		16週		

評価割合

	試験	発表	レポート・課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	30	20	0	0	0	100

基礎的能力	50	30	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	社会特論

科目基礎情報

科目番号	1951002	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	授業で配布するプリント類		
担当教員	小河 浩,澤田 大吾		

到達目標

(1)グローバル化された現代における時事問題など一般教養程度の内容が理解できる。
(2)科学技術の諸問題や思想などについて一般教養程度の内容が理解できる。
(3)企業や資源や地域紛争、グローバル化や反グローバル化などについて一般教養程度の内容が理解できる。
(4)日本の抱える社会や国際的諸問題について一般教養程度の内容が理解できる。
(5)現代における地域の抱える諸問題について理解できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	グローバル化された現代における時事問題などに関するニュースの内容が理解できて、内容も説明できる。	グローバル化された現代における時事問題などに関するニュースの内容が理解できる。	グローバル化された現代における時事問題などに関する理解できていない。
評価項目2	科学技術の諸問題や思想などに関するニュースの内容が理解できて、内容も説明できる。	科学技術の諸問題や思想などに関するニュースの内容が理解できる。	科学技術の諸問題や思想などに関する理解できていない。
評価項目3	企業や資源や地域紛争、グローバル化や反グローバル化などに関するニュースの内容が理解できて、内容も説明できる。	企業や資源や地域紛争、グローバル化や反グローバル化などに関するニュースの内容が理解できる。	企業や資源や地域紛争、グローバル化や反グローバル化などに関する理解できていない。
評価項目4	日本の抱える社会や国際的諸問題に関するニュースの内容が理解できて、内容も説明できる。	日本の抱える社会や国際的諸問題に関するニュースの内容が理解できる。	日本の抱える社会や国際的諸問題に関する理解できていない。
評価項目5	地域の抱える諸問題について内容が理解できて、内容も説明できる。	地域の抱える諸問題について、基礎的な理解ができる。	地域の抱える諸問題について、基礎的な内容が理解できていない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1)グローバル化された現代における時事問題などについて理解できる。 (2)科学技術の諸問題や思想などについて理解できる。 (3)企業や資源や地域紛争、グローバル化や反グローバル化などについて理解できる。 (4)日本の抱える社会や国際的諸問題について理解できる。 (5)地域の抱える諸問題について理解できる。
授業の進め方・方法	社会特論は、これから就職活動を控え、また社会人となっていくために必要な現代社会を理解するために時事問題を、講義と演習形式で学習していくものである。グローバル化された世界情勢の動きや、行き過ぎたグローバル化や企業の問題、それに伴う格差や資源、テロの問題など、学習する内容は多岐にわたる。これらの内容を講義と共に、新聞や書籍記事などを用いて学生個々人が読解し、分析することによって理解をふかめるものである。
注意点	(1)シラバス内容に照らし合わせて予習をしてくること。 (2)課題などは必ず期限内に提出すること。 (3)学習内容についてわからないことがあれば、積極的に質問すること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	民主主義について	民主主義の発達
		2週	日本国憲法について（1）	日本国憲法の成立過程 三大原理
		3週	日本国憲法について（2）	憲法改正 基本的人権
		4週	日本の政治機構と政治参加（1）	日本の政治 選挙と政党
		5週	日本の政治機構と政治参加（2）	地方自治
		6週	国際社会（1）	国際連合
		7週	国際社会（2）	国際経済
		8週	国際社会（3）	国際政治
	2ndQ	9週	資本主義経済・企業（1）	資本主義経済の発展
		10週	資本主義経済・企業（2）	企業による生産
		11週	国民経済・日本の経済	経済主体・国民所得
		12週	貨幣・金融・財政（1）	通貨制度・銀行
		13週	貨幣・金融・財政（2）	財政
		14週	労働・社会保障について	労働関係の改善 公害・環境・消費者問題
		15週	まとめ	まとめ
		16週	前期末試験	前期末試験
後期	3rdQ	1週	戦後の国際関係（1）	WWⅠ以前の国際関係（1）

		2週	戦後の国際関係（２）	ＷＷⅠ以前の国際関係（２）
		3週	戦後の国際関係（３）	ＷＷⅠ中の国際関係
		4週	戦後の国際関係（４）	ヒットラーの登場
		5週	戦後の国際関係（５）	ＷＷⅡの始まり
		6週	戦後の国際関係（６）	ポストＷＷⅡ
		7週	戦後の国際関係（７）	勝者の世界分割
		8週	戦後の国際関係（８）	冷戦と各抑止力
	4thQ	9週	戦後の国際関係（９）	ベトナム戦争
		10週	戦後の国際関係（10）	冷戦終結
		11週	戦後の国際関係（11）	戦後の日本
		12週	戦後の国際関係（12）	戦後の日本
		13週	戦後の国際関係（13）	戦後の日本
		14週	戦後の国際関係（14）	戦後の日本
		15週	戦後の国際経済（15）	戦後の日本
		16週	学年末試験	学年末試験 答案返却と解説

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	課題	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	50	0	0	0	30	0	80
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語C（M）

科目基礎情報

科目番号	1951003	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	南雲堂　「Our World Today」　Adam MURRAY　Anderson PASSONS		
担当教員	前田 弘隆		

到達目標

(1) 実際の会話場面のスピードに慣れ、聞き取り能力を鍛える。
(2) 出来るだけ短時間で英文を読み、内容を把握することに慣れる。
(3) 肉声による発信と受信を体験し、英語によるコミュニケーション力を身につける。

"

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	実際の会話場面のスピードに聞き取りが対応でき主旨を把握し、正確な情報が引き出せるようになる	実際の会話場面のスピードに慣れ、主旨が把握できるようになる	実際の会話場面のスピードに慣れず、主旨が把握できない
評価項目2	出来るだけ短時間で英文が読め、内容を把握し、正確な情報を引き出すことができる	ある程度の速さで英文が読め、主旨が把握できる	ある程度の速さで英文が読めず、内容が把握できない
評価項目3	現実の発話場面に身を置き、外国人の発話の聞き取りができ、必要情報を盛り込んだメッセージが返せるようになる	現実の発話場面に身を置き外国人の発話の聞き取りがある程度でき、何とか返信ができるようになる	肉声による英文メッセージが聞き取れず、返信できない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1) TOEICテストに準じた問題を解きながら、聞き取り理解と速読理解の訓練をする。 (2) 外国人講師による会話の授業を通じ、英語の発信力を磨く。 (3)発信力の実際として、英作文の練習も行う。
授業の進め方・方法	日本人による授業：TOEIC対応の授業と、自由作文の練習による発信作文の授業　と、外国人教師による会話の授業の二本立てである。
注意点	(1) 学修単位科目である意味をよく理解し、計画的な自学時間を確保すること。 (2) 授業の前半と後半で担当者が交代する。 (3) Khaked LAOUBI先生の授業は、自主教材が配付される。 (4)TOEIC対応の授業では教科書を用いるが、それ以外の内容については、教員自作のプリントを使用するので、教材管理に注意すること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1 ガイダンス　日常生活　可算・不可算名詞の復習　ファッション　代名詞の復習　食料品の買い出し　動詞活用の復習	シラバス確認、評価方法についての説明。可算・不可算名詞の区別と文中での取り扱いの違いを理解する。代名詞が正しく使える。動詞活用が正しくできる。ファッション用語・ショッピング場面での表現を身につける。
		2週	同上	同上
		3週	同上	同上
		4週	同上	同上
		5週	同上	同上
		6週	同上	同上
		7週	前期中間試験	
		8週	答案返却と解説	

	2ndQ	9週	2 料理　自動詞・他動詞　外食　不完全動詞・完全動詞　５文型　助動詞　ハウジング・家具　前置詞	自動詞・他動詞の違いと使い分けが正しくできる。文型の違いが正しく理解でき、それをもとに正しい文が作れる。助動詞の用法が正しく理解でき、必要に応じて正しく使い分けられる。　場所を表す前置詞が正しく選択できる。料理や家具等の語彙を身につける。
		10週	同上	同上
		11週	同上	同上
		12週	同上	同上
		13週	同上	同上
		14週	作文演習	適切な日本語への言いかえ練習
		15週	前期末試験	
		16週	答案返却と解説	
後期	3rdQ	1週	3 天気　前置詞　映画芝居　形容詞・副詞　スポーツ　現在進行形　交通・通勤　現在完了	時を表す前置詞が正しく選択できる。形容詞と福祉、その比較変化が正しくできる。現在形と現在完了形との違いが理解でき、使い分けられ、正しい文を作ることができる。現在形と過去形に対して現在完了形が持つ価値が理解でき、正しい場面で現在完了の文を作ることができる。天候表現やスポーツ用語、疼痛関連の用語を身につける。
		2週	同上	同上
		3週	同上	同上
		4週	同上	同上
		5週	同上	同上
		6週	作文演習	適切な日本語への言いかえ練習
		7週	後期中間試験	
		8週	答案返却と解説	
	4thQ	9週	4 車　過去形　銀行　未來時制　宿泊　接続詞　健康・医療　関係代名詞	動詞の活用と過去表現が正しく理解できる。未来表現と動詞の形が正しく連携できる。正しい接続詞が選択できる。場面に応じた用語を身につける。
		10週	同上	同上
		11週	同上	同上
		12週	同上	同上
		13週	同上	同上
		14週	作文演習	適切な日本語への言いかえ練習
		15週	学年末試験	
		16週	答案返却と解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	10	0	30	100
基礎的能力	60	0	0	10	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語C（C）

科目基礎情報

科目番号	1951004	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材			
担当教員	朝倉 和		

到達目標

(1)日本語を適切に理解及び運用することができる。
(2)上記(1)を基に，日本語を適切な英語で，英語を適切な日本語で捉えることができる。
(3)異文化理解の姿勢を持ち，その第一歩として適切な語彙力を獲得する。
(4)日本語と英語の両言語を一対一の対連合関係ではなく，両言語の表現及び表す意味の違いを有機的に捉えることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	日本語を適切に理解及び運用することができる。	日本語の語感や意味を説明できる。	日本語の語感や意味を言語化できない。
評価項目2	上記(1)を基に，日本語を適切な英語で，英語を適切な日本語で捉えることができる。	自分の言葉で両言語の異同を言語化することができる。	教員によるサポートがあっても両言語の異同を言語化できない。
評価項目3	異文化理解の姿勢を持ち，その第一歩として適切な語彙力を有する。	授業で紹介された語彙・表現に関しては全て理解し運用もできる。	授業で紹介された語彙・表現の理解及び運用ができない。
評価項目4	日本語と英語の両言語を一対一の対連合関係ではなく，両言語の表現及び表す意味の違いを有機的に捉えることができる。	両言語における言語形式及び文型の使用方法を理解している。	両言語における言語形式及び文型の使用方法を理解できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	1. 語彙力，聴解力，口頭産出能力を育むことに主眼を置き，必要に応じて講義も織り交ぜながら，英語を運用する練習を行う。 2. 単元のまとまりごとに小テストを行い，その累積点数を中間テストに相当するものとして成績評価に当てる。 3. 英語と日本語のリズムの違いに触れながら，英語を聞き取る/発音する練習をペアワークやグループワークを中心に行う。 4. 英語と日本語の語順の違いに触れながら，自分で意思疎通を図るために最低限必要な文法の力を養う。 5. 聞き取りができない場合に適切に意味交渉する術も扱う。航海実習に備え積極的に取り組むこと。 6. 各単元開始前までにノートに本文を書き写しておくこと。体裁は問わないので，自分の分かりやすい方法でやること。
授業の進め方・方法	1. スマートフォンのアプリケーションを用い，プロソディシャドーイングを行う。履修生には使用するアプリケーションのダウンロード及びイヤフォンの準備を授業開始時に指示する。 2. 英語がどのような音で自分の耳に届くか，自分の発音が外国人にどのように聞こえているのか，なぜ聞き取りが難しいのかを体験的に学べるよう，授業では積極的に英語を用いて履修生に問いかける形式を目指す。よって，教員からの問いかけに対して何かしらの意思表示を英語ですることが求められる。 3. 授業の進行と並行して，履修生には自らの学習計画の立案を課題として課す。授業開始日から一週間以内に作成し，提出すること。また，学習計画は各自の進度に合わせて定期的にアップデートしていくこと。これに関しては授業開始時に詳しく指示する。
注意点	1. 運用能力の向上を目指した授業であるため，積極的な参加が単位修得の必須要件である。 2. 不明な点がある場合は積極的に質問すること。 3. 自分で考え，教員からの問いかけに対して自分の言葉で考えを言語化する姿勢を持ってほしい。 4. 現実場面を想定し，学生の現時点の英語力よりも難易度を多少高めに設定してあるため，自律的且つ積極的な授業態度が強く求められる授業であることを強調しておく。ただし，難易度は努力と積極性によって乗り越えられる程度であることも合わせて申し添える。 5. 成績評価あるいは授業そのものに関して不服申し立てを希望する場合，前述の通り授業への自律的且つ積極的参加がこの授業における学生の義務であり，この義務遂行が認められない学生に関しては，これを受け付けない。よって，授業が進むにつれ，授業内容の改善及び改変の要求を希望する学生は，自身の日々の態度に関して十分に内省すること。 6. できるだけ授業時間内ですべての学生への対応を目指すが，これが実現できない時限があった場合，希望する学生には何らかの形で必ずフィードバックを与えることを約束する。 7. 課題の提出に関して，ネット，Wi-Fi，印刷機，印刷用紙不足，インク切れなど，その他事前に想定可能な問題によって提出物の期限が過ぎることは理由として認めない。よって，課題の提出の際には，メールでの提出でも紙媒体での提出でも，必ず期日に間に合うように提出すること。その際，指定の様式を厳守すること。 8. 成績評価欄に明示してあるとおり，授業中の取り組みは成績評価の30%を占める。一回の授業時間を大切にする姿勢で取り組むことを奨励する。 9. 授業中のスマートフォンの使用は，教員から指示がない限り認めない。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション ・英語学習のいろは1 ・メールアドレスの登録 ・アプリのダウンロード	シラバスを参照しながら授業進行上の注意点，成績評価などに関して理解する。単語の覚え方，発音の仕方，聞き取りの練習方法を紹介する。また，外国語学習の進め方やコツ，どのような人が上達するか，上達のコツなど，第二言語習得研究からの知見を紹介する。これを承けて学習計画課題に取り組むこと。
		2週	#2 CDショップでの会話①	ここから第4週目まで「CDショップでの会話」を授業で扱う。予習として，本文をノートに書き写しておくこと。①では重要事項の確認，本文の大意要約をメインに行う。
		3週	#2 CDショップでの会話② ・学習計画提出締め切り	②では主に聞き取りをメインに行う。練習方法としてリピーティングとシャドーイングを取り入れ，練習方法に慣れていくことを目指す。
		4週	#2 CDショップでの会話③	③では，主に発音の練習をピアラーニング形式で実施する。受講生の積極性と自律性が求められるため，そのつもりで参加してほしい。

		5週	・第一回小テスト ・「How are you?」にどう答えるか（hapa英会話#19） ・「How was your weekend?」にどう答えるか（hapa英会話#25）	#2を範囲として小テストを実施する。問題は単語，本文の意味の理解を問う問題，担当教員及びクラスメート同士の英語での会話。時間的余裕があればYouTubeを教材として紹介する。
		6週	#1 レストランでの注文①	ここから第8週目まで「レストランでの注文」を授業で扱う。予習として，本文をノートに書き写しておくこと。①では重要事項の確認，本文の大意要約をメインに行う。
		7週	# 1レストランでの注文② ・学習計画修正締め切り	②では主に聞き取りをメインに行う。練習方法としてリピーティングとシャドーイングを取り入れ，練習方法に慣れていくことを目指す。
		8週	#1 レストランでの注文③	③では，主に発音の練習をピアラーニング形式で実施する。受講生の積極性と自律性が求められるため，そのつもりで参加してほしい。
	2ndQ	9週	時間合わせ/復習 ・英語学習のいろは2 ・「とりあえず」や「ひとまず」を英語にすると？（hapa英会話#43）	ここまでの学習を振り返る復習の時間を設ける。受講生は何ができるようになったか，どのようなことが課題として挙げられるか，各自説明できるように準備しておくこと。時間的余裕があればYouTubeを教材として紹介する。
		10週	第二回小テスト ・「今何時ですか」は英語で？（hapa英会話#45） ・「Do you」と「Did you」のニュアンス（hapa英会話#57）	#1と#2を範囲として小テストを実施する。問題は単語，本文の意味の理解を問う問題，担当教員及びクラスメート同士の英語での会話。時間的余裕があればYouTubeを教材として紹介する。
		11週	#3 インタビュー（NHKキャサリンさん前半）①	ここから第13週目まで「インタビュー（NHKキャサリンさん）」を授業で扱う。予習として，本文をノートに書き写しておくこと。なお，ここから分量が少し多くなるため，早めに取り組むこと。①では重要事項の確認，本文の大意要約をメインに行う。
		12週	#3 インタビュー（NHKキャサリンさん前半）②	②では主に聞き取りをメインに行う。練習方法としてリピーティングとシャドーイングを取り入れ，練習方法に慣れていくことを目指す。
		13週	#3 インタビュー（NHKキャサリンさん前半）③	③では，主に発音の練習をピアラーニング形式で実施する。受講生の積極性と自律性が求められるため，そのつもりで参加してほしい。また，学習計画の中間報告を各自メールにて行うこと。
		14週	#3 インタビュー（NHKキャサリンさん前半）③	この単元は分量の都合上，各時限で適宜進度を調整する。
		15週	時間合わせ/復習 ・学習計画中間報告１	
		16週	時間合わせ/復習 ・テスト直し，自習時間等に当てる	
後期	3rdQ	1週	#4インタビュー（キャサリンさん後半）①	ここから第4週目まで「インタビュー（NHKキャサリンさん）」を授業で扱う。予習として，本文をノートに書き写しておくこと。なお，ここから分量が少し多くなるため，早めに取り組むこと。①では重要事項の確認，本文の大意要約をメインに行う。
		2週	#4インタビュー（キャサリンさん後半）②	②では主に聞き取りをメインに行う。練習方法としてリピーティングとシャドーイングを取り入れ，練習方法に慣れていくことを目指す。
		3週	#4インタビュー（キャサリンさん後半）③	③では，主に発音の練習をピアラーニング形式で実施する。受講生の積極性と自律性が求められるため，そのつもりで参加してほしい。また，学習計画の中間報告を各自メールにて行うこと。
		4週	#4インタビュー（キャサリンさん後半）④	この単元は分量の都合上，各時限で適宜進度を調整する。
		5週	・第三回小テスト ・「遅刻しそうです」は英語で？（hapa英会話#62） ・アメリカに住んで思うことPart 1（hapa英会話#77）	#4（前半・後半両方）を範囲として小テストを実施する。問題は単語，本文の意味の理解を問う問題，担当教員及びクラスメート同士の英語での会話。時間的余裕があればYouTubeを教材として紹介する。
		6週	#5ホテルでのトラブル①	ここから第3週目まで「ホテルでのトラブル」を授業で扱う。予習として，本文をノートに書き写しておくこと。①では重要事項の確認，本文の大意要約をメインに行う。
		7週	#5ホテルでのトラブル②	②では主に聞き取りをメインに行う。練習方法としてリピーティングとシャドーイングを取り入れ，練習方法に慣れていくことを目指す。
		8週	#5ホテルでのトラブル③	③では，主に発音の練習をピアラーニング形式で実施する。受講生の積極性と自律性が求められるため，そのつもりで参加してほしい。
	4thQ	9週	#5ホテルでのトラブル④ ・学習計画中間報告２	④では受講生同士のロールプレイ，英語での会話をより増やすことにより，実践力を高めることを目的とするため，前期にはなかった④を設定する。
		10週	・第四回小テスト ・誤解する「You」の使い方（hapa英会話#236） ・「めんどくさい」は英語で？（hapa英会話#190）	#5を範囲として小テストを実施する。問題は単語，本文の意味の理解を問う問題，担当教員及びクラスメート同士の英語での会話。時間的余裕があればYouTubeを教材として紹介する。
		11週	#6電話で修理の依頼①	ここから第14週目まで「電話で修理の依頼」を授業で扱う。予習として，本文をノートに書き写しておくこと。①では重要事項の確認，本文の大意要約をメインに行う。
		12週	#6電話で修理の依頼②	②では主に聞き取りをメインに行う。練習方法としてリピーティングとシャドーイングを取り入れ，練習方法に慣れていくことを目指す。

		13週	#6電話で修理の依頼③	③では，主に発音の練習をピアラーニング形式で実施する。受講生の積極性と自律性が求められるため，そのつもりで参加してほしい。
		14週	#6電話で修理の依頼④	④では受講生同士のロールプレイ，英語での会話をより増やすことにより，実践力を高めることを目的とするため，前期にはなかった④を設定する。
		15週	時間合わせ/復習 ・学習計画課題報告書提出	
		16週	時間合わせ/復習 ・テスト直し，自習時間等に当てる	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	30	20	0	100
基礎的能力	50	0	0	30	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	英語C（D）

科目基礎情報

科目番号	1951005	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	Totally TOEIC L&R Test: Challenge400 南雲堂　・　英和/和英辞書		
担当教員	朝倉 和		

到達目標

これまでの学習経験から個人差があると思われるので授業展開を工夫して、
不得意な生徒には英語アレルギーをなくせるよう、また得意な生徒には
さらに英語力を伸ばし、社会に出ても通用する役に立つ英語力をつける。
高専での英語学習の集大成として、４技能総合的な英語力を養成することを目標とする。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1　Listening　（聴解）	教科書レベル(TOEIC PartⅡ)の問題を疑問詞、主語を特定してほぼ完全に解答できる	教科書レベル(TOEIC PartⅡ)の問題を70%以上解答できる	教科書レベル(TOEIC PartⅡ)の問題をほとんど解答できない
評価項目2　Grammar　（文法）	教科書レベル(TOEIC PartⅤ)の問題をほぼ完全に解答できる	教科書レベル(TOEIC PartⅤ)の問題を70%以上解答できる	教科書レベル(TOEIC PartⅤ)の問題をほとんど解答できない
評価項目3　Reading　（読解）	教科書レベル(TOEIC PartⅥ,Ⅶ)の問題をほぼ完全に解答できる	教科書レベル(TOEIC PartⅥ、Ⅶ)の問題を70%以上解答できる	教科書レベル(TOEIC PartⅥ、Ⅶ)の問題をほとんど解答できない
評価項目4　Speaking　（会話）	流暢に英語で日常会話ができる（英検2級レベル）	英語で簡単な日常会話がゆっくりでもできる	ほとんど英語で会話できない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	・4年生までに学習してきた語句、文法事項の復習し、それらの理解をさらに深めるとともに実際に使えるようにする。 ・『聞く』『読む』を中心にした教科書だが、『話す』『書く』も交えて4技能の英語力を伸ばす。 ・毎回のリスニングを通しナチュラルスピードに耳を慣らし聞き取り能力を鍛える。 ・前半ユニットは日常生活に関するトピック、後半はビジネスに関するトピックを扱い興味をもって学べるようにする。 ・随時、就職試験に役立つ内容も授業に取り入れる。
授業の進め方・方法	・教科書を中心に授業展開をする。限られた時間で問題を解いては生徒に答えてもらう。（随時解説を加える） ・定期的に教科書提出を求めて理解度をチェックする。 ・予習の必要はないが、定着をはかるために復習はしてもらう。 ・学期末試験以外にTOEICミニテストを演習形式でおこなう。 ・授業中はなるべく英語で質疑応答するようにする。
注意点	・教科書は必ず毎回用意すること。（教科書忘れは減点対象とする） ・教科書以外にもプリント教材を使用するので教材管理に注意すること。（ファイルすることが望ましい） ・学習内容についてわからないことがあれば積極的に質問すること。 ・各時間に指示する復習は履行すること。 ・積極的な授業参加を評価する。 ・授業中の私語、携帯（スマホ）、ゲーム、読書、居眠りは減点対象とする。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション・自己紹介 英語実力テスト	概要説明 現状把握と目標設定
		2週	Unit1 Traffic 省略した発音の聞き取り 現在時制の復習	省略した発音に気づく 現在時制の動詞を正確に選ぶことができる 語彙力アップ
		3週	Unit2　Weather & Event 音の連結 過去時制の復習	音の連結に気づく 過去時制の動詞の復習、正確に発音できる 語彙力アップ
		4週	Unit2　Weather & Event 音の連結 過去時制の復習	音の連結が聞き取れる 過去時制の動詞の復習、正確に発音できる 語彙力アップ
		5週	Unit3 Lunchtime 音の脱落 進行形・完了形	音の脱落に気づく 進行形・完了形の動詞を理解できる 語彙力アップ
		6週	Unit3 Lunchtime 音の脱落[1] 進行形・完了形	音の脱落が聞き取れる 進行形・完了形の動詞を正確に選ぶことができる / 語彙力アップ
		7週	Unit4 Hotels 音の同化 冠詞・代名詞	音の同化に気づく 冠詞・代名詞について理解できる 語彙力アップ
		8週	Unit4 Hotels 音の同化 冠詞・代名詞	音の同化が聞き取れる 冠詞・代名詞を正確に選ぶことができる 語彙力アップ
	2ndQ	9週	Unit5 Health 音の脱落[2] 名詞	脱落した音に気づく 加算、不可算名詞を理解できる 語彙力アップ
		10週	Unit5 Health 音の脱落[2] 名詞	脱落した音が聞き取れる 可算、不可算名詞を正確に選ぶことができる / 語彙力アップ
		11週	Unit6 A New Life 短縮形 形容詞・副詞の用法	短縮形に気づく 形容詞・副詞の使い方を理解できる 語彙力アップ

		12週	Unit6 A New Life 短縮形 形容詞・副詞の用法	短縮形が聞き取れる 形容詞・副詞を正確に選ぶことができる 語彙力アップ
		13週	Unit7 Mini Test	これまでの取り組みの成果を感じる。
		14週	Unit8 Job Hunting 音の脱落[3] 比較級	脱落した音に気づく 比較級の復習、理解 語彙力アップ
		15週	前期期末試験	Unit1～Unit7の定着確認 TOEIC予想問題が解ける
		16週	前期期末試験　答案返却と解説	解答を説明し学習内容を確認する
後期	3rdQ	1週	Unit8 Job Hunting 音の脱落[3] 比較級	脱落した音が聞き取れる 比較級を正確に選ぶことができ活用できる 語彙力アップ
		2週	Unit9 Workplaces & Products 動詞[ed]の発音 不定詞・動名詞	動詞[ed]の発音の違いに気づく 不定詞・動名詞の理解 語彙力アップ
		3週	Unit9 Workplaces & Products 動詞[ed]の発音 不定詞・動名詞 / 略語の紹介	動詞[ed]を自分でも正確に発音できる 不定詞・動名詞を正確に選ぶことができる 語彙力アップ
		4週	Unit10 Customer Service & Office Crime 音の有声化　/　受動態	有声化した音に気づく 受動態の文を理解できる 語彙力アップ
		5週	Unit10 Customer Service & Office Crime 音の有声化　/　受動態	有声化した音が聞き取れる 受動態を使いこなせ正解にたどりつける 語彙力アップ
		6週	Unit11 Office Messages 音の脱落[4] 使役動詞	脱落した音に気づく 使役動詞の理解ができる 語彙力アップ
		7週	Unit11 Office Messages 音の脱落[4] 知覚動詞	脱落した音が聞き取れる 使役動詞の理解、正確に使うことができる 語彙力アップ
		8週	Unit12 Ordering & shipping 音の弱化 関係代名詞	弱化した音に気づく 関係詞の使い方を理解する 語彙力アップ
	4thQ	9週	Unit12 Ordering & shipping 音の弱化 関係副詞	弱化した音が聞き取れる 関係詞を含む練習問題が解ける 語彙力アップ
		10週	Unit13 Business Trips 音の消失 接続詞・前置詞	消失した音に気づいく 接続詞・前置詞について理解できる 語彙力アップ
		11週	Unit13 Business Trips 音の消失 接続詞・前置詞	消失した音が分かり単語を理解できる 接続詞・前置詞を正確に選ぶことができる 語彙力アップ
		12週	Unit14 Success in Business アメリカ英語とイギリス英語 仮定法	アメリカ英語とイギリス英語の違いに気づく 仮定法の理解 / 語彙力アップ
		13週	Unit14 Success in Business アメリカ英語とイギリス英語 仮定法	アメリカ英語とイギリス英語を聞きわけることができる 仮定法を含む文の問題が解ける 語彙力アップ
		14週	Unit15 Mini Test	模擬試験を行い自己採点、解説から弱点を把握する。 これまでの取り組みの成果を感じる。
		15週	学年末試験	Unit8～Unit14の定着確認 TOEIC予想問題が解ける
		16週	学年末試験　答案返却・解説	解答を説明し学習内容を確認する

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	30	20	30	0	20	200
基礎的能力	50	10	10	10	0	20	100
専門的能力	50	20	10	20	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	体育（M）

科目基礎情報

科目番号	1951006	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	最新高等保健体育		
担当教員	柴山 慧		

到達目標

1 自分や周囲の心身の健康・安全について理解し、適切な行動をとる。
2 ひとりひとりが主体的になって、授業におけるルールを意識し実行できる。
3 硬式テニスでは基本的な技能を身につける。
4 クリエイティブスポーツ実習では自主的に自分たちでスポーツを楽しむことができる。
5 健康スポーツカルチャー実習では、健康やスポーツにかかわるさまざまな分野について理解する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて、自主的に率先して理解や判断のもと適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解し適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解して適切な行動ができない。
評価項目2	率先して主体的に授業におけるルールを意識し実行できる。	指示があった授業におけるルールを意識し実行できる。	指示があった授業におけるルールを意識し実行できない。
評価項目3	硬式テニスに必要な技能を習得しているだけでなく、その技術を周囲に対して教授することができる。	硬式テニスに必要な技能を習得している。	硬式テニスに必要な技能を習得していない。
評価項目4	主体的に率先して授業の準備を計画し、状況を観察しながら実行することができる。	主体的に率先して授業の準備を計画し実行することができる。	主体的に率先して授業の準備を計画し実行することができない。
評価項目5	健康やスポーツにかかわる様々な分野について、周囲と一緒に積極的に学習できる。	健康やスポーツにかかわる様々な分野について、積極的に学習できる。	健康やスポーツにかかわる様々な分野について、積極的に学習できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1)体育の学習を通じて、運動やスポーツをすることの楽しさを体験し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する心身を醸成する。 (2)(1)のために必要な豊かな心、生きる力および規範意識の重要性について理解しながら、主体的、計画的に自身の健康と体力向上を考えて実行できる授業を展開する。
授業の進め方・方法	通常の授業はグラウンドや体育館などの体育施設で実技を行なう。準備運動やストレッチング、トレーニングを実施し、個人の体力や技能の向上を図るとともに、ゲーム中での技術や判断、戦術理解などの総合的な能力を体得する。天候や施設などの状況により、シラバスどおりには実施できない場合がある。
注意点	(1) 授業時の服装は、ジャージ等の運動ができるものとする。 (2) 安全への配慮を考慮して、当然のことながら装飾品を外し、爪を切るなど自己安全管理を求める。 (3) シラバスの項目・内容を確認して、ルール等を事前に予習しておく。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション、からだつくり運動	からだつくり運動の意義や必要性について理解している
		2週	体力テスト	体力テストの意義や必要性について理解している
		3週	体力テスト	体力テストの各調査項目について適切な実施方法を実行している
		4週	クリエイティブスポーツ実習（屋外）	スポーツ活動に必要な準備や計画について理解している
		5週	クリエイティブスポーツ実習（屋外）	スポーツ活動をするうえで、意識すべき観点を理解したうえで実行している
		6週	クリエイティブスポーツ実習（屋外）	
		7週	クリエイティブスポーツ実習（屋外）	
		8週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	
	2ndQ	9週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	
		10週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	
		11週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	
		12週	健康スポーツカルチャー実習	スポーツにかかわる様々な分野について学習できる。
		13週	健康スポーツカルチャー実習	
		14週	健康スポーツカルチャー実習	
		15週	健康スポーツカルチャー実習	
		16週		
後期	3rdQ	1週	硬式テニス＆選択スポーツ	硬式テニスの基本用語やルールについて理解している
		2週	硬式テニス＆選択スポーツ	硬式テニスでラリーを続けるのに必要な技能を習得している
		3週	硬式テニス＆選択スポーツ	スポーツを自分たちで楽しむために必要な技能を習得している
		4週	硬式テニス＆選択スポーツ	ペアでラリーが20回できるようになる

		5週	クラスマッチの練習（屋内）	
		6週	クラスマッチの練習（屋外）	
		7週	硬式テニス＆選択スポーツ	硬式テニスのゲーム中にスマッシュ、ボレーなど適切なプレーを選択している
		8週	硬式テニス＆選択スポーツ	硬式テニスのゲームを自分たちで運営できる
	4thQ	9週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	スポーツ活動に必要な準備や計画について理解している
		10週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	スポーツ活動をするうえで、意識すべき観点を理解したうえで実行している
		11週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	
		12週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	
		13週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	
		14週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	
		15週	クリエイティブスポーツ実習（屋内）	
		16週		

評価割合

	試験	レポート課題	発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	20	0	50	0	30	100
体育	0	20	0	50	0	30	100
	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	体育（C・D)

科目基礎情報

科目番号	1951007	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教科	対象学年	5
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	最新高等保健体育		
担当教員	柴山 慧,橋本 真		

到達目標

1 自分や周囲の心身の健康・安全について理解し、適切な行動をとる。
2 ひとりひとりが主体的になって、授業におけるルールを意識し実行できる。
3 クリエイティブスポーツ実習では自主的に自分たちでスポーツを楽しむことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールにうついてについて、自主的に率先して理解や判断のもと適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解し適切な行動ができる。	指示があった自分や周囲の心身の健康・安全、授業のルールについて理解して適切な行動ができない。
評価項目2	率先して主体的に授業におけるルールを意識し実行できる。	指示があった授業におけるルールを意識し実行できる。	指示があった授業におけるルールを意識し実行できない。
評価項目3	主体的に率先して授業の準備を計画し、状況を観察しながら実行することができる。	主体的に率先して授業の準備を計画し実行することができる。	主体的に率先して授業の準備を計画し実行することができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1)体育の学習を通じて、運動やスポーツをすることの楽しさを体験し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する心身を醸成する。 (2)(1)のために必要な豊かな心、生きる力および規範意識の重要性について理解しながら、主体的、計画的に自身の健康と体力向上を考えて実行できる授業を展開する。
授業の進め方・方法	通常の授業はグラウンドや体育館などの体育施設で実技を行なう。準備運動やストレッチング、トレーニングを実施し、個人の体力や技能の向上を図るとともに、ゲーム中での技術や判断、戦術理解などの総合的な能力を体得する。天候や施設などの状況により、シラバスどおりには実施できない場合がある。
注意点	(1) 授業時の服装は、ジャージ等の運動ができるものとする。 (2) 安全への配慮を考慮して、当然のことながら装飾品を外し、爪を切るなど自己安全管理を求める。 (3) シラバスの項目・内容を確認して、ルール等を事前に予習しておく。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション	
		2週	クリエイティブスポーツ実習（屋外種目）	スポーツ活動に必要な準備や計画について理解している
		3週	クリエイティブスポーツ実習（屋外種目）	スポーツ活動をするうえで、意識すべき観点を理解したうえで実行している
		4週	クリエイティブスポーツ実習（屋外種目）	
		5週	クリエイティブスポーツ実習（屋外種目）	
		6週	クリエイティブスポーツ実習（屋外種目）	
		7週	クリエイティブスポーツ実習（屋外種目）	
		8週	クリエイティブスポーツ実習（屋内種目）	スポーツ活動に必要な準備や計画について理解している
	4thQ	9週	クリエイティブスポーツ実習（屋内種目）	スポーツ活動をするうえで、意識すべき観点を理解したうえで実行している
		10週	クリエイティブスポーツ実習（屋内種目）	
		11週	クリエイティブスポーツ実習（屋内種目）	
		12週	クリエイティブスポーツ実習（屋内種目）	
		13週	クリエイティブスポーツ実習（屋内種目）	
		14週	クリエイティブスポーツ実習（屋内種目）	
		15週	クリエイティブスポーツ実習（屋内種目）	
		16週		

評価割合

	試験	レポート課題	発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	20	0	50	0	30	100
体育	0	20	0	50	0	30	100
	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	中国語

科目基礎情報

科目番号	1951008	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	教科書：『四コマ漫画で学ぶ中国語』（朝日出版）辞書：『プログレッシブ　トライリンガル　中日英、日中辞典』（小学館）/『はじめての中国語学習辞典』（朝日出版社）		
担当教員	雷 康斌,朝倉 和		

到達目標

(1) 文字で書かれている中国語の文の７０%以上を理解できる。
(2) 発音記号であるピンインと声調について80%以上を発音できる。
(3) 中国語で挨拶程度の簡単な会話ができる。
(4) 中国語の単語を400語位覚える。
(5) 教科書を正確に音読できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1：発音	教科書の文章をピンイン通り正確に発音できる。	ピンインと声調が正確に読める。（80%以上）	ピンインと声調を正確に読めない。（50%以下）
評価項目2：音読	教科書の会話文を正確に流暢に読め、さらに暗唱に挑戦できる。	教科書の会話文をピンインを通りに正確に読むことができる。	教科書の会話文を一人で読むことができない。
評価項目3：聴解	教科書レベルの中国語や簡単な日常会話を聞き取れる。	教科書の対話文を聞いて理解できる。	教科書の対話文を聞いて理解できない。
評価項目4：作文	既習の中国語を正確に書くことができる。	教科書の練習問題（作文）が一人でできる。	教科書の練習問題（作文）ができない。
評価項目5：読解	教科書レベルの中国語やその他の簡単な読み物を理解できる。	教科書レベルの会話文を理解できる。	教科書の文を訳すことができない。中国語の単語を覚えていない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1) 第二の外国語を身につけることにより、ますます多様化する国際社会に対応できるより広い視野と素養を形成することを目指す。 (2) 英語の学習で培ってきた語学力を発展させる形で中国語の基礎を習得し、中国語で書かれた文章を理解する力や、中国語によるコミュニケーションの基礎を養う。 (3) 中国の社会、文化に対する理解を深める。
授業の進め方・方法	
注意点	(1) 授業中の私語、携帯（スマートホン）、ゲーム、漫画、居眠り等は減点対象とする。 (2) 配布プリントや教科書と一緒に辞書を持参する。 (3) 各時間ごとに指示する復習は履行する。 (4) 書く作業を怠らないために随時ノートまたは教科書の提出を求める。 (5) 積極的な授業参加を評価する。 (6) 授業内容でわからなことは積極的に質問する。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	第１課	声調符号およびピンインを正確に読むことができる。
		2週	第２課	声調符号およびピンインを正確に読むことができる。
		3週	第３課	自分の名前を中国語読みできるようになる。
		4週	第４課	中国語で数字を覚えて正確に発音できる。発音練習を繰り返し、声調変化にも慣れる。
		5週	第５課	地名や料理を中国語で発音できるようになる。声調を聞き取れるようになる。
		6週	前期中間試験 答案返却・解説	
		7週	前期中間試験 答案返却・解説	
		8週	第６課	曜日の言い方を覚える。
	2ndQ	9週	第７課	形容詞述語文、動詞述語文を理解する。
		10週	第８課	中国語の『こ,そ,あ,ど言葉』を理解する。
		11週	第９課	場所の聞き方、重さ,長さの言い方を覚える。
		12週	第１０課	助動詞『想』『要』の使い方。省略疑問文の使い方を理解する。
		13週	第１１課	SVOOの文が理解できる。お金の言い方を覚える。
		14週	第１２課	選択疑問文、反復疑問文に慣れる。形容詞の使い方を覚える。
		15週	前期末試験 答案返却・解説	
		16週	前期末試験 答案返却・解説	
後期	3rdQ	1週	第１３課	年月日、曜日の言い方をマスターする。
		2週	第１４課	助動詞 （会，能，可以）の用法を理解する。
		3週	第１５課	有，在の用法を理解する。

		4週	第１６課	日常的な挨拶言葉を覚える。完了形の用法を理解する。
		5週	第１７課	助動詞『』を使いこなせる。
		6週	第１８課	結果補語、様態補語、方向補語、可能補語の用法を覚える。
		7週	後期中間試験 答案返却・解説	
		8週	後期中間試験 答案返却・解説	
	4thQ	9週	第１９課	現在進行形で表現できるようになる。
		10週	第２０課	語気助詞（啊，吧，呢）を理解する。
		11週	第２１課	動詞の重ね型を理解する。強調構文が使えるようになる。
		12週	第２２課	使役表現を理解する。同格文や比較の表現を理解する。
		13週	第２３課	主述述語文を正確に訳せる。
		14週	第２４課	経験を表す表現法を理解する
		15週	学年末試験 答案返却・解説	
		16週	学年末試験 答案返却・解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	0	10	0	10	100
基礎的能力	60	20	0	10	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	独語

科目基礎情報

科目番号	1951009	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	上野 成利 他　『初級ドイツ語ゼミナール[三訂版]』（白水社）、独和辞典（何でも良い）		
担当教員	桑田 明広		

到達目標

(1)書かれているドイツ語を発音することができる。
(2)アルファベットや数字、詩歌などの課題を５つ暗誦する。
(3)動詞の変化を理解する。
(4)名詞類の変化を理解する。
(5)ドイツ語の語順を英語との比較で理解する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1 ドイツ語を音読する	教科書を参考にしないでドイツ語の文を読むことができる。	教科書を参考にしながらドイツ語の文を読むことができる。	一つずつ教科書で確認しながらドイツ語の文を読む。
評価項目2 課題を暗誦する	課題を全て暗誦することができる。	課題のうち３つを暗誦することができる。	暗誦の課題が二つ以下しかできない。
評価項目3 動詞の変化を理解する	動詞の形を一覧表を見ずに確定できる。	一覧表を見ながら動詞の形を確定できる。	動詞の変化を理解していない。
評価項目4 名詞類の変化を理解する	一覧表を見ずに正しく名詞類の形を決めることができる。	一覧表を見ながら名詞類の形を決めることができる。	名詞類の変化をりかいしていない。
評価項目5 語順を理解する	プリントを見ずに正しい語順に並べることができる。	プリントを見ながら正しい語順に並べることができる。	語順を理解していない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	二つめの外国語を知ることにより、多様化する国際社会に対応できる広い視野と素養を形成することを目指す。英語の学習で培ってきた語学力を発展させる 形でドイツ語の基礎を習得し、ドイツ語で書かれた文章を理解する力や、ドイツ語による基礎的なコミュニケーションの力を養い、併せてドイツ語圏の文化に 対する理解を深める。
授業の進め方・方法	教科書とプリントで文法項目を学習する。 併せて視聴覚教材で生のドイツ語に触れ、またドイツ文化を理解する。
注意点	(1)英語と比較しながら、ドイツ語の習得に努めること。 (2)学修単位であるから、毎時間ごとに課題を課し、また次の週に小テストを実施する。 (3)文化や言語に関する教材も授業内容であり、定期試験の範囲に含める。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1. 概説 2. ドイツ語の読み方	系統論に於けるドイツ語と英語との関係を理解する。 教科書を参考にしないでドイツ語の文を読むことができる。
		2週	3. ドイツ語動詞の活用	一覧表等を見ずにドイツ語動詞の活用を確定できる。
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週	前期中間試験 答案返却と解説	
	2ndQ	9週	4. 名詞類の変化	教科書等を見ずにドイツ語の名詞類を適切に変形できる。
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週	前期末試験 答案返却と解説	
後期	3rdQ	1週	5. ドイツ語の語順	プリント等を見ずに正しい語順に並べることができる。
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		

		7週		
		8週	後期中間試験 答案返却と解説	
	4thQ	9週	6. ドイツ文化の紹介	ドイツ文化の基礎知識や言語学的素養を理解する。
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週	"学年末試験 答案返却・解説"	

評価割合

	試験	小テスト	レポート課題				合計
総合評価割合	60	20	20	0	0	0	100
基礎的能力	60	20	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

広島商船高等専門学校	開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	仏語

科目基礎情報

科目番号	1951010	科目区分	一般 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	一般教科	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	第三書房　「初めてのフランス語　Tome Un 」　Francois ROUSSEL 丸川誠司		
担当教員	前田 弘隆		

到達目標

(1) フランス語の綴りと音の関係を覚える。
(2) フランス語の表現構成の基本を学ぶ。
(3) 簡単な日常表現を身につける。
(4) 英語との類似点・相違点について知識を得る。
(5) 言葉が支える/言葉を支える文化について理解する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	新出語のつづりが読める	既習の単語のつづりが読める	既習の単語のつづりが読めない
評価項目2	冠詞・名詞・形容詞の性別や動詞の語尾変化が分かり、正しく変化させられる	冠詞・名詞・形容詞の性別や動詞の語尾変化が分かる	冠詞・名詞・形容詞の性別や動詞の語尾変化が分らない
評価項目3	簡単な表現が口頭で発話できる	教科書の例文を口頭で発話できる	例文の口頭発話ができない
	英仏間の語形や文型の類似点・相違点が理解できる	英仏間の語形や文型の類似点が理解できる	英仏間の関連性が理解できない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	(1) 国際的な視野拡大の一歩として、英語以外の外国語に触れる。 (2) 英語に次いで二番目に使用域のひろいフランス語の初歩を学習する。 (3) フランス語の基本を知り、簡単な会話表現を身につける。
授業の進め方・方法	講義を行う。
注意点	(1) 商船学科5年生対象の授業であること (2) 学修単位科目である意味をよく理解し、計画的な自学時間を確保すること。 (3) 新たな外国語の学習であるので、学習項目や例文の暗記が重要であること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	1 ガイダンス　Ａｌｐｈａｂｅｔ 発音　自己紹介　挨拶	シラバス確認、評価方法についての説明。 Ａｌｐｈａｂｅｔの読み方、綴りと発音の関係を理解し読むことが出来る。自己紹介ができる。挨拶が言える。
		2週		
		3週		

		4週	2 名詞の性数　冠詞　動詞etreとavoirの活用　動詞venirの活用　形容詞の性数　疑問文　所有形容詞	名詞と冠詞、所有名詞と冠詞、所有形容詞の組み合わせが分かる。動詞etre avoir venirが正しく活用できる。形容詞の性数変化が正しくできる。疑問文を作ることができる。 形容詞の組み合わせが分かる。動詞etre avoir venirが正しく活用できる。形容詞の性数変化が正しくできる。疑問文を作ることができる。
		5週		
		6週		
		7週	前期中間試験	
		8週	答案返却と解説	
	2ndQ	9週	3 動詞aller faireの活用　指示形容詞　前置詞と冠詞の縮約　人称代名詞強勢形　近接未来と近接過去　否定文　部分冠詞	疑問形容詞quelを含む文が理解できる。動詞finir voir pouvoir vouloir partirが正しく活用でき、pouvoir voukoirを用いた文が作れる。複合過去形を用いて過去形の文が作れる。
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週	前期末試験	
		16週	答案返却と解説	
後期	3rdQ	1週	4 疑問形容詞quel 動詞finir voir pouvoir vouloir partirの活用　命令形　直説法複合過去	疑問形容詞quelを含む文が理解できる。動詞finir voir pouvoir vouloir partirが正しく活用でき、pouvoir voukoirを用いた文が作れる。複合過去形を用いて過去形の文が作れる。
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週	後期中間試験	
		8週	答案返却と解説	
	4thQ	9週	5 代名動詞　中性代名詞　比較級と最上級　疑問代名詞	代名動詞が正しく活用でき、文が作れる。中生代名詞を理解する。比較級・最上級を表す文が理解できる。疑問代名詞を含む文が理解できる。
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週	学年末試験	
		16週	答案返却と解説	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	10	0	30	100
基礎的能力	60	0	0	10	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0